

2026

# ものづくり 公開セミナーガイド

研修プログラム

2026.4.1

2027.3.31

生産 / 購買・調達 / 開発・設計・技術 / ISO



# JMAセミナーご参加までの流れ

5つの  
ステップ

1

## お申込み

まずはホームページへアクセス!!

JMAマネジメントスクール



<https://school.jma.or.jp/>



2

## 受付

ホームページで  
お申込みを受け付けます。



3

## 事務手続き

開催約1ヶ月前より受講案内、  
請求書をお送りいたします。



4

## 参加料のお支払い

請求書記載の「お支払い期限」までに  
指定の銀行口座へお振込みください。  
(振込手数料は貴社にてご負担ください。)



5

## 開催当日

会場参加の方は、参加証と名刺をご持参  
ください。オンライン参加の方は、事前に  
ご案内のURLよりアクセスください。



研修ご受講



プログラム No.	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
1	生産戦略立案基本セミナー	6	1日	2026年 2027年				10月
2	工場経営のための 管理会計を活用した意思決定	6	1日	2026年 2027年		8月		11月
3	生産部門の管理者が 職場で行うべき5つのマネジメントセミナー	6	2日間	2026年 2027年				1月
4	管理・監督者のための チーム力強化実践セミナー	7	2日間	2026年 2027年				3月
5	製造業における「報連相」と 「聴き方・メモの取り方」習得セミナー	7	1日	2026年 2027年	7月			
6	管理監督者のための コーチングとマネジメント基本セミナー	7	1日	2026年 2027年			8月 2月	
7	仕事の進め方実践セミナー	8	1日	2026年 2027年				7月/10月
8	製造業の新人・若手に求められる 3つの「力」養成コース	8	1日	2026年 2027年		7月 1月		9月
9	生産部門リーダーに求められる 3つの「力」養成コース	8	1日	2026年 2027年		5月/9月/12月		6月/10月 3月
10	製造監督者に求められる 3つの「力」養成コース	9	1日	2026年 2027年		5月		3月
11	工場管理者に求められる 3つの「力」養成コース	9	1日	2026年 2027年				12月
12	困難を乗り越える考え方・スキル実践セミナー	9	1日	2026年 2027年	7月 3月			
13	リーダーシップ能力育成セミナー	10	2日間	2026年 2027年		7月		8月/12月
14	製造業における ものづくりリーダー育成セミナー	10	1日	2026年 2027年			3月	
15	現場力を鍛える「見える化」改善実践セミナー	10	1日	2026年 2027年		11月		7月 2月
16	生産技術者IEセミナー	11	2日間	2026年 2027年	6月/11月			2月
17	演習でわかりやすく学ぶ IE基礎実践セミナー	11	2日間	2026年 2027年		5月/9月		8月 2月
18	作業分析・改善セミナー	11	2日間	2026年 2027年			6月	1月
19	エルゴノミクス作業改善 生産ラインの人間工学アプローチ	12	1日	2026年 2027年				6月/12月
20	生産技術者の役割と基本知識習得セミナー	12	2日間	2026年 2027年	9月			5月
21	生産管理基礎コース	12	全3日間	2026年 2027年				6月/12月
22	生産管理システム構築コース	13	2日間	2026年 2027年				9月 3月
23	新任生産管理スタッフ早期戦力化セミナー	13	2日間	2026年 2027年	7月			
24	生産管理能力強化セミナー	13	2日間	2026年 2027年		8月		7月 1月
25	ものづくりの原理・原則を学ぶ トヨタ生産方式基礎セミナー	14	1日	2026年 2027年			1月	
26	需要予測モデルの使い方と実践セミナー	14	1日	2026年 2027年				6月/12月
27	在庫適正化スキル習得コース	14	2日間	2026年 2027年				8月/11月
28	生産管理実践シリーズ ①生産管理 本社コース ②生産管理 工場コース	15	各1日	2026年 2027年				①6月/②7月 ①2月/②3月
29	生産管理と在庫・仕掛品削減セミナー	15	1日	2026年 2027年				6月/10月/12月 2月
30	リードタイム短縮と在庫低減対策セミナー	16	1日	2026年 2027年	7月 3月			
31	品質・納期・生産性向上のための 変化点管理習得セミナー	16	1日	2026年 2027年				6月/11月 2月
32	品質問題解決に必要な見方・考え方	16	1日	2026年 2027年	10月 2月			

プログラム No	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
33	不良を出さない・作らせない生産体制の実現	17	2日間	2026年 2027年	6月/12月			
34	異物ゼロへのアプローチ実務セミナー	17	1日	2026年 2027年	5月 2月			
35	品質管理の基礎知識習得と 品質改善・最適化の進め方	17	2日間	2026年 2027年				1月
36	製品エラーを迅速・確実に解決するための FTAセミナー	18	1日	2026年 2027年	8月			
37	製品・プロセスを最適化するための 実験計画法セミナー	18	1日	2026年 2027年				8月
38	品質保証実践セミナー	18	1日	2026年 2027年	2月			8月
39	原則整備の基礎セミナー	19	半日	2026年 2027年	12月			
40	品質企画研修	19	1日	2026年 2027年		6月		12月
41	「サプライヤーの品質評価・指導演法」実践セミナー	19	1日	2026年 2027年	8月 2月			
42	「外注先の品質・納期・原価」課題解決セミナー	20	1日	2026年 2027年				5月/10月 2月
43	ポカミス防止実践セミナー	20	1日	2026年 2027年				6月/12月
44	ポカミスゼロへのアプローチ実務セミナー	20	1日	2026年 2027年	7月/11月			
45	ヒューマンエラー対策セミナー	21	1日	2026年 2027年	6月/11月		9月 2月	
46	QC実践セミナー(製造業・製造現場向け)	21	1日	2026年 2027年		6月		7月/12月 3月
47	QC実践セミナー(管理・間接・スタッフ部門向け)	21	1日	2026年 2027年				5月 1月
48	工場レイアウト設計・実践	22	1日	2026年 2027年	10月 2月	12月		
49	生産プロセス設計基本セミナー	22	1日	2026年 2027年	11月			
50	生産技術者のための 自動化の進め方基本セミナー	22	2日間	2026年 2027年			8月/11月	2月
51	ものづくりのためのデジタル技術 (IoT/AI) 活用シリーズ ①デジタル技術 (IoT/AI) 基本習得セミナー	23	1日	2026年 2027年				10月 1月
	2日間		2026年 2027年				2月	
52	改善意識と仕事力アップセミナー	23	1日	2026年 2027年				6月/9月/10月/12月 2月
53	データ分析 / AIの業務への使い方セミナー	24	1日	2026年 2027年				8月 3月
54	効率的な現場と職場をつくる楽楽5S実践研修	24	1日	2026年 2027年		5月		7月/11月
55	QCDSを高める「5S改善」実践セミナー	24	1日	2026年 2027年			8月	
56	現場が変わる 実践新5Sセミナー	25	1日	2026年 2027年	10月 2月			
57	製造現場のムダに気づく7つの視点	25	1日	2026年 2027年		10月	11月	8月 2月
58	QCDの基礎と現場改善スキル習得セミナー	25	2日間	2026年 2027年	11月		1月	
59	問題解決スキル習得セミナー	26	1日	2026年 2027年	12月			
60	「なぜなぜ分析」実践セミナー	26	1日	2026年 2027年		5月/10月		4月/6月/8月/9月/10月/11月/12月 2月/3月
61	なぜなぜ分析習得セミナー	26	1日	2026年 2027年		12月	5月	
62	改善テーマに応じた分析スキル習得セミナー	27	1日	2026年 2027年				2月
63	業務改善スキル強化セミナー	27	2日間	2026年 2027年				6月/9月 2月

プログラム No.	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
64	5S改善と見える化セミナー	27	1日	2026年 2027年		11月		9月 3月
65	「チームタスク管理」セミナー	28	1日	2026年 2027年				9月 2月
66	RPA活用入門セミナー	28	1日	2026年 2027年				10月 2月
67	DX（デジタルトランスフォーメーション） 推進セミナー	28	1日	2026年 2027年				6月 1月
68	見える化実践セミナー	29	1日	2026年 2027年				1月
69	ノンテクニカルスキル実践セミナー	29	1日	2026年 2027年	6月/11月			
70	ものづくり現場の 教育・訓練実務セミナー	29	1日	2026年 2027年	1月			
71	ものづくり担当者のための データ分析と統計学の使い方セミナー	30	2日間	2026年 2027年				11月
72	物流コスト管理基礎コース	30	1日	2026年 2027年				6月 2月
73	物流レイアウト改善セミナー	30	1日	2026年 2027年	9月 1月		6月/11月	
74	技術者のための原価計算	31	2日間	2026年 2027年	9月 3月			
75	理想原価追求による原価革新セミナー	31	2日間	2026年 2027年				7月 2月
76	コスト意識を高める損得計算入門コース	31	1日	2026年 2027年				5月/11月
77	意思決定で迷わない管理会計・経済性工学	32	2日間	2026年 2027年	10月			2月
78	設計前に製品コストを創り込む原価企画	32	2日間	2026年 2027年	3月			10月
79	“実践” 製品価値向上と コストダウン同時実現セミナー	32	2日間	2026年 2027年				3月
80	設備投資の経済計算とその活用セミナー	33	2日間	2026年 2027年				12月
81	製造段階における理想標準原価管理セミナー	33	2日間	2026年 2027年				1月
82	CPE-B級（CPE）試験対策セミナー	34	全3日間	2026年 2027年				8月/12月
83	CPF試験対策セミナー	35	1日	2026年 2027年				9月/12月

●本文中のアイコン説明●



通学



オンライン



通学もしくはオンライン

# 生産分野

## ◆ 生産技術・生産管理・品質管理・生産プロセス設計・IE・現場改善・原価管理・資格制度 他プログラム体系

◆注)：●内の数字は生産分野に掲載されているプログラムNO.です。数字のないものもしくは最新の情報については、<https://school.jma.or.jp>でご確認ください。

	若手(若手社員層(配属～5年程度))	中堅(係長・リーダー層)	マネジメント職(課長・部長・マネジメント層)
大会・研究会		ものづくり総合大会 <span style="float:right">東京</span>	
	第一線監督者の集い	GOOD FACTORY賞 受賞企業講演会	
階層別セミナー	生産部門新入社員基本コース	① 生産戦略立案基本セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
	<b>New!</b> ⑥ 製造業における「報連相」と「聴き方・メモの取り方」習得セミナー <span style="float:right">東京</span>	② 工場経営のための 管理会計を活用した意思決定 <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
	⑦ 仕事の進め方実践セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	③ 生産部門の管理者が 職場で行うべき5つのマネジメントセミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
	⑧ 製造業の新人・若手に求められる3つの「力」養成コース <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	④ 管理・監督者のための チーム力強化実践セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
	⑨ 生産部門リーダーに求められる3つの「力」養成コース <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	<b>New!</b> ⑥ 管理監督者のためのコーチングとマネジメント基本セミナー <span style="float:right">名古屋</span>	
		⑩ 製造監督者に求められる3つの「力」養成コース <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
	⑫ 困難を乗り越える考え方・スキル実践セミナー <span style="float:right">東京</span>		⑪ 工場管理者に求められる3つの「力」養成コース <span style="float:right">オンライン</span>
		生産革新プロフェッショナルコース(IE士養成コース)	
		⑬ リーダーシップ能力育成セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
		<b>New!</b> ⑭ 製造業におけるものづくりリーダー育成セミナー <span style="float:right">名古屋</span>	
		⑮ 現場力を鍛える「見える化」改善実践セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
	生産マネジメント		
IE	⑯ 生産技術者IEセミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>		
	⑰ 演習でわかりやすく学ぶ IE基礎実践セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>		
	⑱ 作業分析・改善セミナー <span style="float:right">名古屋 オンライン</span>	⑲ エルゴノミクス作業改善 生産ラインの人間工学アプローチ <span style="float:right">オンライン</span>	
生産技術	新任担当者のためのモノづくり技術入門セミナー ※プログラム詳細はP.75参照		
	治具設計ベーシックセミナー ※プログラム詳細はP.74参照		
	図面の読み方「再」入門セミナー ※プログラム詳細はP.76参照		
	図面の描き方習得セミナー ※プログラム詳細はP.76参照		
	⑳ 生産技術者の役割と基本知識習得セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>		
生産管理	㉑ 生産管理基礎コース <span style="float:right">オンライン</span>	㉒ 生産管理システム構築コース <span style="float:right">オンライン</span>	
	㉓ 新任生産管理スタッフ早期戦力化セミナー <span style="float:right">東京</span>		
	㉔ 生産管理能力強化セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>		
	<b>New!</b> ㉕ 需要予測モデルの使い方と実践セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
		㉖ 在庫適正化スキル習得コース <span style="float:right">オンライン</span>	
	<b>New!</b> ㉗ ものづくりの原理・原則を学ぶ トヨタ生産方式基礎セミナー <span style="float:right">名古屋</span>	㉘ 生産管理実践シリーズ ① 生産管理 本社コース ② 生産管理 工場コース <span style="float:right">オンライン</span>	
	㉙ 生産管理と在庫・仕掛品削減セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
	㉚ リードタイム短縮と在庫低減対策セミナー <span style="float:right">東京</span>		
	㉛ 品質・納期・生産性向上のための 変化点管理習得セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
品質管理	㉜ 品質問題解決に必要な見方・考え方 <span style="float:right">東京</span>		
	㉝ 不良を出さない・作らせない生産体制の実現 <span style="float:right">東京</span>		
	㉞ 異物ゼロへのアプローチ実務セミナー <span style="float:right">東京</span>		
		㉟ 品質管理の基礎知識習得と品質改善・最適化の進め方 <span style="float:right">オンライン</span>	
	<b>New!</b> ㊱ 製品エラーを迅速・確実に解決するためのFTAセミナー <span style="float:right">東京</span>		
	<b>New!</b> ㊲ 製品・プロセスを最適化するための実験計画法セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		

	若手(若手社員層(配属~5年程度))	中堅(係長・リーダー層)	マネジメント職(課長・部長・マネジメント層)	
専 門 セ ミ ナ ー	品質管理	38 品質保証実践セミナー <span>東京</span> <span>オンライン</span>		
		New! 39 原則整備の基礎セミナー <span>東京</span>		
		New! 40 品質企画研修 <span>大阪</span> <span>オンライン</span>		
		41 「サプライヤーの品質評価・指導法」実践セミナー <span>東京</span>		
		New! 42 「外注先の品質・納期・原価」課題解決セミナー <span>オンライン</span>		
		43 ポカミス防止実践セミナー <span>オンライン</span>		
		44 ポカミスゼロへのアプローチ実務セミナー <span>東京</span>		
		45 ヒューマンエラー対策セミナー <span>東京</span> <span>名古屋</span>		
		46 47 QC実践セミナー<製造業・製造現場向け><管理・間接・スタッフ部門向け> <span>大阪</span> <span>オンライン</span>		
		48 工場レイアウト設計・実践 <span>東京</span> <span>大阪</span>		
	49 生産プロセス設計基本セミナー <span>東京</span>			
	50 生産技術者のための自動化の進め方基本セミナー <span>名古屋</span> <span>オンライン</span>			
	51 ものづくりのためのデジタル技術(IoT/AI)活用シリーズ ① デジタル技術(IoT/AI)基本習得セミナー ② ものづくり担当者のためのスマート工場構築セミナー <span>オンライン</span>			
	製造現場改善	52 改善意識と仕事力アップセミナー <span>オンライン</span>		
		54 効率的な現場と職場をつくる楽々5S実践研修 <span>大阪</span> <span>オンライン</span>		
		New! 55 QCDSを高める「5S改善」実践セミナー <span>名古屋</span>		
		56 現場が変わる 実践新5Sセミナー <span>東京</span>		
		57 製造現場のムダに気づく7つの視点 <span>大阪</span> <span>名古屋</span> <span>オンライン</span>		
		58 QCDの基礎と現場改善スキル習得セミナー <span>東京</span> <span>名古屋</span>		
59 問題解決スキル習得セミナー <span>東京</span>				
業務改善		60 「なぜなぜ分析」実践セミナー <span>大阪</span> <span>オンライン</span>		
	61 なぜなぜ分析習得セミナー <span>大阪</span> <span>名古屋</span>			
	62 改善テーマに応じた分析スキル習得セミナー <span>オンライン</span>			
	63 業務改善スキル強化セミナー <span>オンライン</span>			
	64 5S改善と見える化セミナー <span>大阪</span> <span>オンライン</span>			
	65 「チームタスク管理」セミナー <span>オンライン</span>			
	66 RPA活用入門セミナー <span>オンライン</span>			
	67 DX(デジタルトランスフォーメーション)推進セミナー <span>オンライン</span>			
68 見える化実践セミナー <span>オンライン</span>				
労働安全	69 ノンテクニカルスキル実践セミナー <span>東京</span>			
技術伝承	70 ものづくり現場の教育・訓練実務セミナー <span>東京</span>			
データ活用	63 データ分析/AIの業務への使い方セミナー <span>オンライン</span>			
71 ものづくり担当者のためのデータ分析と統計学の使い方セミナー <span>オンライン</span>				
ものづくりの担当者のためのデータ分析研修				
物流改善	72 物流コスト管理基礎コース <span>オンライン</span>			
73 物流レイアウト改善セミナー <span>東京</span> <span>名古屋</span>				
原価管理	74 技術者のための原価計算 <span>東京</span>	75 理想原価追求による原価革新セミナー <span>オンライン</span>		
	76 コスト意識を高める損得計算入門コース <span>オンライン</span>			
	77 意思決定で迷わない管理会計・経済性工学 <span>東京</span> <span>オンライン</span>			
	78 設計前に製品コストを創り込む原価企画 <span>東京</span> <span>オンライン</span>			
	79 “実践”製品価値向上とコストダウン同時実現セミナー <span>オンライン</span>			
	80 設備投資の経済計算とその活用セミナー <span>オンライン</span>			
	81 製造段階における理想標準原価管理セミナー <span>オンライン</span>			
	82 CPE-B級(CPE)試験対策セミナー <span>オンライン</span>			
生産技術者マネジメント資格(CPE)		83 CPF試験対策セミナー <span>オンライン</span>		
第一線監督者資格(CPF)				

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

# 1 生産戦略立案基本セミナー



ID 152148

1日

## 工場としてのあるべき姿を描く

生産戦略とは何かについて体系的に理解いただきます。

ものづくりにおける最近の動向や環境変化、公開情報を通じて自社における課題を認識し、将来的に自社、自工場における生産の今後のビジョン、戦略を検討、実践を担います。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産企画部門のスタッフ</li> <li>生産技術部門の中堅技術者</li> <li>製造部門の中堅スタッフ</li> <li>工場の次期幹部候補</li> </ul>
講師	山本 真也 (株)日本能率協会コンサルティング 生産エンジニアリング革新センター シニア・コンサルタント
会期	2026年10月20日(火) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 62,700円 会員外 74,800円

**参加者の声** 4つのイノベーションの視点、生産戦略の位置づけ、成功事例等、また、他社と議論する時間が適正に設けられており、とても参考になった。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<p><b>1 ものづくりを取り巻く環境変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造業の強さは           <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり基盤、生産技術、組織力</li> </ul> </li> <li>世の中のものづくり環境変化           <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs、ESG、サプライチェーンリスク</li> </ul> </li> <li>ものづくり革新事例           <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートファクトリー、デジタルツイン、モジュラーデザイン</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2 生産戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産戦略とは           <ul style="list-style-type: none"> <li>生産戦略の構成要素</li> </ul> </li> <li>世の中の戦略の変遷</li> <li>ものづくりを通じての社会価値貢献</li> <li>生産企画           <ul style="list-style-type: none"> <li>生産拠点戦略</li> <li>内外作の最適化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからのものづくり人材の役割           <ul style="list-style-type: none"> <li>これからのものづくりにおける工場の姿</li> <li>先行生産技術の必要性</li> </ul> </li> </ul> <p><b>3 ディスカッション</b></p> <p>自社/自工場におけるあるべきものづくりを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人ワーク           <ul style="list-style-type: none"> <li>自身の業務内容の棚卸</li> <li>ものづくり人材の役割類型に照らして自身の業務、自事業部とのギャップを把握、今後のなすべきこと検討</li> </ul> </li> <li>グループでの意見交換</li> <li>発表(気づきなど)・講評</li> </ul>

# 2 工場経営のための 管理会計を活用した意思決定



ID 100395

1日

## 経理データ“直結”のコストダウンと

### 真の意思決定とは

自工場が健全で持続的に発展していくためには、工場管理者が自工場のデータから課題を発見し、決断できることが求められます。

本セミナーでは、演習を交えながら財務・管理会計諸表に対する理解を深め、そこから自工場の問題・課題を発見し、対策・解決実践できるマネジメント力を養成します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場長、副工場長、製造部長、製作所長、製造子会社社長、工場の経理・財務担当者、生産管理・企画担当者 など、工場経営に携わる方々</li> </ul>
講師	大塚 泰雄 JMA専任講師
会期	2026年 8月28日(金) 大阪 2026年11月20日(金) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 60,500円 会員外 77,000円

**参加者の声** あるべき姿を意識すること、基本機能と理想原価の説明が分かりやすかった。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<p><b>1 決算書を見て経営状況を知る</b> 一原価に関する基礎的な用語を理解し、原価のしくみを覚えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金の計算には3種類ある</li> <li>貸借対照表、キャッシュフロー計算書からわかること</li> <li>利益はどのように計算されるか</li> <li>損益計算書、製造原価報告書からわかること</li> </ul> <p><b>練習問題</b> 自社の決算書を分析してみよう</p> <p><b>2 財務会計は「診断書」。管理会計で「コストダウンの問題点」を見つける</b> 一原価にはどのような分類があるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計上の原価の分類</li> <li>管理会計上の原価の分類</li> <li>直接費・間接費、変動費・固定費とは何か</li> <li>材料費・加工費の計算のやり方</li> </ul> <p><b>練習問題</b> 財務会計上・管理会計上の分類</p>	<p><b>3 大きなコストダウンに結びつく「誰が」「何を」「どれくらい」</b> 一大きな成果は見えないロスをつぶすこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2つある原価管理の進め方「誰が」</li> <li>効果の大きいコストダウンテーマの見つけ方「何を」</li> <li>あるべき姿を描くことやすべきことが見えてくる</li> <li>事前に管理のコストダウン余地を知る「どれくらい」</li> <li>事前に改善のコストダウン余地を知る「どれくらい」</li> </ul> <p><b>練習問題</b> 管理と改善のコストダウン</p> <p><b>4 意思決定のポイントとあらゆる場面での数字の見方</b> 一何をもって判断することが正しいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定には手順と原則がある</li> <li>利益額の大きいものを選ぶケース</li> <li>効率のよいものを優先するケース</li> <li>損得の分岐点を考えるケース</li> <li>設備投資をとまなう意思決定の考え方</li> </ul> <p><b>練習問題</b> 最適案の選択</p>

# 3 生産部門の管理者が 職場で行うべき5つのマネジメントセミナー



ID 152120

2日間

## 職場で実践する5つのマネジメント

◆マネジメントの全体像を学ぶことでやるべきことを関連づけることができ、学びやすいだけでなく、マネジメントの構築の労力が最小化できます。

◆「実務をやらなければならない」、「マネジメントの時間が取れない」という管理者の悩みに対して、改めて管理者の役割と自分の行動管理についても学んでいただき、職場全員でより良い職場づくりが実践できるようにします。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>新任管理者・管理者候補</li> <li>職場での管理能力を高めたい管理者</li> <li>成果・結果を出し続ける職場を実現したい管理者</li> </ul>
講師	峯村 隆久 (株)セフィーロ 代表取締役社長 人・組織G I コンサルタント
会期	2027年 1月19日(火)~ 1月20日(水) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 124,300円 会員外 135,300円

**参加者の声** 部下への伝え方や、伝える時の表現の仕方に細やかさが重要だということを学べた。自己行動マネジメントは今後、取り入れていこうと思いました。

プログラム	
1日目	
10:00	<p><b>1 生産部門の管理者としての責任と役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業として努力していること</li> <li>管理者としての責任と役割</li> </ul> <p><b>2 実務を確実かつスムーズに遂行させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実務を確実かつスムーズに遂行するために必要なこと</li> <li>トラブルを未然に防ぐ：リスクマネジメント           <ul style="list-style-type: none"> <li>【討議】 自職場でのリスクマネジメント 実践状況と今後の対応</li> </ul> </li> <li>最善のやり方を実践できる環境をつくる：ナレッジマネジメント           <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】 自職場のノウハウの管理表をつくる</li> <li>【討議】 自職場のマニュアル類整備状況と今後の対応</li> </ul> </li> </ul>
17:00	<p><b>3 成果が出せる活力ある組織づくりをつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果が出せる活力ある組織づくりに必要なこと</li> <li>成果を確実に出す：改善マネジメント(目標管理)           <ul style="list-style-type: none"> <li>【討議】 自職場での目標展開と実績の振り返りと今後の対応</li> </ul> </li> <li>活力かつ一体感のある組織をつくる：組織マネジメント           <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】 自身の自律力を高める言葉を見つける</li> </ul> </li> </ul> <p><b>4 管理者がマネジメントの時間を確保し実践する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理者に求められる意識と行動</li> <li>管理者としての時間を意図してつくる：行動マネジメント           <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】 ToDoリストを作成する</li> </ul> </li> </ul> <p><b>5 まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【演習】 今後の実践事項</li> </ul>



## 7 仕事の進め方実践セミナー



ID100521

1日

### ～ 段取り上手は仕事上手 ～

本研修では、会社ではなかなか教わらない上手な仕事の仕方について演習やグループ研究を通じてわかりやすく学んでいただけます。

- ◆「段取り上手は仕事上手」の要点やツールを学びます。
- ◆身近な事例の「段取り計画書」を作成して、準備の大切さを認識していただけます。
- ◆段取り上手なやり方に学び、行動する力をつけます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若手社員の方（入社3年目以上の方）</li> <li>● 仕事の基本を振り返り・見直したい中堅社員の方 ※業種・職種に関係なく参加できます。</li> </ul>
講師	● 島田 一弘 JMA専任講師
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月24日(金) オンライン</li> <li>● 2026年10月15日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 56,100円</li> <li>● 会員外 61,600円</li> </ul>



参加者の声 全体把握することでモチベーションアップにつながり、何をいつまでに終わらせるか等明確にできました。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 段取りは仕事の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 段取りの重要性と基本ステップ</li> <li>● 段取りがうまくなるポイント <b>演習</b></li> <li>● 段取り上手な人のミス防止 <b>演習</b></li> </ul>	<b>3 より良いやり方に学ぶ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 良いやり方/良くないやり方 比較例</li> <li>● フローチャートにすると手順がわかりやすい <b>演習</b></li> <li>● 初めて会う人との段取り <b>グループ研究</b></li> <li>● 1日の段取り～何から先にしますか？～</li> <li>● 報告・連絡・相談をしっかりとやろう <b>演習</b></li> <li>● 「うまくいかないこと」は、「なぜ」「なぜ」で改善しよう！ <b>演習</b></li> </ul>
<b>2 段取り上手は仕事上手</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 段取りに必要なスキル</li> <li>● GOAL（あるべき姿）と目標を考える <b>グループ研究</b></li> <li>● 手順計画と留意点 <b>グループ研究</b></li> <li>● 時間見積りと短縮の方法 <b>演習</b></li> <li>● 進捗状況の「見える化」</li> </ul>	<b>4 研修まとめとアクションプラン</b> <p>研修で学んだことを自身のアクションプランに落とし込みます。上司や先輩と、「仕事の進め方」で変えることを共有していただくことができます。</p>

## 8 製造業の新人・若手に求められる3つの「力」養成コース



ID150732

1日

### モノづくりゲームで全体像を理解する

◆モノづくりの設計～購買～製造～販売のプロセスを理解し、QCDSを高めるための改善策を考え、製造現場の改善を推進できる若手スタッフを育成します。若手の動機づけや早期戦力化に最適なプログラムです。

対象	● 製造、設計、開発部門の若手・新人、サポートスタッフ（間接部門）の方
講師	● 石川 秀人 コンサルソーシング(株) エグゼクティブ・コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月22日(水) 大阪</li> <li>● 2026年 9月 2日(水) オンライン</li> <li>● 2027年 1月19日(火) 大阪</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>



参加者の声 これまで受けた研修で一番わかりやすかった。ものづくりの考え方や5Sなどなぜ重要か理解できて今後の業務に活かしていきたいです。

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
<b>1 モノづくり基礎力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 後工程はお客様</li> <li>● Quality（品質）の基本</li> <li>● Cost（コスト）の基本</li> <li>● Delivery（納期）の基本</li> <li>● Safety（安全）の基本</li> <li>● ムリ、ムラ、ムダの理解</li> <li>● 製造現場の7つのムダ</li> <li>● 4M視点でムダの抽出 <b>演習</b></li> </ul>	<b>3 5S改善力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バラツキを排除し仕事を安定させる</li> <li>● お掃除、お片付けではない</li> <li>● モノの5Sの進め方</li> <li>● IE（Industry Engineering）の考え方</li> <li>● 改善ストーリーの回し方</li> <li>● 5Sから標準化へ</li> <li>● 5S改善ゲーム演習 <b>模型組み立て5Sのグループワーク</b></li> <li>● オフィスの5Sの進め方</li> <li>● 仕事の5Sの理解 <b>演習</b></li> </ul>
<b>2 コミュニケーション力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● チームワークの理解</li> <li>● メッセージを共有するためのポイント <b>演習</b></li> <li>● 仕事の流れの理解</li> <li>● 仕事の指示の受け方 <b>演習</b></li> <li>● 報連相の仕方 <b>演習</b></li> </ul>	<b>4 課題認識と振り返り</b> <b>まとめシート</b>

## 9 生産部門リーダーに求められる3つの「力」養成コース



ID151313

1日

多くの企業で進められている業務効率化においてアウトソーシング化や専門化が進み、業務全体の流れを広い視野で俯瞰する力や、他部門を巻き込む力が養われにくい傾向があります。

リーダーに求められる力を、①日常管理能力、②チームビルディング力、③問題認識解決力の3つに整理し、学ぶことで明日からするべきことが明確になります。変化が激しい今だからこそ生産部門を力強く牽引するリーダーが求められています。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産部門、製造部門、製造現場関連のリーダー</li> <li>● 現場改善リーダー</li> <li>● 次期リーダー候補の方</li> </ul>
講師	● 石川 秀人 コンサルソーシング(株) エグゼクティブ・コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月26日(火) 大阪</li> <li>● 2026年 6月17日(水) オンライン</li> <li>● 2026年 9月15日(火) 大阪</li> <li>● 2026年10月15日(木) オンライン</li> <li>● 2026年12月 2日(水) 大阪</li> <li>● 2027年 3月10日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>



参加者の声 自分に不足しているものが何か、はっきり自覚できました。明日からの姿勢を変えていきます。

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
<b>1 職場リーダーに必要な日常管理能力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 維持管理能力を高める</li> <li>● リーダーの役割は当たり前のことを当たり前にする</li> <li>● ルールが守れない8つの要因</li> <li>● ルールを決めて守らせる</li> </ul>	<b>3 問題認識解決力を高める (IoTなどに活かすための課題認識)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データの取り方/分析の進め方</li> <li>● QC7つ道具の理解と使い方</li> <li>● 新QC7つ道具の理解と使い方</li> <li>● QC的問題解決ストーリー</li> <li>● PDCAサイクルを回す <b>演習</b></li> </ul>
<b>2 チームビルディング力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リーダーに必要な要素</li> <li>● コーチングの5段階</li> <li>● 権限委譲を進めるエンパワーメント</li> <li>● プロセスを設計管理するファシリテーション</li> <li>● 仕事の指示の仕方/受け方</li> <li>● 報連相の仕方/させ方</li> <li>● 褒め方/叱り方の基本と応用</li> </ul>	<b>4 課題認識と振り返り</b>

## 10

## 製造監督者に求められる3つの「力」養成コース



ID 151314

1日

生産現場で監督者に求められる役割は多岐にわたります。その中でも重要な役割として「計画通りに実行できている」「決められたことを確実に実行すること」です。

モノづくりのプロとして現場で生産に必要な要因系（インプット）のアイテムを管理するためのスキルと現場改善の基本を定着させる力など、変更管理力・4M管理力・現場改善力を養います。

対象	● 係長・工長・主任・職長・作業長・ラインリーダー・班長・組長・監督者 ● 次期候補の方
講師	● 石川 秀人 コンサルソーシング(株) エグゼクティブ・コンサルタント
会期	● 2026年 5月27日(水) 大阪 ● 2027年 3月 2日(火) 横浜
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 ● 会員外 71,500円



他の参加者や講師と対話しながら進み、自分の不足している部分を考えることができた。

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
1 監督者に必要なものは予測し未然防止する力 (異常感知・品質トラブル・納期遅れ・労災) ● 維持管理と変更管理 ● 4M変化点管理の重要性 ● 異常を見える化し処置する	3 現場改善力を高める ● 現場改善のステップ ● 山積表の作成 ● 手待ち・仕掛品をなくす ● ゲームで理解する改善実践演習 <b>グループワーク</b>
2 4M改善力を高める ● Man (人) の見える化と改善策 ● Machine (設備・機械) の見える化と改善策 ● Method (やり方・方法) の見える化と改善策 ● Material (材料) の見える化と改善策	4 課題認識と振り返り <b>まとめシート</b>

## 11

## 工場管理者に求められる3つの「力」養成コース



ID 151315

1日

本セミナーでは、工場管理者のみなさまが部門経営の視点から経営目標達成に貢献するために求められる役割を①方針管理力②ムダ取り改善力③QCDS管理力の3つの視点に整理し、解説します。部門経営に携わる方におすすめのプログラムです。

対象	● 工場を部門単位で管理されている方、または候補者 ● 製造管理者
講師	● 石川 秀人 コンサルソーシング(株) エグゼクティブ・コンサルタント
会期	● 2026年12月23日(水) 横浜
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 ● 会員外 71,500円



参加者同士で意見交換でき大変よかった。シミュレーションゲームはすばらしい体験でした。

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
1 工場管理者に必要な方針管理力 <b>演習</b> ● 日常管理と方針管理の違い ● 結果指標と管理指標 ● ひとつづくり	3 QCDS管理力を高める <b>事例研究</b> ● Quality (品質) を高める …初品管理、初物、終物管理など ● Cost (コスト) …利益=売価-原価で原価低減をはかる、原価企画など ● Delivery (納期) …DR (デザイン・レビュー)、生産準備計画書など ● Safety (安全) …KYTなど
2 ムダ取り改善力を高める <b>演習</b> ● なぜムダを認識できないのか？ 4M視点でムダに気づこう！ ①加工そのもののムダ ②不良をつくるムダ ③運搬のムダ ④つくり過ぎのムダ ⑤在庫のムダ ⑥動作のムダ ⑦手待ちのムダ	4 課題認識と振り返り

## 12

## 困難を乗り越える考え方・スキル実践セミナー



ID 152492

1日

しなやかに克服する力「レジリエンス力」を養う

常日頃から負担をためない、困難な状況に直面したとき着実に努力できる、折れないための考え方・スキルを理解し、講師の実演や受講生同士の実習を通じて体験的に習得します。

対象	● 折れない自分をつくりたい方 ● 困難を克服できるメンバーを育てたい方 ● ねばり強く努力を続けられる自分をつくりたい方 ● しなやかに克服するチームをつくりたいと思っている方
講師	● 高橋 澄子 (株)MOMO 代表取締役 公認心理師・経営コンサルタント 米国CTI認定プロコーチ 産業カウンセラー
会期	● 2026年 7月17日(金) 東京 ● 2027年 3月11日(木) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 ● 会員外 71,500円



自分の判断や満足感、達成感の源がよく理解できた。気づきをたくさん得られた事に感謝します。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 なぜ困難に乗り越える 考え方・スキルが必要なのか	● 不安を解消する <b>全体実習</b> 「認める・ほめる」声かけで自信を育てる
2 乗り越える力を育む ● プレッシャーを受けとめ感情をコントロールする <b>ペア実習</b> 日々リセットするための生活習慣 <b>全体実習</b> 簡単な瞑想(呼吸法)実践 ● 良好な人間関係を築く <b>講師実習</b> 相手を受け入れ深く聴く「話の聴き方」 <b>ペア実習</b> 「話の聴き方(傾聴)」練習	● 自分の軸を大切にする <b>講師実習</b> 奥にある「価値観」の探し方 <b>全体実習</b> 「価値観」を探す実習
	3 レジリエンスの高いチームづくり <b>グループ実習</b> 「レジリエンスを高めるには…」

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

# 13 リーダーシップ能力育成セミナー



ID150887

2日間

「あの人のもとで働きたい」といわれるリーダーになろう!

リーダーは、「こんな職場にしたい」という目標をもち、日々の仕事を実践するとともに、職場の抱える課題を解決していく必要があります。講義、演習、グループ研究をとおして、基本能力・スキルが習得できます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームリーダー、管理・監督者、主任クラスの方</li> <li>新しくチームリーダーになられた方</li> <li>次期リーダー候補の方</li> </ul>
講師	島田 一弘 JMA専任講師
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 7月15日(水)～7月16日(木) 大阪</li> <li>2026年 8月27日(木)～8月28日(金) オンライン</li> <li>2026年12月15日(火)～12月16日(水) わいわい</li> </ul>
参加料(税込)	1名につき 法人会員 93,500円 会員外 104,500円

参加者の声 自分がやる気になるだけではダメで、部下のやる気を引き出すことが大切だと身にしました。

プログラム	
2日間	
10:00	<b>1 リーダーの役割と目指すべき姿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーの役割</li> <li>良くないリーダーと良いリーダー <b>グループ研究</b></li> <li>管理の目標 (生産性、品質、コスト、納期、安全、やる気)</li> <li>P-D-C-Aを回す</li> <li>リーダーの目指す姿 <b>個人研究</b></li> <li>自分の強みと弱み <b>グループ研究</b></li> </ul>
17:00	<b>2 目標を達成させる活力ある職場づくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>良いチームづくりのポイント</li> <li>目標による管理</li> <li>「報・連・相」とコミュニケーション <b>グループ研究</b></li> <li>人はどんなときに「やる気」になるのか</li> <li>問題/異常の見える化 <b>グループ研究</b></li> <li>故障・トラブル半減への取り組み <b>グループ研究</b></li> </ul>
	<b>3 「なぜなぜ検討」で実行力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の見つけ方</li> <li>問題整理と共有化 <b>グループ研究</b></li> <li>原因分析「なぜなぜ検討」</li> <li>「なぜなぜ検討」の活用例</li> <li>対策と行動計画づくり</li> <li>「なぜなぜ検討」原因分析・対策づくり <b>グループ研究</b></li> </ul>
	<b>4 指導スキルを高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導の基本的な態度</li> <li>特性にあった「ひと押し」で人は動く <b>ミニロールプレイング</b></li> <li>指導スキルを高めるポイント</li> <li>私の職場の良い習慣づくり <b>個人研究</b></li> <li>ケース研究</li> <li>このような人をどう指導していきませるか <b>グループ研究</b></li> </ul>
	<b>5 研修まとめとアクションプラン</b>

# 14 製造業におけるものづくりリーダー育成セミナー

NEW



ID152537

1日

現場・職場のエンゲージメント向上をはかる

昨今の人手不足に直面する中で、人材流出を防ぎ、組織の成長を実現するためには、リーダーが部下との良好な人間関係を保つことが不可欠です。「ものづくりは人づくり」という言葉が示すように、現場の第一線で活躍するリーダーの役割は非常に重要です。本セミナーでは、その現場リーダーに必要な知識とスキルを習得していただくことを目指します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造部門のリーダーおよび候補者</li> <li>現場の第一線監督者</li> </ul>
講師	石川 秀人 コンサルソーシング(株) フェロー・コンサルタント
会期	2027年 3月12日(金) 名古屋
参加料(税込)	1名につき 法人会員 55,000円 会員外 66,000円

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 ものづくりリーダーに必要な要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員エンゲージメント</li> <li>コーチングの5段階</li> <li>権限委譲を進めるエンパワーメント</li> <li>プロセスを設計管理するファシリテーション</li> <li>リーダーシップについて</li> <li>仕事の教え方</li> <li>報連相のやり方、させ方</li> </ul>
2 リーダーに必要な5Sの進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>5Sをお掃除、お片付け仕事にさせない</li> <li>5SをツールにしてQCDSを高める</li> <li>5Sをさせることでリーダーシップを発揮する</li> </ul>
3 改善ストーリー(PDCAサイクル)を回しQCDSを高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-品質管理と品質保証</li> <li>C-原価低減の基本的考え方</li> <li>D-つくるスピード(原単位)を意識させる</li> <li>S-ケガをさせない職場づくり <b>グループ演習</b> 作業改善を体験・実践する</li> </ul>

# 15 現場力を鍛える「見える化」改善実践セミナー

改訂



ID100694

1日

DXで数値が見えた後の「改善」できていますか?

見える化を7つの視点でとらえ、現場のマネジメント力を高めるスキルやノウハウを分かりやすく説明します。

研修後には、現場の姿形が変わり、ムダが見えるようになり、改善が日々継続して行われる力が付きます。

改善で不平不満が減少し活性化した職場となるリーダーを育成します。

対象	管理・監督者、製造リーダー
講師	石川 秀人 コンサルソーシング(株) エグゼクティブ・コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 7月14日(火) オンライン</li> <li>2026年11月10日(火) 大阪</li> <li>2027年 2月 9日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	1名につき 法人会員 60,500円 会員外 71,500円

参加者の声 さまざまな見える化を学べた。異業種の方の見方や考え方がとても参考になった。

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
1 現場リーダーに求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果をもとにしたマネジメントから、結果をつくるマネジメントへ</li> <li>結果指標と管理目標の検討</li> <li>リーダーに求められる7つの見える化</li> </ul>
2 「モノ」の見える化	<ul style="list-style-type: none"> <li>モノの見える化で、戸惑い・探索・間違い等をなくす</li> <li>ゲームで理解する2S改善の進め方 <b>演習</b></li> </ul>
3 「4M」の見える化	<ul style="list-style-type: none"> <li>Man、Machine、Method、Materialそれぞれの見える化 (演習含む)</li> </ul>
4 「QCDS」、「情報」、「日常管理」、「方向性・思い」、「全体・経営」の見える化	

# 16 生産技術者IEセミナー



ID100340

2日間

企業業績に直結する生産性向上活動の展開  
～ものづくりのプロを目指すIE必須セミナー～

- ◆IEの基本技術から、高度システム対応の技術まで網羅しています。
- ◆革新的成果につながるデザインアプローチによる改善手法が身につきます。
- ◆オペレーションレベルから戦略レベルまでのIEを展開します。
- ◆IEの方法・時間研究技術のノウハウを開発設計のレベルにも適用します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産技術部門スタッフ</li> <li>● 生産管理・工場管理部門スタッフ</li> <li>● 製造部門スタッフ</li> <li>● IEについて学びなおしたい方</li> </ul>
講師	● 添田 英敬 (株)MEマネジメントサービス 取締役 マネジメントコンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月22日(月)～ 6月23日(火) 東京</li> <li>● 2026年11月12日(木)～11月13日(金) 東京</li> <li>● 2027年 2月 4日(木)～ 2月 5日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 124,300円</li> <li>● 会員外 135,300円</li> </ul>



参加者の声 IEの基礎から学ぶことができました。各数値の算出方法や考え方など今後の業務に生かしたいと思えます。

プログラム	
	2日間
10:00	<b>1 IEと生産システムの基本</b> -5つの生産要素の最適組み合わせ-  <b>2 標準作業方法の設計</b> -現状の標準から改善後の標準へ- 演習 工数のロス  <b>3 業績に直結する改善活動</b> -どれくらい改善できるかが判る- 演習 改善の原則 演習 切削時間を短縮してみよう  <b>4 生産量による生産形態の選択</b> -生産性の高い作り方を選択- 演習 ライン・セル・機能別生産
17:00	<b>5 最小工程・工数をねらう工程設計</b> -新規工程設計から類似設計へ-  <b>6 セル・ライン生産方式の設計</b> -柔軟で迅速な生産方式の設計- 演習 同期ライン編成  <b>7 標準時間の設定</b> -標準時間資料で事前の時間設定- 演習 標準時間設定問題 演習 標準時間資料の作成  <b>8 工数・設備効率管理のやり方</b> -作業中のロスを見える化する- 演習 工数と時間のロス 演習 工数効率計算問題

# 17 演習でわかりやすく学ぶ IE基礎実践セミナー



ID100341

2日間

徹底的なムダ排除でコストダウン

- ◆原価低減に必要な「ムリ・ムダ・ムラ」の一掃。IEを活用した効果的な手法を習得します。
- ◆仕事を観察・分析し、問題点を見つけて、メンバーの知恵をうまく活用しつつ改善する力がつきます。
- ◆IE手法で生産性の高い職場を実現し、コストダウンを達成したい方におすすめのプログラムです。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産技術者、改善スタッフの方</li> <li>● 現場リーダー、現場管理者の方</li> <li>● 海外工場で指導される方</li> <li>● 小集団活動のリーダーの方</li> </ul>
講師	● 島田 一弘 JMA専任講師
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月27日(水)～ 5月28日(木) 大阪</li> <li>● 2026年 8月20日(木)～ 8月21日(金) オンライン</li> <li>● 2026年 9月 8日(火)～ 9月 9日(水) 大阪</li> <li>● 2027年 2月 4日(木)～ 2月 5日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 93,500円</li> <li>● 会員外 104,500円</li> </ul>



参加者の声 テーマ毎の演習が多く、テキストの内容を体感・実感する事ができた。自分になかった発見が聴けたので今後活かしていきたいです。

プログラム	
	2日間
10:00	<b>1 IEとは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IE改善手法とは</li> <li>● ムダの種類</li> <li>● 改善に取り組みステップ(ムダの見える化)</li> </ul> <b>2 工程分析と改善演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ものの流れと問題点の把握</li> <li>● 加工・運搬・停滞・検査</li> <li>● 改善の着想の4原則</li> <li>● 現状分析～改善案の作成</li> </ul> <b>3 動作分析と改善演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 動作分析・時間測定</li> <li>● 改善の着眼点</li> </ul> <b>4 連合作業分析と改善演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人と機械の関連を見える化～手持ちのムダ～</li> <li>● 連合作業分析</li> <li>● 改善着眼点</li> </ul>
17:00	<b>5 ワークサンプリングによるロスの大きさの把握</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的と対象のすめ方</li> <li>● 稼働内容をつかむ</li> <li>● ロスの定量化と改善着眼点</li> </ul> <b>6 ライン作業の分析と改善演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● まとめ生産・ライン生産・セル生産</li> <li>● 仕事の分担の上手なやり方</li> <li>● ラインバランス改善</li> <li>● 稼働率と停止ロス</li> <li>● 故障停止ロスと改善</li> </ul> <b>7 段取り替え分析と改善演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 段取り時間半減化とその必要性</li> <li>● 段取り分析と改善のポイント</li> <li>● マンガで改善のヒントをつかもう</li> </ul> <b>8 研修のまとめ</b>

# 18 作業分析・改善セミナー



ID150783

2日間

現場作業の見える化・定量化・チャート化ができるようになる

改善による成果を大きくするためには、生産現場でどのようなムダが発生していて、どの程度の大きさなのかを把握することが重要です。IEの基礎要素をビデオ演習などを通じて実践的に学び、現場の生産性向上のために重要なスキルを習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造部門スタッフ</li> <li>● 生産技術部門スタッフ</li> <li>● 工場管理部門スタッフ</li> <li>● 改善の進め方に関して学びたい方</li> </ul>
講師	● 峯村 隆久 (株)セフィーロ 代表取締役社長 人・組織GIコンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月11日(木)～ 6月12日(金) 名古屋</li> <li>● 2027年 1月25日(月)～ 1月26日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 124,300円</li> <li>● 会員外 135,300円</li> </ul>



参加者の声 IEに関する基礎的な知識を得ることが出来ました。また、講義間の演習により、実践的な考え方を学べました。

プログラム	
	2日間
10:00	<b>1 IEスキルを身に着ける意義</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現場に潜むムダの種類</li> <li>● IEとは</li> <li>● IEによるムダの見える化と改善のアプローチ</li> <li>● IEスキルを身に着けることの意義</li> </ul> <b>2 改善の進め方とタイムスタディー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改善マインドとモーションマインド</li> <li>● ワークユニット(作業を扱いやすい単位に区分する)</li> <li>● タイムスタディー</li> <li>● ビデオ演習 作業を扱いやすい単位に区分する</li> <li>● ビデオ演習 作業を時間でとらえる</li> <li>● 改善アイデアの出し方と改善のまとめ方</li> <li>● ビデオ演習 改善策をまとめてみる</li> </ul> <b>3 ライン作業分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ライン作業の定義とその特徴</li> <li>● ライン作業分析(ピッチダイヤグラム)</li> <li>● ピッチダイヤグラムとは</li> <li>● ピッチダイヤグラムの作成手順</li> <li>● 演習 ピッチダイヤグラムを作成する</li> </ul>
17:00	<b>4 連合作業分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 連合作業の定義とその特徴</li> <li>● 連合作業分析(M-Mチャート)</li> <li>● 連合作業分析とは</li> <li>● 連合作業分析の作成手順</li> <li>● 演習 M-Mチャートを作成する</li> <li>● ビデオ演習 M-Mチャートを作成する</li> <li>● ビデオ演習 連合作業の改善策を検討する</li> <li>● M-Mチャートの段取改善への適用</li> </ul> <b>5 工程分析・経路分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 工程分析の種類と活用する方法</li> <li>● 工程の流れを見える化する分析</li> <li>● 演習 アッセンブリーチャートを描いてみる</li> <li>● モノの流れを見える化とレイアウト改善</li> <li>● 演習 フローダイヤグラムを作成し、レイアウト改善</li> </ul>

# 19

## エルゴノミクス作業改善 生産ラインの人間工学アプローチ



ID100343

1日

### “人に優しい” 工程設計の実現

エルゴメソッドは、IEと人間工学を融合させた作業改善手法です。体の使い方に目を向けたアプローチで多くの問題点に気づき、生産性向上と労働安全衛生管理の質向上を両立させます。本セミナーでは、エルゴノミクスの基本を学び、実際の工程設計や作業改善に活用できるようにすることを目的としています。

- エルゴメソッド3つの特長
- ①有効性：分析を通して作業の問題点や改善箇所がわかる
  - ②効率性：現状分析および改善検討期間が短い
  - ③容易性：短い期間で改善手法の習得が可能

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産技術部門、製造部門の方</li> <li>● 労務・労働安全衛生管理部門の方</li> <li>● シニアや女性の就業比率が高い作業職場の方</li> <li>● 重い物のハンドリング作業が多い職場の方</li> </ul>
講師	● 小田 哲 (株)日本能率協会コンサルティング
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月11日(木) オンライン</li> <li>● 2026年12月 9日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

参加者の声 人間特性と作業設計との関係が良くわかった。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<p><b>1 エルゴノミクスとは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エルゴノミクスが生まれた背景、必要性を知る</li> <li>● エルゴノミクスとは ● エルゴノミクスの分野</li> <li>● エルゴノミクスの歴史</li> <li>● 日本におけるエルゴノミクスの重要性</li> </ul> <p><b>2 身体エルゴノミクス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エルゴノミクスを使って作業の分析、計測、評価を行う</li> <li>● 疲労の種類とエルゴノミクス作業改善の対象</li> <li>● エルゴノミクス分析の経緯</li> <li>● 従来の改善活動 ● エルゴノミクス分析とは</li> <li>● エルゴノミクス分析の着眼点</li> <li>● 2つのシーケンス ● 3つのパラメータ</li> <li>● 姿勢について ● 作業姿勢評価のデータカード</li> <li>● 動作の選択 <b>分析演習</b></li> </ul> <p><b>3 身体負荷低減の改善手法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エルゴノミクス観点から作業を改善する</li> <li>● 改善実施手順 ● 作業分析</li> <li>● 改善の4原則 ECRS ● 動作経済の原則</li> </ul>	<p><b>4 認知エルゴノミクス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産ラインの設計とマネジメントに必要な人間の特性を知る ● 視覚 ● 聴覚 ● 意識</li> </ul> <p><b>5 シニアに優しい職場づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 身体特性からみた職場づくり</li> <li>● 情報処理の特性からみた職場づくり</li> <li>● 視覚特性からみた職場づくり</li> <li>● 聴覚特性からみた職場づくり</li> <li>● 皮膚感覚からみた職場づくり</li> <li>● 嗅覚・味覚からみた職場づくり</li> </ul> <p><b>6 オフィスのエルゴノミクス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職場環境 ● VDT作業</li> </ul> <p><b>7 まとめ</b></p> <p>&lt;受講者特典&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① エルゴ分析データ・カード</li> <li>② エルゴノミクス自己診断表</li> </ul>

# 20

## 生産技術者の役割と基本知識習得セミナー



ID152441

2日間

### 生産技術者が果たすべき3つの役割

「①最適生産方式を追求するモノ創り」「②人が支える自動化モノ作り」「③迅速かつ柔軟なモノ造り」の3つは共通の役割です。モノづくりの立役者となる生産技術に焦点を当て、今後期待される役割と果たすべき役割について学んでいただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産技術部門スタッフ</li> <li>● 生産管理・工場管理部門スタッフ</li> <li>● 製造部門スタッフ</li> </ul>
講師	● 添田 英敬 (株)MEマネジメントサービス 取締役 マネジメントコンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月25日(月)~ 5月26日(火) オンライン</li> <li>● 2026年 9月 8日(火)~ 9月 9日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 118,800円</li> <li>● 会員外 130,130円</li> </ul>

プログラム	
2日間	
10:00	<p><b>1 生産技術者に必要なIEと原価知識</b> —全体最適のための経営視点—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産技術者の組織上の役割とスキル</li> <li>● 生産技術者の業績向上に果たす役割</li> <li>● 生産技術者に必要なIE知識</li> <li>● 労働生産性向上に寄与する投資</li> <li>演習 投資の回収計算で正しい選択が?</li> <li>● 生産性の改善と管理の2つの側面</li> <li>演習 茄子ラインの改善と管理ロス</li> <li>● 生産技術者に必要な原価知識</li> <li>演習 改善と管理のCD効果を計算</li> </ul> <p><b>2 最適生産方式を追求するモノ創りの役割</b> —生産技術力で業績に貢献—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アウトプットの規定後にインプット</li> <li>● 標準作業方法・標準時間の設定</li> <li>● 設計アプローチで最適生産を構築</li> <li>● 最適設備は加工点設計から</li> <li>演習 設備効率問題</li> <li>● 不良の出ない設備の設計</li> <li>演習 標準偏差の計算</li> <li>● 基本機能だけで作業・工程をつなぐ</li> <li>演習 ロボット作業の改善</li> <li>● 生産量に合う生産形態の選定</li> </ul>
17:00	<p><b>3 人が支える自動化モノ作りの役割</b> —使いやすい生産システムの提供—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動化対象を絞り込む</li> <li>● 残り手扱い最少の原則</li> <li>演習 検査の自動化改善例</li> <li>● 人にやさしい自動化の推進</li> <li>演習 人間工学に学ぶ人と機械の特性</li> <li>● 技能伝承の手順</li> <li>● 機械化は段取作業を増やす</li> <li>演習 段取り改善の手順</li> <li>● 管理しやすい製造方式を提供</li> <li>● 製造のKPI向上に貢献</li> <li>演習 工数・設備効率の一体測定</li> </ul> <p><b>4 迅速かつ柔軟なモノ造りの役割</b> —デジタルで繋がるスマート工場—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● マス・カスタマイゼーションの進展</li> <li>● 標準化で設計部門と連携強化</li> <li>演習 標準化のステップ</li> <li>● 迅速性は同期、柔軟性は在庫を使う</li> <li>● 顧客と繋がるスマート工場に向けて</li> <li>演習 デジタル・マニュファクチャリング</li> <li>● スマート工場現場はどう変わるか</li> <li>● SCMIは生産管理の役割</li> <li>● 生産技術者のスキルアップ</li> </ul>

# 21

## 生産管理基礎コース



ID100449

全3日間

### 講義と演習・事例を取り入れた実践的プログラム

- ◆ 生産管理・計画について基本を体系的に整理、習得。
- ◆ 豊富な演習・事例により、すぐに業務に役立てられます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理部門の初級スタッフ</li> <li>● 現場監督業務に携わる方々</li> <li>● 生産系情報システムに携わる方々</li> <li>● 在庫管理、資材購買業務に携わる方々</li> <li>● 生産管理部門の教育企画担当者、インストラクター</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 河合 友貴 (株)日本能率協会コンサルティング チーフ・コンサルタント</li> <li>● 沼田千佳子 (株)日本能率協会コンサルティング チーフ・コンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月10日(水)~ 6月12日(金) オンライン</li> <li>● 2026年12月 9日(水)~12月11日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全テーマ1名につき 法人会員 167,420円</li> <li>● 会員外 202,400円</li> <li>● 1テーマ1名につき 法人会員 61,600円</li> <li>● 会員外 72,600円</li> </ul>

プログラム			
	1日目	2日目	3日目
10:00	<p>[テーマ1] 生産管理概論</p> <p>生き残りのために求められる「生産管理」とは?!</p> <p><b>1 生産管理とは</b> 演習</p> <p><b>2 生産管理の目的</b> 演習</p> <p><b>3 基本的な生産管理方式</b> 演習</p> <p><b>4 生産管理課題抽出・整理</b> 演習</p> <p><b>5 生産管理システム構築の考え方と改善事例</b> 演習</p>	<p>[テーマ2] 生産システム論</p> <p>生産システムを活かす生産管理のあり方</p> <p><b>1 生産システムとは</b> 演習</p> <p><b>2 生産方式の特徴</b> 演習</p> <p><b>3 生産方式に応じた生産管理方法</b> 演習</p> <p><b>4 生産システム&amp;生産管理改革事例</b> 演習</p>	<p>[テーマ3] 生産計画論</p> <p>生産計画策定の仕組み</p> <p><b>1 SCMと生・販・在</b> 演習</p> <p><b>2 生産計画</b> 演習</p> <p><b>3 現場計画(スケジュールリング)</b> 演習</p> <p><b>4 生産計画の展開方法</b> 演習</p>
17:00			

参加者の声 具体例を挙げて説明していただいていたおかげで、自社製品に置き換えた場合はどのようになりそうか? イメージができました。

## 22 生産管理システム構築コース



ID 100346

2日間

業務改革を実現し競争力のあるシステムを構築するには!?

生産管理システム導入において、生産管理業務改革構想立案から、システムの設計・開発・定着化までのプロセスを迅速かつ確に推進するために必要な分析技術や知識を体系的に学ぶものです。

演習・事例を豊富に取り入れすぐに業務に役立てていただけます。

対象	● 生産管理部門長、担当者 ● 生産管理システムの導入検討プロジェクトメンバー ● システムベンダー
講師	● 三鍋 遼大 ㈱日本能率協会コンサルティング チーフ・コンサルタント
会期	● 2026年 9月17日(木)～ 9月18日(金) 〆ライ ● 2027年 3月 4日(木)～ 3月 5日(金) 〆ライ
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 121,000円 ● 会員外 132,000円



参加者の声 具体的案件の演習を通して、進め方についてよく理解できました。

プログラム		
	1日目	2日目
10:00	<b>【1日目】 基礎知識編</b> <b>1 生産管理とは</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産管理の機能</li><li>生産管理の目的</li></ul> <b>2 生産管理システム構築の考え方</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産管理システムとは</li><li>生産管理システム構築における一般的な問題点</li><li>生産管理システム導入成功のキーポイント</li></ul> <b>3 生産管理システム構築の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産管理システム構築基本ステップ</li><li>業務改革構想～要求分析の進め方</li></ul> <b>4 ケーススタディ演習準備</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ケース事例の読み込み</li></ul>	<b>【2日目】 ケーススタディ演習編</b> <b>1 業務改革構想の立案</b> <ul style="list-style-type: none"><li>現状分析</li><li>問題抽出と対策方向づけ</li><li>改革テーマの策定</li><li>実行計画の立案</li></ul> <b>2 要求分析の実施</b> <ul style="list-style-type: none"><li>改善策具体化</li><li>構想策定</li></ul> <b>■生産管理システム導入事例紹介</b>
17:00		

## 23 新任生産管理スタッフ早期戦力化セミナー



ID 100349

2日間

生産管理業務に必要な知識、スキル、考え方を学ぶ

◆生産管理業務における基礎的な知識を押さえます。

◆市場とリンクする生産管理の考え方やノウハウを学びます。

対象	● 生産管理部門に配属された新入社員の方 ● 異動などで生産管理部門に新規配属となった担当者の方 ● 生産管理の基本を体系的に身につけたい方
講師	● 加藤 治彦 JMA専任講師 ㈱アイ・ティ・アイ 代表取締役社長
会期	● 2026年 7月 7日(火)～ 7月 8日(水) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 121,000円 ● 会員外 133,650円



参加者の声 大きく変化する時代への対応のために必要とされる生産管理の実践論を体系的に学べた。

プログラム	
	2日間
10:00	<b>1 早期戦力化のためにあるべき姿を理解する</b> <ul style="list-style-type: none"><li>なぜ生産管理が重要なのか</li><li>時代の変化を把握しよう</li><li>受身の生産管理から脱却しよう</li></ul> <b>2 生産管理に役立つ手法を身につける</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産現場へ入り込むための基礎知識</li><li>現場とのコミュニケーションにはキーがある：上手な現場の歩き方</li><li>生産現場との正しい関係とは</li></ul> <b>3 生産計画の基本を知る</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産計画はこうありたい</li><li>生産計画を立てる際のポイント</li><li>目指すべき生産計画スタイル</li></ul> <b>4 購買調達を円滑に行う</b> <ul style="list-style-type: none"><li>現在の問題点</li><li>求められる5つの条件</li><li>うまく、楽にやるための方法</li></ul> <b>5 在庫を戦略的に削減する</b> <ul style="list-style-type: none"><li>在庫削減の進め方</li><li>戦略在庫の持ち方</li></ul> <b>6 原価管理を簡単に理解する</b> <ul style="list-style-type: none"><li>財務諸表を読もう</li><li>儲けにつなげる原価管理</li></ul> <b>7 使える品質管理をつかみとる</b> <ul style="list-style-type: none"><li>基本を正しく知る</li><li>これからの品質保証とは</li></ul> <b>8 ITシステム運営の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"><li>なぜITシステムはうまくいかないのか</li><li>ITシステムと生産管理の役割</li></ul> <b>9 生産管理業務を改善しよう</b> <ul style="list-style-type: none"><li>新しい生産管理</li><li>生産管理業務改善の進め方</li></ul>
17:00	

## 24 生産管理力強化セミナー



ID 152315

2日間

強化の鍵となる「実行管理」を徹底解説!

想定外の急激な環境変化によりものづくりは激しい変化の波にさらされています。これまでの生産管理は売れるスピードに追いつき生産計画力をつけて対応してきましたが、対応しきれず現場が混乱するケースが散見されます。

本セミナーでは、1日目は生産管理の基本となる仕組みづくりと生産計画を押さえ、2日目には昨年注文されている生産の「実行管理」の進め方について効果的なフレームワークの事例とともに学んでいただけます。変化・変動に強い生産管理を目指す方はぜひご参加ください。

対象	● 生産管理部門のスタッフ、リーダー ● 生産管理の仕事を改善したい方
講師	● 松井 順一 コンサルソーシング(株) 代表取締役
会期	● 2026年 7月16日(木)～ 7月17日(金) 〆ライ ● 2026年 8月25日(火)～ 8月26日(水) 大阪 ● 2027年 1月19日(火)～ 1月20日(水) 〆ライ
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 104,500円 ● 会員外 115,500円



参加者の声 知らなかった情報が多く、新たな知識を得ることができた。2日間あるのでじっくり学べる納得感のあるセミナーでした。

\*会期、内容など一部変更の可能性がありますので、ご了承ください。

プログラム		
	1日目	2日目
10:00	<b>変化・変動に強い生産管理の仕組みづくりと生産計画</b> <b>1 ものづくりを取り巻く環境</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ビジネスのロングテール化とものづくりへの影響</li><li>想定外の外部環境の急激な変化</li><li>IOTの進展による管理フレームワークとツールの変化</li></ul> <b>2 変化・変動に強い生産管理の仕組み</b> <ul style="list-style-type: none"><li>変化変動に強い生産管理上の最強の武器とは</li><li>納期とリードタイムの差の最大化による変動対応力アップ</li><li>システム連携と連動化による変化への追従性のアップ</li><li>プロセスチェーンマネジメントシステムの構築</li><li>製造実行管理システムを主役とする</li><li>演習 かんばんによるプロセスチェーンマネジメントの体験</li></ul> <b>3 変化・変動に追従する生産計画へのチェンジ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>変化変動時代の生産計画の問題点</li><li>日程型生産計画からの脱却</li><li>日経型生産計画レスの生産管理モデルとは</li><li>変化変動時代の生産計画の項目と計画立案の実際</li><li>実需連動型ローリング生産計画のポイント</li><li>受注生産のプロセスチェーン生産計画のポイント</li><li>演習 実需連動型ローリング生産計画の仕組みづくり</li></ul>	<b>変化・変動に打ち勝つ生産の実行管理の進め方</b> <b>4 生産の実行管理の基本と要素</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産管理において実行管理が主役となった理由</li><li>製造実行管理システム(MES)とは</li><li>実行管理の要素と要件</li></ul> <b>5 生産の実行管理のポイント</b> <ul style="list-style-type: none"><li>MES(製造実行管理システム)の全体像</li><li>生産リソースの配分と見える化の仕組みのポイント</li><li>生産ドキュメントの共有と変更管理のポイント</li><li>生産と連動した設備と治工具の寿命管理と保守管理</li><li>タイムスケジューリングコントロールのポイント</li><li>作業体制の計画と作業指示管理のポイント</li><li>生産実績データと記録の収集とF/B、F/Fのポイント</li><li>タクトタイムによる異常トラブルの見える化と改善</li><li>変化点管理の管理体系とポイント</li><li>演習 製造実行管理システムの管理フロー図の作成変化点管理体系の設計と管理ツールの作成</li></ul>
17:00		

## 25 ものづくりの原理・原則を学ぶトヨタ生産方式基礎セミナー

NEW



ID152538

1日

## ムダを排除し、効率を高める生産の真髄を楽しく体験

トヨタ生産方式の根底には、ムダの徹底排除と作業者を効率的に支援する改善があり、ジャストインタイムと自動化という2つの柱を通じてリードタイムを短縮し、企業の体質を強化することを目指しています。本セミナーでは、これらの基本的な考え方を、ゲームなどを通じて楽しく学び、参加者の皆様がトヨタ生産方式の真髄を理解し、実際の業務に役立てることを目的としています。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● TPSに関心のある製造従事者</li> <li>● 製造部門の管理者・リーダー・スタッフ</li> <li>● 生産管理部門の管理者・リーダー・スタッフ</li> </ul>
講師	● 石川 秀人 コンサルソーシング株式会社 フェロー・コンサルタント
会期	● 2027年 1月27日(水) 名古屋
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 55,000円 会員外 66,000円

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 トヨタ生産方式の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 原価低減の考え方</li> <li>● ジャストインタイムと自動化</li> <li>● ムダの徹底排除と人づくり</li> <li>● 管理改善の基盤構築</li> <li>● 工程の流れ化、小ロット生産、タクトを決める、後工程引き取り</li> <li>● 品質のつくり込み</li> <li>● 省人化</li> </ul>	<b>2 標準作業のつくり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準作業3票</li> <li>● 工程別能力表、標準作業組合せ表、標準作業票のつくり方</li> <li>● 標準作業の3要素 (タクトタイム、作業順序、標準持ち)</li> </ul>
<b>3 作業改善演習</b> <b>グループワーク</b> 改善シミュレーション	

## 26 需要予測モデルの使い方と実践セミナー

NEW



ID152615

1日

## ～製造業のための需要予測手法の習得と活用ポイント～

顧客要求の多様化、商品ライフサイクルの短期化などによって需要変動の拡大と短サイクル化が進み、製造業においても需要予測の必要性が高まっています。本セミナーでは、製造業の生産管理力を高めるさまざまな需要予測モデルと手法、製造における活用方法を事例と共に具体的な手順・方法を習得していただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理部門・製造部門の中堅社員、マネジャー、スタッフの方</li> <li>● 製造業の販売・マーケティング部門のスタッフ、リーダー、管理者の方</li> <li>● 生産管理改善推進担当の方</li> <li>● OJT指導・インストラクターの方</li> </ul>
講師	● 松井 順一 コンサルソーシング株式会社 代表取締役
会期	● 2026年 6月23日(火) オンライン ● 2026年12月 2日(水) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 会員外 71,500円

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 製造業における需要予測の必要性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 要求の多様化と多品種少量化による影響</li> <li>● 市場環境の変動因子の増加</li> <li>● EC等によるリードタイム短縮要求</li> </ul>	<b>4 需要予測の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要予測モデルの違いと選択 (時系列分析、移動平均、指数平滑法、回帰分析)</li> <li>● 需要予測を失敗しないデータの集め化方</li> <li>● 予測精度の評価方法とポイント (平均誤差: ME、二乗平方根誤差: RMSE、平均絶対誤差: MAE)</li> <li>● 実績からの需要予測の学習サイクル</li> </ul>
<b>2 製造業の需要予測の活用ポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要予測と在庫計画</li> <li>● 需要予測と生産リソース計画</li> <li>● 需要予測とSCMの連動化</li> </ul>	<b>演習</b> EXCELで需要予測をしてみよう ① >データから需要予測モデル毎の違いと分析をしてみよう <b>演習</b> 需要予測をしてみよう ② >予測精度を高める因子を検討してみよう <b>演習</b> EXCELで需要予測をしてみよう ③ >データから需要予測式と予測精度を評価してみよう
<b>3 製造における需要予測の手法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要予測を組み込んだ生産モデル</li> <li>● 需要予測方法の違いとポイント (経験知からの予測、統計的予測、機械学習による予測、市場調査からの予測)</li> <li>● 変動モデルの違いとポイント (トレンド、季節変動、循環変動、不規則変動)</li> <li>● 生産計画を高める需要予測の活かし方 (需要予測が外れることも重要な情報)</li> <li>● 需要予測精度を高めるために必要なこと</li> </ul>	<b>5 AIを使った需要予測</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● AIを使った需要予測とは</li> <li>● AIを活用するためのポイント</li> </ul>
<b>演習</b> 需要予測を組み込んだ生産モデルを作成してみよう	

参加者の声 変動要因の実際の仮説、検討の難しさが痛感でき、大変参考になった。他社の方と悩みを共有できたことも良かったです。

## 27 在庫適正化スキル習得コース



ID100585

2日間

## SCMから見てくる適正在庫を実現するポイントを学ぶ

◆在庫適正化について、需要予測/販売計画のあり方、在庫構造化による基準在庫設定方法の理解、在庫管理手法の習得、在庫削減の為の各種手法など、ケーススタディーを含め、体系的、実践的に学んでいただくための研修です。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCM/生産管理/販売管理/物流 部門長、担当者</li> <li>● 販売管理/生産管理システムの導入検討プロジェクトメンバー</li> <li>● 工場長/製造課長、工程管理担当者</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沼田千佳子 (株)日本能率協会コンサルティング チーフ・コンサルタント</li> <li>● 千葉 大志 (株)日本能率協会コンサルティング コンサルタント</li> </ul>
会期	● 2026年 8月 5日(水) ~ 8月 6日(木) オンライン ● 2026年11月19日(木) ~ 11月20日(金) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 115,500円 会員外 126,500円

プログラム		
	1日目	2日目
10:00	基礎知識編 <b>1 SCM概論</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SCMとは?</li> <li>● キャッシュフローとは、キャッシュコンバージョン分析</li> <li>● SCM5つの視点</li> </ul>	ケーススタディー演習編 <b>4 現状分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 与件、前提条件の明確化</li> <li>● 在庫分析の実施、生産計画の理解</li> <li>● 在庫構造化、問題関連構造的整理</li> </ul>
17:00	<b>2 在庫管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 在庫の役割、在庫の種類と内訳</li> <li>● 在庫適正化の考え方と進め方</li> <li>● 在庫削減手法 (需要予測精度向上、小ロット化、リードタイム短縮)</li> </ul>	<b>5 在庫削減計画の作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改善策具体化、目標設定</li> <li>● 計画書作成、発表</li> </ul>
	<b>3 ケーススタディー演習準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ケース事例の読み込み</li> </ul>	

参加者の声 事例を用いて、何が問題か、問題を解決するためにどのように在庫計画を立てれば考えれば良いのか、自分で考える機会があったことが特に役に立った。

# 28 生産管理実践シリーズ



ID 100350

各 1 日

- ◆ 生産管理部門担当者の配置拠点別に必要なスキルを抽出いたしました。
- ◆ プログラム中に演習・事例を豊富に入れております。1日 で業務に直結する実践ポイントを効果的に学ぶことができます。

講師	● 徳田 和信 (株)日本能率協会コンサルティング シニア・コンサルタント	
参加料 (税込)	● 1名につき 法人会員 62,700円 (1コース) 会員外 74,800円	

## 生産管理実践シリーズ① 生産管理 本社コース

### 全社横断の生産管理の役割とは

生産管理について、幅広い観点から、基本及び応用について体系的に整理し、習得していただくための研修です。

対象	● 生産管理本社部門のスタッフ ● 生産戦略に携わる方々 ● 経営企画部の方々 ● 生産系情報システムに携わる方々 ● 在庫管理、資材購買業務に携わる方々
会期	● 2026年 6月26日(金) オンライン ● 2027年 2月17日(水) オンライン



参加者の声 本社生産管理部門の役割として、保有すべき業務機能だけでなく、担当者レベルでは知りえなかったコンセプションスキルについても学べた。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 本社生産管理部門の役割</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理を取り巻く環境変化に対する課題認識</li> <li>● 生産管理改革の方向性</li> <li>● 生産管理本社部門が保有すべき業務機能</li> </ul>	<b>3 キャッシュフロー経営と在庫適正化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● キャッシュフローとは</li> <li>● キャッシュコンバージョン分析</li> <li>● 在庫の役割</li> <li>● 在庫の種類と内訳</li> <li>● 在庫適正化の考え方と進め方</li> </ul> <b>演習</b> キャッシュフロー
<b>2 生産管理とサプライチェーンマネジメント (SCM)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SCMとは?</li> <li>● SCM 5つの視点</li> <li>● SCM改革事例</li> </ul> <b>演習</b> サプライチェーンマップ	<b>4 生産管理システム構築の考え方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理システムとは?</li> <li>● 生産管理システム構築ステップ</li> </ul> <b>演習</b> キャッシュフロー
	<b>5 生産管理人材育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理業務に求められるスキルとは</li> <li>● グローバル人材育成</li> </ul>

## 生産管理実践シリーズ② 生産管理 工場コース

### 工場における生産管理に必要な実践力を習得する!

工場における生産管理について、基本的な知識の体系的な整理、及び、製造現場で発生している諸問題の問題解決手法、また、生産管理業務を効率的に行う考え方等を習得していただくための研修です。

対象	● 工場の生産管理担当者 ● 工場の受注管理、在庫管理、資材購買業務に携わる方々 ● 工場の生産部門マネージャー
会期	● 2026年 7月10日(金) オンライン ● 2027年 3月12日(金) オンライン



参加者の声 現場における生産管理の役割を全体的に幅広く学べた。出来るところから活用していくとともに、会社全体への普及につなげていきたい。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 工場生産管理部門の役割</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理の基本要件</li> <li>● 生産管理部門が果たすべき役割</li> <li>● 工場生産管理部門の管理対象</li> </ul> <b>演習</b> 業務棚卸	<b>3 工場生産管理部門の諸業務</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産計画立案、生産指示、スケジューリング</li> <li>● 作業管理、要員整理</li> <li>● 生産実績収集・進捗管理</li> <li>● 在庫管理、物流管理</li> </ul> <b>演習</b> スケジューリング、工数計画、作業計画
<b>2 生産形態から見た生産管理の種類と特徴</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受注生産</li> <li>● 見込み生産</li> </ul>	<b>4 工場における生産管理上の課題と解決方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産管理上の問題点と課題</li> <li>● 生産管理における問題解決の考え方と進め方</li> <li>● 生産計画業務改善</li> <li>● 生産管理システム改善</li> </ul> <b>演習</b> 業務機能関連図

# 29 生産管理と在庫・仕掛品削減セミナー



ID 100363

1 日

### ～要るときに要るモノが要るだけ供給できる仕組みづくり～

- ◆ ものづくりの基本である生産管理の仕組みを理解し、成果のあがる改善活動のポイントをつかみます。
- ◆ 多品種・小ロット化、短納期化に伴い、生産管理の巧拙が生産性やコストに大きな影響を及ぼす時代です。いろいろなムダが多いのに必要なものが欠品しているというムダを発生させていませんか?
- ◆ 「要るときに要るモノが要るだけ供給できる」仕組みづくりを学びます。

対象	● 生産管理・工程管理担当の若手担当者・製造部門の方 ● 生産システムの改善担当者、生産情報システム担当者 ● 購買・調達・資材・外注担当の方
講師	● 島田 一弘 JMA専任講師
会期	● 2026年 6月23日(火) オンライン ● 2026年10月 9日(金) オンライン ● 2026年12月17日(木) オンライン ● 2027年 2月24日(水) オンライン
参加料 (税込)	● 1名につき 法人会員 56,100円 会員外 61,600円



参加者の声 演習を通じて議論が深まり、他社の違った課題や事例を伺え勉強になりました。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 販売・生産管理と在庫管理</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 在庫管理に携わる人の悩み</li> <li>(2) 需要予測と生産管理</li> <li>(3) リードタイムと在庫管理</li> </ol> <b>演習</b>	<b>4 部品供給と仕掛品の削減</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生産方式と工場内物流システム</li> <li>(2) 部品供給 [入庫～受入れ～払出し]</li> <li>(3) 仕掛品削減のポイント</li> <li>(4) 「なぜなぜ検討」原因分析 <b>グループ研究</b></li> </ol>
<b>2 適正在庫と部品管理</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 在庫品の整理・整頓</li> <li>(2) 適正在庫</li> <li>(3) 在庫管理の4つのポイント</li> <li>(4) 部品ストアでの保管方法</li> <li>(5) より良い現品管理のやり方</li> </ol> <b>演習</b>	<b>5 SCMと全体最適化</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) WIN-WINの関係づくりと事例</li> <li>(2) 調達物流の効率化</li> </ol>
<b>3 発注方式のタイプと仕組み</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 部品展開と部品手配</li> <li>(2) 定量発注方式と定期発注方式</li> <li>(3) MRP方式と製番方式</li> <li>(4) 部品倉庫</li> </ol> <b>演習</b>	

## 30 リードタイム短縮と在庫低減対策セミナー



ID 152483

1日

## 顧客の要求する納期を満足する最適在庫の追究

顧客の要求する納期を満足させる在庫ポイントの設定、需要量やリードタイムのばらつきに対応した在庫量の設定方法、発注費用と在庫費用が最も少ない発注量の設定、仕掛在庫を活用した生産計画の作成などを中心に講義と演習、実践例を交えながら習得していただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産管理部門、在庫管理部門、製造部門、物流部門の管理者、スタッフ</li> <li>サプライチェーンの改善、リードタイム短縮、在庫低減などを推進している方々</li> <li>生産技術・製造技術、技術企画部門の管理者</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>小川 正樹 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 代表取締役 マネジメントコンサルタント・技術士(経営工学)</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 7月 7日(火) 東京</li> <li>2027年 3月12日(金) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,700円</li> <li>会員外 74,800円</li> </ul>

## プログラム

1日 (10:00~17:00)

<p><b>1 ものづくりと生産・在庫管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンの変化と顧客要求の多様化</li> <li>顧客要求に対応する生産・在庫管理とは</li> <li>リードタイムと在庫からみた企業の基本戦略</li> </ul> <p><b>2 リードタイム短縮と在庫低減の対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リードタイム短縮と在庫低減のための改善と管理</li> <li>リードタイム短縮と在庫低減計画の作成</li> <li>改善によるリードタイム短縮・在庫低減</li> <li>演習 在庫を持つ長所と短所</li> </ul>	<p><b>3 在庫の分類と在庫管理方式</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産方式の特徴と生産・在庫管理</li> <li>発注量を変動させる定期発注方式による在庫管理</li> <li>演習 欠品を起こさない最適な安全在庫量</li> <li>発注量を固定する定量発注方式による在庫管理</li> <li>演習 最適な発注量を設定</li> <li>在庫管理システムによる維持管理</li> </ul> <p><b>4 生産計画によるリードタイム短縮と在庫活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在庫情報と計画情報の連動</li> <li>生産計画とコスト的にメリットのある負荷調整</li> <li>ネック工程に在庫を活用する生産計画の立て方</li> <li>演習 在庫を活用してコスト的に優れた生産計画を作成</li> </ul>
---	--

参加者の声 生産計画を立てる上で、どう算出したらいいかなどの引き出しが増えたので、大変勉強になった。

## 31 品質・納期・生産性向上のための 変化点管理習得セミナー



ID 150715

1日

## 生産管理能力を高める変化点管理の実践ノウハウ

生産現場の品質や納期の問題、生産性の低下を招く原因となる「変化」「変更」といった異常を予知・検知し、正常に戻すための管理策の展開、徹底のための標準化と識別について、事例と共に具体的な取り組み手順・方法を習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産管理・製造部門の中堅社員、リーダー、管理者、スタッフの方</li> <li>生産管理改善推進担当の方、OJT指導・インストラクターの方</li> <li>品質管理部門・ISO担当部門の方</li> <li>設計・技術部門の方</li> <li>工内物流・SCM担当の方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>松井 順一 コンサルソーシング(株) 代表取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 6月30日(火) オンライン</li> <li>2026年 11月25日(水) オンライン</li> <li>2027年 2月24日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>会員外 71,500円</li> </ul>

## プログラム

1日 (10:00~17:00)

<p><b>1 生産現場の日常を取り巻く問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産現場を混乱させる最大の原因が変化と変更</li> <li>生産現場の4M(人・設備・方法・原材料)の変化するとどうなる?</li> <li>4Mにも影響する製品変更・工程変更・設備変更などの要件変更がどのように影響する?</li> <li>演習 自社・自職場の生産現場の変化・変更の問題点を考えてみよう</li> </ul> <p><b>2 変化点管理とは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産現場の日常管理とは異常を正常に戻し維持すること</li> <li>変化点管理の全体像と管理内容とその構成</li> </ul>	<p><b>3 変化点管理の進め方と急所</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>変化点を予知するための工程故障解析による変化点の洗い出しと対策の進め方と急所</li> <li>演習 自社・自職場の変化点の洗い出しをしてみよう</li> <li>工程/作業変更の展開と変更点管理の進め方と急所</li> <li>日常的に発生する変化点の見える化の進め方と急所</li> <li>演習 自社・自職場の日常的变化点の管理のための見える化ボードを作成してみよう</li> <li>変化点を認識させ流出させないための識別管理の進め方と急所</li> <li>変化点に対する処置管理を徹底しQCDSを維持するための標準化と文書管理の進め方と急所</li> <li>演習 変化点に対する処置を徹底するための5S手法によるしかけとツールを作成してみよう</li> </ol>
--	---

参加者の声 「見える化しただけでは効果はない」が印象に残り、意識を変える必要性を強く感じた。

## 32 品質問題解決に必要な見方・考え方



ID 100504

1日

## ものづくりにおける品質向上活動

◆品質向上の最初のアプローチは、クレーム、工程内不良など、現在発生している品質問題に目を向け、解決していくことです。本セミナーでは、ものづくり・製造に関わる品質問題をどのように解決していくか、そのステップを把握するとともに、ステップの本質であり、問題解決を進める上で必要と考える5つの思考方法(原則)を理解することで、実務において問題解決を実践する第一歩を踏み出せるようになります。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造に携わる若手技術者の方</li> <li>現場監督者、リーダー、今後のリーダー候補の方</li> <li>品質管理、品質保証部門に新たに配属になった方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>辻本 靖 (株)日本能率協会コンサルティング シニア・コンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 10月23日(金) 東京</li> <li>2027年 2月10日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,700円</li> <li>会員外 74,800円</li> </ul>

## プログラム

1日 (10:00~17:00)

<p><b>1 品質向上のための基本的考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質、品質管理について</li> <li>品質問題解決の7つのステップポイント</li> <li>品質問題解決のための5つの思考法</li> </ul> <p><b>2 品質問題解決ステップと基本的な考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の明確化</li> <li>目標設定</li> <li>対策立案と実施</li> <li>標準化</li> <li>※Q&amp;Aと演習を含みます</li> <li>現状の把握</li> <li>要因の解析</li> <li>効果確認</li> </ul>	<p><b>3 品質問題解決演習</b></p> <li>演習 品質問題解決実践</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>ばらつきの把握(データの測定)</li> <li>対策立案</li> <li>ばらつき要因の検討</li> <li>効果確認</li> </ul>
--	--

参加者の声 現状把握、要因解析が非常に重要とわかり、明日から時間をかけてやっていきたい。



ID100367

2日間

# 33 不良を出さない・作らせない生産体制の実現

9原則と9つのツールによる  
不良ゼロ、クレームゼロの実現

- ◆生産部門の3つの生産プロセス管理（標準、原則、異物の管理）の修得。
- ◆実際の事例を用いた不良ゼロへのアプローチ。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造部門のマネジャー～スタッフ</li> <li>● 品質管理、品質保証部門のトップ、マネジャー、中堅スタッフ</li> <li>● 保全部門のマネジャー～スタッフ</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中崎 勝 (株)ロンド・アプリウエアサービス 代表取締役社長</li> <li>● 大谷 みさお (株)ロンド・アプリウエアサービス 標準化専任講師</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月18日(木)～6月19日(金) 東京</li> <li>● 2026年12月 8日(火)～12月 9日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 121,000円</li> <li>● 会員外 132,000円</li> </ul>



参加者の声 実体験からの講義は、はっきりしており、わかりやすくとてもよかったです。

プログラム	
2日間	
10:00	<b>1 不良ゼロの9原則</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5つのべからず</li> <li>● 不良ゼロの9原則</li> <li>● 不良ゼロへのアプローチ</li> </ul> <b>2 異物ゼロへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 異物不良の発生メカニズム</li> <li>● 品質と生産性の両立</li> </ul> <b>3 ポカミスゼロへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポカミス20の要因</li> <li>● ポカミス20の対策</li> </ul> <b>4 ビデオ標準作成へのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準整備へのアプローチ</li> <li>● ビデオ標準作成へのアプローチ</li> </ul>
16:30	<b>5 キズゼロへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● キズは結果</li> <li>● 個別改善</li> <li>● 総合対策</li> </ul> <b>6 クレームゼロへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● クレームの原因</li> <li>● 検査のあるべき姿</li> </ul> <b>7 設計、購買、海外工場へのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計ミス28の要因</li> <li>● 品質向上のための施策</li> <li>● 海外工場における品質向上</li> </ul> <b>8 モラルアップへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● やる気にさせる8つの施策</li> <li>● 尊敬される上司になる</li> </ul>

# 34 異物ゼロへのアプローチ実務セミナー



ID152530

1日

異物に対する感性を磨くことで

異物不良をゼロにする

異物不良はゼロにできます。異物不良は、異物の正体を知り、発生工程を限定し、徹底清掃することによりゼロできます。その結果、異物不良の発生メカニズムが解明でき、異物対策を打つことができます。そして、仕上げとして効果的・効率的な清掃基準を作成し、それを順守することで異物不良ゼロ状態の維持することができます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造部門の中堅スタッフ</li> <li>● 品質管理担当者</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中崎 勝 (株)ロンド・アプリウエアサービス 代表取締役社長</li> <li>● 大谷 みさお (株)ロンド・アプリウエアサービス 標準化専任講師</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月28日(木) 東京</li> <li>● 2027年 2月16日(火) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 59,400円</li> <li>● 会員外 67,100円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 異物不良ゼロへのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異物とは</li> <li>● 異物不良の発生メカニズム</li> <li>● 異物の正体</li> <li>● 7つの伝達経路</li> <li>● 慢性不良の構造</li> <li>● 異物ゼロへのアプローチ</li> </ul>
2 徹底清掃の考え方と進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 清掃準備、安全の確保、ウェスの選択と使い方</li> <li>● 清掃の基本、注意事項、留意事項</li> <li>● 具体的な進め方</li> <li>● 高所清掃から始める、組立・加工系設備の清掃、プロセス系設備の清掃</li> <li>● 摺動部、リング、先端の清掃、忘れがちどころ、仕上げ清掃</li> <li>● 徹底清掃のまとめ</li> <li>● 2回目清掃：清掃周期を把握する、異物不良発生メカニズムを解明する</li> </ul>
3 異物対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異物対策は15</li> <li>● 材料、設備から発生する異物への対策</li> <li>● 人(の行為)から発生する異物への対策</li> </ul>
4 清掃基準書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 清掃改善の必要性</li> <li>● 清掃台車の作成</li> <li>● ビデオ標準の作成</li> </ul>
5 異物管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異物管理とは</li> <li>● サプライヤーの管理</li> <li>● 検査体制の整備</li> <li>● 環境管理：エアシャワーの管理、クリーンベンチの管理、純水管理、温湿度管理</li> <li>● 異物の測定</li> <li>● 異物の除去</li> <li>● データの活用</li> <li>● 教育・訓練：感性を高める</li> </ul>
6 事例から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半導体・前工程</li> <li>● 自動車・塗装工場</li> <li>● 木材加工</li> <li>● 半導体・後工程</li> <li>● プラスチック射出成型機</li> </ul>

# 35 品質管理の基礎知識習得と品質改善・最適化の進め方



ID151021

2日間

ばらつきをデータで追求し出来ばえを均一化する

出来ばえが均一な製品を作り込むには、デジタルデータを活用した品質管理と品質改善が欠かせません。品質管理と品質改善は奥の深い世界であり、ものづくり現場の環境変化に対応してレベルアップを図り、定着化する必要があります。

本セミナーでは、データを活用した品質管理の基本的な考え方と品質改善手法について講義とPC(Excel)、事例を活用しながら習得していただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 品質管理・品質保証部門、検査部門の管理者、スタッフ</li> <li>● 製造技術・生産技術部門、製造部門の管理者、スタッフ</li> <li>● 品質向上、品質改善を推進されている方々</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小川 正樹 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 代表取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2027年 1月27日(水)～1月28日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 124,300円</li> <li>● 会員外 135,300円</li> </ul>



参加者の声 QC7つ道具等、様々な表やグラフの作成法を教えてください、今後、社内でも取り入れていきたいと思っています。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

プログラム	
1日目	
10:00	<b>品質管理の基礎知識と主要因の追求</b>
17:00	<b>1 ものづくりと品質管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 品質管理の要素と特徴</li> <li>● 品質管理に必要なデータの分析方法</li> <li>● 演習 PC(Excel)で統計量を求めよう</li> </ul> <b>2 品質を決定する5つの要因</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の出来ばえはなぜばらつくか</li> <li>● 品質改善に必要な活用手法とは</li> </ul> <b>3 品質改善の進め方(1)…不具合の主要因を追求</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 品質改善の対象となる問題・課題を把握する</li> <li>● パレート図で問題・課題を絞り込む</li> <li>● 演習 PC(Excel)でパレート図を作成しよう</li> <li>● 不具合には必ず要因がある</li> <li>● なぜなぜ分析と特性要因図で要因をあぶり出す</li> <li>● 真因をヒストグラムで確認する</li> <li>● 演習 PC(Excel)でヒストグラムを作成しよう</li> </ul>

2日目	
10:00	<b>主要因を改善対策し効果を維持・継続</b>
17:00	<b>4 品質改善の進め方(2)…改善対策を立案</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アイデア発散技法の種類と分類</li> <li>● 改善の4原則で対策を立案する</li> <li>● ヒューマンエラーを引き起こすメカニズム</li> <li>● ヒューマンエラーを層別し未然防止する</li> </ul> <b>5 品質改善の進め方(3)…対策の実施と歯止め・標準化・再発防止</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改善対策を試行し効果を確認する</li> <li>● 製造品質を保証する検査方法を標準化する</li> <li>● 全数検査、抜取検査、無検査の使い分け</li> <li>● 演習 PC(Excel)で抜取検査における不具合発見件数を求めよう</li> </ul> <b>6 品質改善の進め方(4)…改善結果を維持・継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 『管理図』で改善結果を維持・継続する</li> <li>● 工程の状態を制御する管理図の作り方</li> <li>● 演習 PC(Excel)で管理図を作成しよう</li> <li>● 管理図を使いこなして工程に異常がないと判断する</li> <li>● 工程の状態を定量化する工程能力指数</li> <li>● 演習 PC(Excel)で工程能力を算定しよう</li> <li>● 多変量管理図で複数要因を管理する</li> </ul>

## 36

## 製品エラーを迅速・確実に解決するためのFTAセミナー

NEW



ID152840

1日

本セミナーは、製品エラー（故障や不具合）が発生した際に、FTA（Fault Tree Analysis 故障の木解析）を適切に活用することで、迅速かつ確実に原因を特定し、具体的に根本的な対策を立案できることをねらいとしています。

グループごとに、対象製品（小型懐中電灯）について製品エラーが発生した状況を具体的に想定した上で、実際にFT図を作成し、対策シートを作成する演習を実施します。その際、FTAについての基本的な考え方を十分に説明するとともに、有効なFT図を作成するためのノウハウやコツについても伝授いたします。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造・生産技術部門の管理者・スタッフの方</li> <li>品質管理・品質保証部門の管理者・スタッフの方</li> <li>品質向上、品質改善を推進されている方</li> <li>製品クレームの解決を推進されている方</li> </ul>
講師	井筒 政弘（株DAPリアライズ 代表）
会期	2026年 8月20日（木） 東京
参加料（税込）	1名につき 法人会員 60,500円 会員外 71,500円

プログラム	
1日（9：30～17：30）	
<p><b>1 FTAの概要と目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FTAとは？</li> <li>FT図（事象記号と論理記号）</li> <li>再発防止と未然防止（予防）</li> </ul> <p><b>2 製品エラーと故障モード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製品エラーと信頼性</li> <li>製品エラー→製品事故→危害</li> <li>製品の階層構造（SBS）</li> <li>故障モード</li> <li>故障モードについての留意点</li> <li>恒常的故障モードと経時的故障モード</li> </ul> <p><b>3 製品エラーの原因の深掘り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2種類の原因（＝起因事象と要因）</li> <li>内部起因事象と外部起因事象</li> </ul> <p><b>グループ演習①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「経時的故障モード」と「恒常的故障モード」</li> <li>諸々の要因（発現・促進要因、誘発要因、結合・拡大要因）</li> <li>設計ミスと製造ミス</li> </ul>	<p><b>4 FT図を作成する際の留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FTAと現物調査</li> <li>FT図における展開とその「底」</li> </ul> <p><b>グループ演習②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ</li> <li>故障モードの発生防止と影響軽減</li> <li>FT図作成におけるノウハウ</li> </ul> <p><b>5 信頼性向上のための対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3段階の再発防止</li> <li>内部起因事象の発生防止と影響軽減</li> <li>外部起因事象への対策</li> <li>未然防止管理表</li> </ul> <p><b>グループ演習③</b></p>

## 37

## 製品・プロセスを最適化するための実験計画法セミナー

NEW



ID152841

1日

本セミナーでは、実験に関わる基本概念と実験の目的を理解した上で、実験計画法の基礎を習得することで、実験データに基づいて製品・プロセスを最適化する一連の流れを身につけます。

- ①入力変数と出力変数に関する基本概念を習得した上で、実験の目的を理解します。
- ②実験結果を分析するための統計的手法（分散分析、回帰分析等）の基礎を習得します。
- ③要因実験（2水準完全実施要因結果）の計画方法を習得します。
- ④要因実験における実験結果の視覚的および統計的な分析方法を習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造・生産技術部門の管理者・スタッフの方</li> <li>製品設計やプロセス設計の管理者・スタッフの方</li> <li>品質管理・品質保証部門の管理者・スタッフの方</li> <li>品質向上、品質改善を推進されている方</li> </ul>
講師	井筒 政弘（株DAPリアライズ 代表）
会期	2026年 8月25日（火） オンライン
参加料（税込）	1名につき 法人会員 60,500円 会員外 71,500円

プログラム	
1日（9：30～17：00）	
<p><b>1 実験の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験とは何か？</li> <li>入力変数と出力変数</li> <li>入力変数の制御可能性</li> <li>実験の目的と効果の評価</li> <li>工程能力分析</li> </ul> <p><b>2 入力変数と出力変数の関係把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説検定とp値</li> <li>分散分析</li> <li>相関分析</li> <li>回帰分析</li> </ul> <p><b>3 実験の計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験の階層構造</li> <li>因子と因子水準の選定</li> <li>（完全実施）要因実験</li> <li>バランスと直交性</li> <li>ランダム（無作為）化</li> </ul> <p><b>ストロー降下実績</b></p>	<p><b>4 実験結果のグラフ化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主効果図</li> <li>交互作用図</li> <li>交互作用</li> </ul> <p><b>5 実験結果の統計的分析と因子の最適化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果に対する分散分析</li> <li>実験結果に対する回帰分析</li> <li>寄与率</li> <li>実験の反復</li> <li>ブロッキング</li> <li>予測数式による因子の最適化</li> </ul>

## 38

## 品質保証実践セミナー



ID100605

1日

## 品質保証を理解し、行動につなげよう

- ◆講義と演習を通して、「品質保証とはそもそも何か」について改めて考えるとともに、考え方を整理します。自社における品質保証上の課題についての整理・ディスカッションを実施し、自社の品質保証のあるべき姿を考える機会とします。
- ◆本セミナーでは、品質保証の本質への理解を深め、品質保証を実現するためにはどのような機能が必要なのか理解します。そのうえで、自社においてそうした機能を実装し、品質保証のあるべき姿とそこに至るアプローチを考え、ロードマップを作成することで、今後の品質保証業務の方向性を考えるきっかけを提起します。

対象	品質保証部門長、品質改善PJTリーダー
講師	島崎 里史（株日本能率協会コンサルティング シニア・コンサルタント）
会期	2026年 8月4日（火） オンライン 2027年 2月25日（木） 東京
参加料（税込）	1名につき 法人会員 62,700円 会員外 74,800円

プログラム	
1日（10：00～17：00）	
<p><b>1 品質保証とはなにか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質とは</li> <li>品質管理と品質保証</li> <li>品質保証の対象（業務・組織連携）</li> <li>バリューチェーンの定義と品質保証部門の連携</li> </ul> <p><b>演習</b> 自社における品質保証上の問題を見つけよう</p> <p><b>2 品質保証を実装するための機能体系</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質保証の実現に必要な機能</li> <li>管理ポイントと確認ポイント</li> </ul> <p><b>演習</b> 品質保証における機能的な課題を発見しよう</p>	<p><b>3 品質保証の機能実現に向けた組織的活動にむけて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外注管理における品質保証の考え方</li> <li>問題発見型品質監査の考え方</li> <li>品質保証組織の考え方</li> <li>品質関連活動の形骸化・やらされ感への対応</li> </ul> <p><b>演習</b> 自社の品質保証課題を整理しよう</p> <p><b>4 今後の高度な品質保証実現にむけて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高度な顧客要求への対応</li> <li>想定外のリスクへの対応</li> <li>AI、IoTなど先進技術活用への対応</li> </ul>



参加者の声 品証の役割として、どのような姿が良いのか考える事が出来て良かったです。講義だけでなく、実践に役立つ内容でした。



## 42 「外注先の品質・納期・原価」課題解決セミナー

NEW  ID152322  
1日

## サプライヤ管理の勘所を事例と演習で学ぶ

製造業にとって、外注先はものづくりにおける重要なパートナーであり、外注先の品質・原価・納期のレベルが自社のものづくりやビジネスに多大な影響を及ぼします。

本セミナーでは、外注先の品質・原価・納期のレベルを高めるための外注先管理の管理ポイントと効果的な管理フレームワークを事例とともに紹介します。

対象	● 外注先管理部門の管理者、中堅スタッフ ● 外注先の品質や納期問題を改善したい方
講師	● 松井 順一 コンサルティング(株) 代表取締役
会期	● 2026年 5月27日(水) オンライン ● 2026年10月28日(水) オンライン ● 2027年 2月 8日(月) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 ● 会員外 71,500円

参加者の声 基準在庫の算出方法や全世界的なトレンドを知ることができた。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 外注管理の基本と方針</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外注管理の基本と課題</li> <li>● 外注先の能力・文化を知る ～パワーマップによるポジショニング</li> <li>● 外注先の管理方針の立案のポイント</li> </ul> <p><b>演習</b> パワーマップによる外注先ポジショニングと管理方針立案</p>	<b>3 外注納期管理の勘所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外注納期問題の傾向</li> <li>● 在庫管理と外注手配の連動化の進め方</li> <li>● 外注リードタイムの正体と短縮手法</li> <li>● 外注先システムとの連動化の進め方</li> <li>● 外注納期管理に使える管理フレームワーク</li> <li>● 外注かんばん (TPS)、多頻度発注、PERTデータキャリアーコード (異システム連動)</li> </ul> <p><b>演習</b> 納期遅延・欠品防止のための発注方法の改善</p>
<b>2 外注品質の管理の勘所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外注品質の課題と特徴</li> <li>● 外注先品質管理の仕組みの構成と管理フロー</li> <li>● 外注先品質レベルの評価と改善指導のポイント</li> <li>● 品質管理状態の監視とF/B、F/F</li> <li>● 外注品質管理に使える管理フレームワーク</li> <li>● 変化点管理、DRBFM、現場の見える化、識別トレーサビリティ</li> </ul> <p><b>演習</b> 外注品質管理フロー図の作成と管理ポイントの決定変化点管理計画の立案</p>	<b>4 外注原価の管理の勘所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外注原価の基本と管理課題</li> <li>● 製造原価の構成と外注原価の理解</li> <li>● 外注費の見積もり方法の種類と管理ポイント</li> <li>● 外注原価低減のねらいどころと改善の進め方</li> <li>● 支給品の扱い方とロス管理の注意点</li> <li>● 外注原価管理に使える管理フレームワーク</li> <li>● ABC (活動基準原価計算)、ムダ取り改善、VE (バリューエンジニアリング)</li> </ul> <p><b>演習</b> ABCによる原価見積もり計算の実際</p>

## 43 ポカミス防止実践セミナー

 ID100371  
1日

## 1日でわかる! 安全・品質向上へ向けた改善のコツ!

◆ 製品の多品種化や労働力の多様化などにより、生産現場ではうっかりミスが起きやすい環境にあります。

ポカミスは必ず起こるものではありません。

ほとんどは防ぐことができます。

◆ 「ポカ」の発生要因を掘り下げて発生しない、発生してもすぐに発見できる仕組みづくりを習得します。

◆ 「人の判断」「行動の仕方」を学ぶことで、うっかりミスの未然防止スキルを高めることができます。

対象	ポカミス防止してムダのない生産体制を確立しようとしている企業の ● 製造部門の管理者・リーダー・若手社員の方々 ● 品質保証、検査部門の方々
講師	● 島田 一弘 JMA専任講師
会期	● 2026年 6月18日(木) オンライン ● 2026年12月22日(火) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 56,100円 ● 会員外 61,600円

参加者の声 ・仕組みを憎んで人を憎まずという言葉が心に響きました。  
・演習形式で考えることで、「どのような対策が打てるか」と言う事が頭に入りやすく理解が深まりました。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 “ポカよけ”とは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポカよけとは</li> <li>● ポカよけの仕組み</li> <li>● ポカを想定して対処しよう</li> </ul> <p><b>演習</b></p>	<b>3 “ポカよけ”の仕組みづくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポカミス防止の8つの原理</li> <li>● ポカよけ検討シート</li> <li>● ポカよけ対策 (ハード、ソフト)</li> </ul>
<b>2 人間の“ポカ”はどんなときにおきるか</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “ポカ”はどんな状態のときにおきるか</li> <li>● 注意力はいつも働いてくれない</li> <li>● ポカミスの分類</li> <li>● ミスを防ぐ上手な仕事のすすめ方</li> </ul> <p><b>グループ研究</b></p>	<b>4 事例に学び、ポカミス防止の演習をしよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “ポカよけ”事例</li> <li>● “ポカよけ”によるミス防止演習</li> <li>● 自分の仕事にいかそう</li> </ul> <p><b>演習</b></p>

## 44 ポカミスゼロへのアプローチ実務セミナー

 ID152531  
1日

## 人の脳の機能と限界を把握し、行動と環境を改善することによりポカミスをゼロにする

ポカミスは脳で発生します。

本アプローチは、ポカミスの発生源である脳の機能と限界を知り、脳の機能を最大限に発揮させ、限界対策を打つことによりポカミスをゼロにするというアプローチです。

具体的には、ポカミス教育を実施し、4つのお願いと17の行動規制を教え守ってもらい、その結果としてポカミスをゼロにします。

対象	● 製造部門の中堅スタッフ ● 品質管理担当者
講師	● 中崎 勝 (株) ロンド・アプリウエアサービス 代表取締役社長 ● 大谷 みさお (株) ロンド・アプリウエアサービス 標準化専任講師
会期	● 2026年 7月14日(火) 東京 ● 2026年11月10日(火) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 59,400円 ● 会員外 67,100円

参加者の声 講師の説明がわかりやすく、実践ですぐに使える内容でした。自社の問題点の解決に役に立ちます。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 ポカミスゼロへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本的な考え方</li> <li>● 知らなかった対策</li> <li>● 標準整備</li> <li>● うっかり対策</li> <li>● 判断ミス対策</li> <li>● 実際の活動</li> </ul>	<b>4 ビデオ標準作成へのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな教育・訓練のしくみづくり</li> <li>● ビデオ標準+AIアドバイザーで標準順守、多能工化、技能伝承を可能にする</li> <li>● ビデオ標準作成の7ステップ</li> <li>● 教育・訓練運用ポイント</li> </ul>
<b>2 標準整備へのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準整備の7ステップ</li> <li>● ステップ概説</li> </ul>	<b>5 モラルアップへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モラルとは</li> <li>● モラルマネジメント</li> <li>● モラルマネジメント</li> <li>● まとめ</li> </ul>
<b>3 実践2Sへのアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポカミスにおける整理・整頓の意味</li> <li>● 作業台上の2S</li> </ul>	



ID 152383

1日

# 45 ヒューマンエラー対策セミナー

エラーの背景にある様々な要素を把握し未然防止する再発防止対策に結び付く主要因(真因)を明確にし、対策案と歯止め策の立案から未然防止までをノウハウ演習と体験学習で徹底指導します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理・品質保証部門、検査部門の管理者、スタッフ</li> <li>製造技術・生産技術部門、製造部門の管理者、スタッフ</li> <li>ヒューマンエラー対策、品質向上、品質改善を推進されている方々</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>小川 正樹 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 代表取締役 マネジメントコンサルタント・技術士(経営工学)</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 6月18日(木) 東京</li> <li>2026年 9月15日(火) 名古屋</li> <li>2026年11月11日(水) 東京</li> <li>2027年 2月17日(水) 名古屋</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 56,100円</li> <li>会員外 61,600円</li> </ul>

**参加者の声** 自分の部署でどこまでやっていて、どこからやっていないのかなど確認方法を教わる事が出来た。ヒューマンエラーの根本的解決方法や見直しポイントが理解出来た。

プログラム	
1日(10:00~17:00)	
<p><b>1 モノづくりにおけるヒューマンエラーのリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒューマンエラーの発生頻度とハイインリッチの法則</li> <li>ヒューマンエラーを引き起こすメカニズムは何か</li> <li>ヒューマンエラー対策の組織的な取り組み方</li> </ul> <p><b>2 ヒューマンエラーの対象となるテーマ・課題を設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハットでデータを収集</li> <li>発生例はないが、発生可能性のあるヒューマンエラーを想定</li> </ul> <p><b>演習</b> 自社のヒューマンエラーを層別</p> <p><b>3 ヒューマンエラーの要因を見える化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5Mとなぜなぜ分析で要因を追突</li> <li>ヒューマンエラー発生メカニズムを把握</li> </ul> <p><b>演習</b> 自社のヒューマンエラー事例でのなぜなぜ分析を実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜなぜ分析不要の解析</li> </ul>	<p><b>4 主要因(真因)を見つけ対策を立案し効果を確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生防止の観点からヒューマンエラーを対策</li> <li>拡大防止の観点からヒューマンエラーを対策</li> <li>ハイインリッチの原則を徹底利用したヒューマンエラー対策の実務</li> </ul> <p><b>演習</b> 自社のヒューマンエラー事例での対策を検討</p> <p><b>5 対策の実施と歯止め・標準化と未然防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル時代にふさわしいボカヨケ適用法</li> <li>危険予知訓練を効率的に進めて未然防止に役立てる</li> <li>図面段階でのヒューマンエラー対策</li> </ul> <p><b>6 まとめと質疑&amp;応答</b></p>

# 46 QC実践セミナー〈製造業・製造現場向け〉



ID 100679

1日

## QCストーリーと7つ道具を使いこなす!

◆多くの職場で導入・活用されているQCツールですが、つじつま合わせの後付け資料になっている、改善活動にあまり役立てられていない、グラフや表を作っているだけというケースがよく見受けられます。

◆本セミナーでは、後付けの資料にならずに、日々の業務に役立つもののできるQC 7つ道具の使い方を事例研究や演習を通じて習得していただけます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理監督者、改善リーダーの方</li> <li>改善活動にQCツールを役立てたいとお考えの方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>石川 秀人 コンサルティング(株)エグゼクティブ・コンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 6月 9日(火) 大阪</li> <li>2026年 7月29日(水) オンライン</li> <li>2026年12月15日(火) オンライン</li> <li>2027年 3月16日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>会員外 71,500円</li> </ul>

**参加者の声** わかりやすい流れでセミナーが進行され良く理解できた。

プログラム	
1日(10:00~16:30)	
<p><b>1 QCの問題解決アプローチとは</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>QCを正しく理解し、問題解決アプローチを理解する</li> <li>よくある改善に結びつかないQC手法の使われ方</li> <li>現状把握シートで重要特性を明確にする <b>実習</b></li> </ol> <p><b>2 統計データの基本/層別</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>何のためにどんなデータをとるのか? 統計データの取り方の基本</li> <li>収集したデータを整理し、層別するには</li> </ol> <p><b>3 QC7つ道具を理解し、使いこなす</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>チェックシートで「悪さ」をチェックし、積極的にムダを見つける</li> <li>発表用資料になりがちな特性要因図 真因の見つけ方</li> <li>散布図の縦軸(x軸)と横軸(y軸)がきっちり決まると関連性がよくみえる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>グラフは日々管理にこそおすすめ 日々管理で作業者の意識づけができる</li> <li>パレート図をつくと「どこに着目するか」がわかる</li> <li>ヒストグラムでは、バラツキの大ききで改善の方向性を決める</li> <li>分析を精緻なものにする管理図</li> </ol> <p><b>4 QCストーリー作成を助ける論理的思考法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前提・仮説・検証のフレームワーク</li> <li>Whatツリー、Whyツリー、Howツリー ヒト・モノ・カネからの分析、4Mからの分析 <b>演習</b></li> </ol> <p><b>5 まとめ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>QCストーリーが改善活動に役立つものにするには</li> <li>QC7つ道具を使いながら、現場でブラッシュアップし続けよう</li> </ol>

# 47 QC実践セミナー〈管理・間接・スタッフ部門向け〉



ID 151697

1日

非製造業・間接部門でQCツールを活用したい方へ 従来から開催し、好評いただいている「QC実践セミナー」には、非製造業・間接部門の方々も多くご参加いただきましたが、非製造業・間接部門の方向けにプログラムを組みなおし、より実務に活かしやすい構成としました。QC分析で見える化したのに改善できない、とお悩みの方はぜひご参加ください。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>非製造業・間接部門にご所属の方</li> <li>改善リーダーの方</li> <li>改善活動にQCツールを役立てたいとお考えの方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>石川 秀人 コンサルティング(株)エグゼクティブ・コンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 5月22日(金) オンライン</li> <li>2027年 1月26日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>会員外 71,500円</li> </ul>

**参加者の声** 個人のメリットを改善活動に結びつけることの重要性がよくわかりました。

プログラム	
1日(10:00~16:30)	
<p><b>1. QCの問題解決アプローチとは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>QCを正しく理解し、問題解決ストーリーを体得する</li> <li>非製造業・間接部門での改善の進め方</li> <li>歯止め、標準化で後戻りさせない、誰でもできる化</li> </ul> <p><b>2. 製造業と異なる非製造業・間接部門での取り組み方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値データではなく言語データを収集する</li> <li>定量的分析ではなく定性的に分析する</li> </ul> <p><b>3. 非製造業・間接部門で使えるQC7つ道具、新QC7つ道具を理解する</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>演習</b> チェックシートで「悪さ」をチェックし、積極的にムダを見つける</li> <li><b>演習</b> グラフは日々管理にこそおすすめ。日々管理で作業者の意識づけができる</li> <li><b>演習</b> 層別した中から重要視する項目を抽出するパレート図の使い方</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>演習</b> カードを用いて意見を発散・集約する親和図法</li> <li><b>演習</b> 発表用資料になりがちな特性要因図。モグラたたき、形式的対応、タコつぼ化などをなくす</li> <li><b>演習</b> 連関図法で相互作用的要因を追突する</li> <li><b>演習</b> なぜなぜ分析で原因を追突する</li> <li><b>演習</b> マトリックス図法で要素間の関連性を見つける</li> <li><b>演習</b> システム図法でスケ・モレを予防する</li> <li><b>演習</b> アロー・ダイヤグラムで重点管理対象作業を明確化する</li> <li><b>演習</b> PDPC法で阻害要因への対処を検討する</li> </ol> <p><b>4. QCストーリー作成を助ける論理的思考法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前提・仮説・検証のフレームワーク</li> <li>Whatツリー、Whyツリー、Howツリー</li> </ul> <p><b>5. まとめ</b></p>

## 48 工場レイアウト設計・実践



ID 100388

1日

現場を一新!

抜本的な生産性向上を実現する手法を学ぶ

◆工場のレイアウト設計に関して検討すべきポイントを理解するとともに、それぞれのポイントを総合的に勘案したレイアウト設計が重要です。本セミナーではレイアウト設計に関する知識を学んでいただくとともに、演習を通じてレイアウト設計の実践力を高めていただくことをねらいとしています。

対象	● 生産技術部門の中堅スタッフ～マネジャー ● 生産企画・管理部門の中堅スタッフ～マネジャー ● 工場長
講師	● 東 弘樹 (株)日本能率協会コンサルティング コンサルタント
会期	● 2026年10月 9日(金) 東京 ● 2026年12月 9日(水) 大阪 ● 2027年 2月10日(水) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 62,700円 会員外 74,800円

参加者の声 レイアウト検討をする上で定量的に意思決定ができる手法を実践で学ぶことができた。

## プログラム

1日 (10:00～17:00)

1 ものづくり競争力強化の必要性	● ものづくり企業を取り巻く環境変化 ● 競争力強化の方向性 ● レイアウト設計・導入の必要性	4 レイアウト設計グループ演習 グループワーク	● レイアウト案作成と評価に関するグループ演習
2 レイアウト検討の基礎知識	● 生産方式の見方 ● 構内物流の見方 ● 在庫の種類と在庫量の見方	5 新レイアウト導入の実践と導入後の課題	● 新レイアウト導入事例と導入のポイント ● レイアウト変更の効果確認 ● 垂直立ち上げの考え方 ● 日常的な4M変動に対応した安定したモノづくりの重要性
3 レイアウト設計の基本手順 (SLP法)	● 全体手順 (SLP法) ● 標準時間設定 ● 作業スペース算出 ● 基本レイアウト設計 ● レイアウト案の評価方法	6 質疑	

## 49 生産プロセス設計基本セミナー



ID 152149

1日

つくり込みレベルで、ものづくりの良し悪しが決まる

生産プロセス設計の全体像、進め方の概略を学びます。特に工程設計・作業設計を重点にこれらはどういうもので、その手順や各ステップで検討・アウトプットすべき内容は何かなどを解説し理解を深めていただきます。生産の特性を踏まえた事例を解説に含めたプログラム内容となっており、実務に活かれます。

対象	● 生産技術部門の中堅技術者 ● 製造/工作部門の中堅スタッフ ● 生産管理部門の中堅スタッフ
講師	● 山本 真也 (株)日本能率協会コンサルティング 生産エンジニアリング革新センター シニア・コンサルタント
会期	● 2026年11月11日(水) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 62,700円 会員外 74,800円

参加者の声 生産プロセス設計の全体の流れが理解することが出来て、参考となった。

## プログラム

1日 (10:00～17:00)

1 生産プロセス設計の全体像	● 工程と作業の関係 ● 工程設計と工法と工程編成 ● 作業設計とIE	3 作業設計	● 作業設計の目的 ● 作業設計の手順 ● 標準作業方法の設定 ● 作業設計で活用するIE手法 ● 標準時間の設定 ● 作業標準書の作成 ● ピッチダイアグラム・編成ロス ● 算出のミニ演習
2 工程設計	● 工程設計の手順と方法 ● 目標と前提条件の設定 ● 立地の選定 ● 内外作区分の設定 ● 工場間レベルの生産プロセス設計 ● 工場内レベルの生産プロセス設計 ● レイアウト計画立案 ● 設備計画立案 ● 作業計画立案 ● 品質保証計画立案 ● 情報システム計画立案 ● 投資採算性評価 ● 立上管理 ● ディスカッション	4 演習・ディスカッション	■ レゴを用いた工程設計演習

## 50 生産技術者のための自動化の進め方基本セミナー



ID 151238

2日間

自動化に向くものと向かないものをはっきりと見極める! 戦略的に方向性を定め、自動化を推進しないと費用がかさみ、製造原価が上がってしまった、製造リードタイムが伸びてしまったなどということになりかねません。本セミナーでは、自動化推進前にやるべきことをしっかりと押さえ、自動化推進時の費用を最小限に抑える手法を体系的に学びます。◆自社の自動化推進目的に合わせて、対象となる範囲や工程を見極められます。◆自動化の考え方を体系的に習得できます。◆全社を見渡した上で、一番効率の良い自動化推進法を習得できます。

対象	● 生産技術部門の中堅スタッフ～マネジャー ● 生産企画・管理部門の中堅スタッフ～マネジャー ● 工場長
講師	● 添田 英敬 (株)MEマネジメントサービス 取締役 マネジメントコンサルタント
会期	● 2026年 8月24日(月)～8月25日(火) 名古屋 ● 2026年11月19日(木)～11月20日(金) 名古屋 ● 2027年 2月16日(火)～2月17日(水) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 124,300円 会員外 135,300円

参加者の声 自動化、効率化を考えるうえで、考え方や重要なポイントを学ぶことができました。コスト面の算出方法についても勉強になりました。

## プログラム

2日間 (10:00～17:00)

1 自動化で何を狙うか?	● 設備投資がなぜ生産性向上に繋がらないのか ● 人と設備の特性を活かす ● 最適組み合わせはコストで判断 演習 人と設備の特性比較 演習 改善と管理によるコストダウン測定	5 最適設備の選択と考案	● 設備設計は加工点から ● 工程能力を持つ設備を導入する ● サイクリック作業の場合 ● ランダム発生作業の場合 演習 標準偏差、工程能力指数の計算 演習 繰り返し作業最適設備台数と配置人員 演習 設備選択のコスト判断
2 自動化を考える際に必要なIEと生産システム	● 生産要素の最適組み合わせを実現する ● 改善検討の原則と着想の原則 ● 設備連携を考える際のポイント 演習 切削時間の短縮	6 自動化メリットを最大限引き出すためのポイント	● 基本機能だけで工程をつなぐ原則 ● 工程・作業つなぎ方の原則 ● 自動化ラインのロットと段取り改善 演習 ロボット利用による無人化の実現 演習 段取り改善と管理
3 自社の自動化状況を見える化する	● 自動化の目的に合わせ、対象を絞り込む ● 既存データ活用でマップ作成工数削減 ● 自動化マップの作成 ● 材料の変動要因分析 ● 作業の変動要因分析 演習 PQ分析実践	7 人や設備をどうつなげるか	● 人と設備のつなぎ方原則 ● 設備と設備のつなぎ方原則 ● 設備ラインバランスのとおり方 ● データでつながるモノづくり 演習 工程のつなぎ方の原則
4 自動化への優先順序	● 自動化容易性の検討 ● 自動化による効果算出 ● 自動化の優先順序の決定 ● 設備投資の提案書の書き方 演習 省人化目的の設備投資限度額算出 演習 1直2ラインか2直1ラインの選択	8 自動化推進ステップと参考事例	● 自動化推進時の検討課題 ● 自動化の推進ステップ ● 自動化導入時に参考ができるツール ● 他社自動化事例



## 53 データ分析/AIの業務への使い方セミナー



ID152775

1日

～DX時代の必須技術の習得～

あらゆる業務において、AIを活用することが必須になってきています。ただし、活用する際は、その特性だけでなく、リスク/落とし穴などを理解する必要があります。本セミナーでは、DX時代のあらゆる担当者が必須とすべきデータ分析およびAI活用技術が学べ、業務改善や変革のための考え方が習得可能です。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIの基本となるデータ分析を理解したい方</li> <li>AI(人工知能)について知りたい方</li> <li>AIを使った業務の効率化を考えているが、イメージができない方</li> </ul>
講師	高安 篤史 合同会社コンサルンス 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 8月26日(水) オンライン</li> <li>2027年 3月11日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>会員外 67,100円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 データ分析とAI(人工知能)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>現実にはデータが知っている(データ分析による定量的判断)</li> <li>エクセルによるデータ分析(講師デモ)</li> <li>第4次産業革命が生成系AIで本格的に始まった</li> <li>AI(人工知能)の基本概念</li> <li>AI(人工知能)/機械学習によるデータ分析(機械学習で出来ること)</li> <li>AI(人工知能)で無くなる仕事</li> <li>AI(人工知能)活用の流れ</li> <li>データ分析/AIを業務で使う際の役割分担</li> <li>AI/機械学習の用途と手法(教師無し学習:クラスタリング、教師有り学習:回帰、クラス分類 など)</li> </ul>	<b>3 AI(人工知能)活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる業務改善事例</li> <li>業務改善のためのAIツール</li> <li>生成系AIの活用の基本的流れ</li> <li>疑似データでの実行確認</li> <li>AI(人工知能)によるプログラム作成</li> <li>AI(人工知能)プラットフォーム(Amazon AWS/Microsoft Azure/Google/IBM Watson)</li> <li>Pythonによるデータ分析(環境構築方法、ライブラリ利用方法他)</li> <li>ディープラーニングによる非構造データ(画像、音声、自然言語など)分析</li> <li>ノーコード/ローコード開発のメリット/デメリット</li> <li>RPAとAIの融合</li> </ul>
<b>2 AI(人工知能)の特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動と自律の違い</li> <li>AIを活用するリスク(ハルシネーション、著作権、情報漏洩など)</li> <li>AI(人工知能)の品質評価方法</li> <li>AIが主役ではない(人が主役)</li> <li>過学習(オーバーフィッティング)とは?</li> </ul> <p>演習 自業務にAIを活用する際のリスク洗い出し</p>	<b>4 AI(人工知能)活用の応用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>完全自律AIの活用までの流れ</li> <li>演習 工場でのAI導入/推進のリスクアセスメント</li> <li>演習 AI(外観検査)による不良流出の再発防止検討</li> <li>AIファーストの世界とは?</li> </ul>

## 54 効率的な現場と職場をつくる楽楽5S実践研修

改訂



ID100407

1日

～仕事が楽しくなる～

- ◆5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)は、仕事をうまく進めるための基本中のキホンです。若手社員の段階からしっかりと習得をしましょう。
- ◆5Sは、「人を育てる」「チームワーク」「PDCAをしっかりと回す」ためのもっとも手頃なテーマです。
- ◆ゲームを取り入れた講師の指導により、「勉強は大変だ」→「勉強して実践することは楽しい」と意識を変えることができます。

対象	業種や担当に関係なく全ての方が対象です
講師	島田 一弘 JMA専任講師
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 5月21日(木) 大阪</li> <li>2026年 7月23日(木) オンライン</li> <li>2026年11月 4日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 56,100円</li> <li>会員外 61,600円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 5Sを実践すると、仕事が楽しくなる! ～5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の意味を理解して、職場を明るく元気にしよう～</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>5Sの意味、活動の目的をしっかりと確認してベクトルあわせをしよう</li> <li>仕事のやり方と時間比較(整理・整頓) <b>演習</b></li> <li>品質意識を向上させよう(清掃・清潔・躰)</li> <li>マンガを見て、みんなで5Sを考えよう! <b>グループ研究</b></li> </ul>	<b>3 「整理・整頓」によるうっかりミスの防止</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>こんなとき、どうする(簡単な事例) <b>グループ研究</b></li> <li>表示・順序化によるミスの防止</li> <li>キット化によるミスの防止</li> <li>色別管理によるミスの防止</li> <li>セルフチェックによるミスの防止</li> </ul>
<b>2 モノや道具の整理・整頓</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>モノの整理・整頓/道具の整理・整頓の仕方</li> <li>楽に作業を最も効率的に行おう(動作経済の原則) <b>演習</b></li> <li>モノや工具、配膳、在庫・仕掛品の改善例</li> <li>不便なところを改善しよう <b>演習</b></li> <li>5Sの対象と評価 行動計画づくり <b>グループ研究</b></li> </ul>	<b>4 5S活動をうまく進めるためのポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>5S活動を楽しく活性化させる方法</li> <li>報告、連絡、相談(ほう・れん・そう)、コミュニケーションをしっかりとろう <b>演習</b></li> <li>プラス思考「5Sをやれば、こんないいことがあるよ!」 <b>グループ研究</b></li> </ul>
	<b>5 私のアクション</b>

参加者の声 問題点を一人で考えるのではなく、チームで現状を把握し、改善案を出して実行する事の大切さを学べたので、今後活用していきたいです。

## 55 QCDSを高める「5S改善」実践セミナー

NEW



ID152961


1日

&lt;脱「5Sごっこ」!&gt;

QCDSを底上げする「真の5S」を体感する&gt;

本セミナーでは、5Sを現場改善の強力なツールとして活用し、QCDSを高めるための具体的な進め方を学びます。単なる座学にとどまらず、講義と「ゲーム演習」を交えることで、実践的なノウハウをわかりやすく体感していただけます。「人手不足で、現場への丁寧な5S教育にまで手が回らない」といった課題を抱える方にも最適なプログラムです。真の5Sを現場に根付かせ、強い現場づくりを実現しましょう。

対象	生産、製造現場の若手～中堅社員
講師	石川 秀人 コンサルティング(株) フェロー・コンサルタント
会期	2026年 8月27日(木) 名古屋
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
<b>1 品質・コスト・納期・安全の基本を理解する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりに求められるQCDS</li> <li>Quality(品質)の基本           <ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理と品質保証</li> </ul> </li> <li>Cost(コスト)の基本           <ul style="list-style-type: none"> <li>原価管理と原価企画</li> </ul> </li> <li>Delivery(納期)の基本           <ul style="list-style-type: none"> <li>作業の段取りと原単位</li> </ul> </li> <li>Safety(安全)の基本           <ul style="list-style-type: none"> <li>災害防止と健康維持</li> </ul> </li> </ul>	<b>3 演習 5S改善ゲーム</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>改善ゲームで実体験する5Sの効果</li> <li>5Sで品質や生産性が高まることを実感する</li> </ul> 
<b>2 5S改善でQCDSを高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>5Sをツールにして改善ストーリーを回す</li> <li>場づくりと全員参加への仕掛け</li> <li>バラツキの提言と仕事の安定化</li> <li>5S改善の手順と推進の仕方</li> <li>整理・整頓・清掃・清潔・躰のポイント</li> </ul>	<b>4 後戻りさせない! 5Sを定着させる秘訣</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>5Sがうまくいかない要因</li> <li>成功させるために必要な14の視点</li> <li>現状維持を打破し、「変える」文化をつくる</li> </ul>

# 56 現場が変わる 実践新5Sセミナー



ID100410

1日

従来の5Sを刷新し、時代に対応する  
新たな5Sを創造する

- ◆現場が変わる15の刷新ポイント
- ◆新たな時代：現場人員が減少、外部社員比率の増加、現場人材の体質が変化、グローバル化
- ◆刷新：スピード（効率性）、効果（経営に貢献）、定着性（ルールを守らせるマネジメントのしくみ）

対象	●現在の5Sの活動にマンネリ化を感じているが、5S活動という言葉自体を残し時代に適した活動にしたい。 ●現場人材の変化に伴い、新たな工場活動を展開したい、その活動をそのままグローバル展開したい。 ●5S活動をコスト削減に直結させたい、定着させたい、後戻りさせたくない。
講師	●大谷 みさお 株式会社・アプリウェアサービス 標準化専任講師
会期	●2026年10月14日(水) 東京 ●2027年 2月 9日(火) 東京
参加料(税込)	●1名につき 法人会員 59,400円 会員外 67,100円

参加者の声 長年行っていた5Sがなかなか進まない理由の糸口を見つけることができました。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 5Sを刷新する	4 実践4Sへのアプローチ:異物へのアプローチ
●従来の5Sの問題点と限界	●異物は感性:100の常識
●5Sを刷新する	●異物不良発生のメカニズム
●改めて定義する:職場のあるべき姿とは	●異物のポテンシャルを減らす徹底清掃
●実践5S	●13の発生源、5つの伝達経路への対策
●活動を経営に直結させる	●清掃改善:清掃台車の作製
●ルールを守らせるマネジメントのしくみ	
2 実践1Sから2Sへのアプローチ:工程へのアプローチ	5 実践5Sへのアプローチ:ルールが守れるしくみづくり
●『更地化』によるスピード整理	●標準整備へのアプローチを守る標準づくり
●動線分析による理想レイアウトの実現	●ポカミスゼロを目指した職場環境整備
●ICタグでモノと位置を管理する	
3 実践3Sへのアプローチ:設備へのアプローチ	6 モラルアップへのアプローチ:5S活動のマネジメント
●設備のトラブルは20の原則崩れ	●モラルとは:モラルを向上させる意識付け
●3つの製造で原則崩れを復元する	●やる気を起こさせ、ルールを守る体質をつくり定着させる
●設備トラブルゼロを実現する点検基準の作り方	●現場の管理・監督者の姿勢
●センサー活用による原則崩れの予知	
	■事例紹介
	●ビデオ教育とスマートグラス実践訓練 他

# 57 製造現場のムダに気づく7つの視点



ID151563

1日

利益を生み出し、競争力を高める

改善活動の第一歩は、日々の業務に潜むさまざまな“ムダ”への気づきからです。  
ムダを考える時に必要なのは「顧客にとっての価値を生み出しているか」への発想の転換です。  
本セミナーでは、製造現場における（顧客にとって価値のない）ムダを7つの視点で捉え、それぞれのムダをみつめるための着眼点や、ムダ取りの実践方法について丁寧に解説します。

対象	●製造部門の管理者、スタッフの方 ●改善活動推進担当の方、生産管理担当の方、OJT指導・インストラクターの方
講師	●石川 秀人 コンサルソーシング(株) エグゼクティブ・コンサルタント
会期	●2026年 8月 4日(火) オンライン ●2026年10月13日(火) 大阪 ●2026年11月11日(水) 名古屋 ●2027年 2月26日(金) オンライン
参加料(税込)	●1名につき 法人会員 60,500円 会員外 71,500円

参加者の声 演習を通して、自分で考えて実際にやってみることができ、理解しやすかった。若手への教育方法も教えていただき感謝です。

プログラム	
1日 (10:00～16:30)	
はじめに、ムダに気づこう!	
1. 加工そのもののムダ取り改善策 <span style="float:right">事例研究</span>	5. 在庫のムダ取り改善策
●VA/VE ●つくるスピード ●16大ロス	●つくる側の論理
2. 不良をつくるムダ取り改善策 <span style="float:right">演習</span>	●低コスト、高効率、安心質主義からの脱却
●既知の不良に対する再発防止策 未知の不良に対する未然防止策	●原材料削減の着眼点
●変化点管理 ●リスク管理 ●自動化	●仕掛在庫削減の着眼点
●異常管理	●完成品削減の着眼点
3. 運搬のムダ取り改善策	6. 動作のムダ取り改善策 <span style="float:right">演習</span>
●レイアウト設計のポイント	●動作分析によるムダ抽出
●運搬効率を上げる原則	●改善の対象は非正味作業
●工程分析	●動作改善の着眼点
●置場、集荷、運搬の流れをつくる	●ECRSの原則
4. つくり過ぎのムダ取り改善策 <span style="float:right">演習</span>	●標準化
●つくり過ぎは問題を隠してしまう	7. 手持ちのムダ取り改善策
●生産管理の3ステップ	●手持ちの正体 ●滞留が手持ちを生む
●在庫が増える理由 ●作業者任せにしない	8. 本日の振り返り

# 58 QCDの基礎と現場改善スキル習得セミナー



ID100334

2日間

演習を通して改善の手法を身につける

- ◆企業が利益を獲得するために必要なQCDの基礎と、効率よく作業をおこなうためのコツを実習キットを用いた演習で理解を深めます。また、豊富な事例でわかりやすく解説します。

対象	●製造部門、生産管理部門、品質管理部門、資材購買部門の若手～中堅社員・新任管理者の方々 ●QCサークルや現場改善の新任リーダー、管理者 ●ものづくり現場の基礎知識を学びたい方
講師	●西村 仁 ジン・コンサルティング 代表
会期	●2026年11月17日(火)～11月18日(水) 東京 ●2027年 1月19日(火)～1月20日(水) 名古屋
参加料(税込)	●1名につき 法人会員 96,140円 会員外 107,470円

参加者の声 セミナー内容を取り入れ、QCDの向上を図りたいと思いました。

プログラム		
	1日目	2日目
10:00	1 企業にとって必要な強みを分解する ●買ってもらうための「4P」 ●利益を生むための「QCD」	6 改善の4つの切り口 <span style="background-color: #e0f0ff;">グループ演習</span> 作業改善の体感と改善策の抽出 ●ムダを削減する7つの視点 ●効果抜群の「段取り改善」 ●5Sの必要性和実践のコツ
	2 品質を管理するとは(Q) ●品質は設計品質と製造品質に分ける ●検査と予防の2本立て	7 問題解決に役立つ手法 ●定番の手法を問題解決に活用する <span style="background-color: #e0f0ff;">個人演習</span> 最強ツールの「パレート図」 ●統計は平均値と標準偏差を使いこなす
	3 コストと生産性(C) ●原価は個別原価で捉える ●個別原価を管理する方法とメリット	8 改善をどう進めるか ●改善はチームで進める ●議論することの大切さ ●会議の進め方のコツ ●教育と訓練の意味
	4 納期と生産管理(D) ●納期は生産期間で対応する ●見込み生産と受注生産	9 質疑応答・まとめ
	5 なぜなぜ分析で問題を解決する <span style="background-color: #e0f0ff;">個人演習</span> 原因分析が最も大切 ●数値化することのメリット	
17:00		

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

## 59 問題解決スキル習得セミナー



ID150741

1日

## 現場発の改善活動について体系的に楽しく学べる

生産現場での不良や設備トラブルなどの問題を解決し、再発させないための対策を導き出すための手法が問題解決です。

また、問題解決のスキルを身に着けることで、論理的に考える能力も高まります。

本セミナーは、この問題解決のスキルを映像による演習などを通じて、楽しく学びながらもしっかりと実践できるスキルを身につけていただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造・生産技術部門のスタッフ</li> <li>これから改善活動を推進する立場になる方</li> <li>これから改善活動に参加しようという方</li> <li>問題解決手法を学びたい方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>峯村 隆久 (株)セフィーロ 代表取締役社長 人・組織GIコンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年12月 9日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 56,650円</li> <li>会員外 62,150円</li> </ul>

参加者の声 改善する際にどういった視点で見たらよいか、問題点の探し方、改善の優先順位の決め方など、広い視野で物事を見れるようになった。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 現場発の改善活動のポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>現場発の改善活動のポイント</li> <li>問題解決のステップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な原因追求を行うための情報を収集する</li> <li>ステップ3：原因追求           <ul style="list-style-type: none"> <li>原因となりうる要素を漏れなく洗い出す</li> </ul> </li> </ul>
<b>2 問題解決のステップ別ポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ1：取組み課題の設定           <ul style="list-style-type: none"> <li>職場の問題を認識する目を持つ</li> <li>課題を設定する (対策検討する問題を選定)</li> <li>取組み課題を定義する</li> </ul> </li> <li>ステップ2：現状把握           <ul style="list-style-type: none"> <li>原因追求に適した粒度であるかを確認する</li> </ul> </li> </ul>	<b>演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>要因を客観的に評価する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ4：対策立案           <ul style="list-style-type: none"> <li>対策アイデアをたくさん出す (ブレインストーミング)</li> <li>対策をまとめる</li> </ul> </li> </ul>	<b>3 総合演習</b> 映像による問題解決の演習 原因追求と対策立案をやってみる

## 60 「なぜなぜ分析」実践セミナー



ID100404

1日

## ～演習でわかりやすく学ぶ～

長年「なぜなぜ分析」で現場や業務改善の指導をしてきた講師が、原因追究において論理的に考える際のポイントをわかりやすく解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅社員、リーダー、管理者、スタッフの方</li> <li>なぜなぜ分析を問題解決にうまく活用したい方、「なぜ」が出せなくて困っている方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>島田 一弘 JMA専任講師</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 4月23日(木) オンライン</li> <li>2026年 5月20日(水) 大阪</li> <li>2026年 6月19日(金) オンライン</li> <li>2026年 8月26日(水) オンライン</li> <li>2026年 9月11日(金) オンライン</li> <li>2026年10月 7日(水) 大阪</li> <li>2026年10月22日(木) オンライン</li> <li>2026年11月26日(木) オンライン</li> <li>2026年12月 8日(火) オンライン</li> <li>2027年 2月 2日(火) オンライン</li> <li>2027年 3月 3日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 56,100円</li> <li>会員外 61,600円</li> </ul>

参加者の声 これまでやっていた掘り下げが、なぜ解決に向かっていなかったかわかった。さっそく実践してみます。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 今、求められる「ものごとをうまく整理する力」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものごとを段階的に整理して考える必要性</li> <li>「なぜ、そうなるのか」「どんな影響があるか」をフローチャートで説明する</li> <li>「三現主義」現場、現物、現実で問題を解決する</li> <li>注意して物事を観察する</li> <li>優先順位をつけて、計画をつくり、実行する</li> </ul>	<b>演習</b>
<b>2 「なぜなぜ5回」の取組み方と演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の整理と改善テーマの選定 (困っていること、うまくいかないこと)</li> <li>主要因を把握して「なぜなぜ分析」をする</li> <li>主要因にわけける</li> <li>要因別の掘り下げ方・要因の書き方 (良い例/良くない例)</li> <li>なぜなぜ5回で掘りさげる</li> <li>「なぜなぜ分析」の応用 (ベテランのノウハウの見える化)</li> <li>行動計画書の書き方 (良い例/良くない例)</li> </ul>	<b>演習</b>
<b>3 グループ実習 事例研究～実際のケースで行う～</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題整理と共有化</li> <li>テーマ設定</li> <li>なぜなぜ5回/原因分析</li> <li>対策づくりと優先順位</li> <li>行動計画書づくり</li> <li>よりよい職場風土づくりにむけて</li> <li>発表と講師コメント</li> </ul>	

## 61 なぜなぜ分析習得セミナー



ID151539

1日

## 問題の原因追究が適切にできるようになる

不良や設備故障など、現場で生じている問題を確実に解決するためには、問題を発生させている原因を的確に追究することが重要です。しかし、問題の原因追究のスキルを習得するためには、センスや経験が必要だと言われ、実際になぜなぜ分析がうまくできない人が多いようです。

本セミナーは、センスや経験がなくても適切になぜなぜ分析を実践できるように、ポイント・コツをしっかりと解説するとともに、繰り返しの演習を通じて学んでいただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅社員、リーダー、管理者、スタッフの方</li> <li>なぜなぜ分析を問題解決にうまく活用したい方、社内で定着させたい方</li> <li>問題再発防止のために、なぜなぜ分析を原因追究に活かしたい方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>峯村 隆久 (株)セフィーロ 代表取締役社長 人・組織GIコンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 5月15日(金) 名古屋</li> <li>2026年12月22日(火) 大阪</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 56,650円</li> <li>会員外 62,150円</li> </ul>

参加者の声 真因や、要因解析について、今までの考え方が変わった。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1. なぜなぜ分析をうまくやるためのポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい改善のための基本姿勢</li> <li>なぜなぜ分析とは</li> <li>よし悪しを決める2つの視点</li> <li>なぜなぜ分析をうまくやるためのポイント</li> </ul>	<b>4. なぜなぜ分析のコツ2：要因の体系的抽出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>モレ・ダブリがないように要因を抽出する</li> <li>因果関係で要因を展開する</li> <li>改善策をイメージしながら展開する</li> </ul>
<b>2. なぜなぜ分析に適した問題の定義</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜなぜ分析に適した問題の2つの条件</li> <li>明確な問題の定義</li> <li>なぜなぜ分析に適した問題定義をしてみよう</li> <li>対象とする問題を解決する価値を示そう</li> </ul>	<b>5. なぜなぜ分析のコツ3：対策検討する要因の選定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>要因の影響度を客観的に評価する</li> </ul>
<b>3. なぜなぜ分析のコツ1：問題の客観的把握</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を細かく見てみる           <ul style="list-style-type: none"> <li>A. なぜなぜ分析に適した細かさにする</li> <li>B. なぜなぜ分析のためのヒントを得る</li> </ul> </li> <li>問題現象を客観的に見る</li> </ul>	<b>6. 問題のタイプに応じたなぜなぜ分析と問題解決のステップ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「少しでも良くする問題」のなぜなぜ分析</li> <li>なぜなぜ分析の応用 (業務フローとその他の分析)</li> <li>問題解決のステップ</li> </ul>





# 68 見える化実践セミナー



ID 151207

1日

## 仕事の効率と質を高める

「見えないものは管理できない」と言われます。皆さんの会社や職場でも、仕事の実態や問題の大きさ、その原因など、さまざまなことを見るようにして仕事の効率と質の向上を図ってきたと思います。

本セミナーでは“何を見る化すると効果的なのか”“どのように見える化し活用するのか”など、見える化の考え方から全体設計、具体的な実践法、仕事の成果や人の成長につながるヒントをご紹介します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場の管理間接部門のリーダー、スタッフの方</li> <li>● 「見える化」によって職場や自分の業務の効率・質を高めたい方</li> <li>● 「見える化」のアプローチをシステム設計に活かしたいIT部門の方</li> </ul>
講師	● 伊藤 晃 HR-iコンサルティング 代表 シニア・コンサルタント
会期	● 2027年 1月26日(火) オンライン
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 56,650円</li> <li>● 会員外 62,150円</li> </ul>



参加者の声 見える化へのアプローチや活かし方についての理解が深まりました。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>■ オリエンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修の目的と進め方</li> <li>● 参加者自己紹介</li> </ul> <p><b>1 見える化の世界を知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 身の回りの見える化のいろいろ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ化、信号、早見表、地図、目次、索引など</li> </ul> </li> <li>● 見えないものはマネジメントできない                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場で見ているようで実は見えていないもの/見たいものを見てしまう心理</li> </ul> </li> <li>● 見える化の変遷と最近の事例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務管理や業務改善における見える化～管理指標、5S、CS、働き方の見える化～</li> </ul> </li> </ul> <p><b>■ 実習1</b> 自社の見える化の現状</p>	<p><b>2 何を見る化し、どう活かすか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 見える化の対象                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務、機能、役割、スキル、時間、人の意識</li> </ul> </li> <li>● 見える化のメリット                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性・安全性・計画性・効率性</li> </ul> </li> <li>● 計画・進捗・結果の見える化</li> <li>● 手遅れを起こさないための見える化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>実習2</b> チェックリストによる見える化の重点検討</li> </ul> </li> </ul> <p><b>3 見える化の進め方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 見える化の設計手順</li> <li>● 見える化のターゲットの明確化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務、機能、役割、スキル、時間、キャリア、ポテンシャル等の見える化アプローチ</li> </ul> </li> <li>● 効果の検証と継続のポイント                     <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>実習3</b> 見える化アクションの検討</li> </ul> </li> </ul> <p><b>■ まとめ</b></p>

# 69 ノンテクニカルスキル実践セミナー



ID 152490

1日

## より安全な業務遂行のために

多岐にわたるノンテクニカルスキルを理解し、「何に注意すれば良いのか」「何を変えていけば良いのか」具体的な方法・ポイントについて、講師の実演や受講生同士の実習を通じて体験的に習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ヒューマンエラーを削減したい方</li> <li>● 安全意識の高い部下・チームを育てたい方</li> <li>● チームのコミュニケーションを改善したい方</li> <li>● ノンテクニカルスキル向上の具体策を知りたい方</li> </ul>
講師	● 高橋 澄子 (株)MOMO 代表取締役 公認心理師・経営コンサルタント 米国CTI認定プロコーチ 産業カウンセラー
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月24日(水) 東京</li> <li>● 2026年11月 9日(月) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>



参加者の声 ノンテクニカルスキルについて、実践的な内容も含め理解を深めることができた。質問への回答もわかりやすかった。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>1 誰もがエラーを起こす恐れがある</b></p> <p><b>2 間違った状況把握・意思決定を防ぐ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況把握 <b>■ 演習</b></li> <li>● 意思決定 <b>■ 演習</b></li> </ul> <p><b>3 チームの力で安全を守る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニケーション <b>■ 傾聴実習</b></li> <li>● チームワーク <b>■ 演習</b></li> <li>● リーダーシップ <b>■ 演習</b></li> </ul> <p><b>4 安全を脅かす心身の不調を防ぐ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ストレスマネジメント <b>■ 瞑想実習</b></li> <li>● 疲労への対応 <b>■ 睡眠チェック</b></li> </ul> <p><b>5 振り返り</b></p>	

# 70 ものづくり現場の教育・訓練実務セミナー



ID 152776

1日

## これからの技能伝承・ポカミス防止に効く！

ものづくりがどれほど進化したとしても、現場に最後まで残される課題は人であり、教育・訓練に時間と手間がかかります。その課題に本セミナーでは、ポカミスの20の要因、標準整備の進め方、ビデオ標準による教育の工夫と作業ナビによる訓練支援で解決できる方法を解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造部門の管理・監督者</li> <li>● 現場リーダー、第一線監督者の方々</li> </ul>
講師	● 大谷 みさお (株)ロンド・アプリウエアサービス 標準化専任講師
会期	● 2027年 1月26日(火) 東京
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 59,400円</li> <li>● 会員外 67,100円</li> </ul>



参加者の声 人の特性や性格などをしっかり理解した上で、やり方を考えることに気づかされました。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>1 これからの時代にあった教育・訓練を考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ものづくり現場の変化</li> <li>● 従来の教育・訓練の問題点と限界</li> <li>● これからの時代の教育・訓練とは</li> </ul> <p><b>2 ポカミスゼロへのアプローチ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポカミスを発生させる23の要因</li> <li>● 脳の機能</li> <li>● 知らなかった対策</li> <li>● うっかり対策</li> </ul> <p><b>3 標準整備へのアプローチ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業の統一(AT/ST差の刈り取り)</li> <li>● 規格のあいまいさの排除</li> <li>● やりにくさの改善</li> </ul> <p><b>4 ビデオ標準整備へのアプローチ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビデオ標準の有効性(自職場でつくる動画標準)</li> <li>● ビデオ標準作成の7つのポイント</li> <li>● 作業ナビを活用した訓練支援</li> </ul>	<p><b>5 ビデオ標準作成の進め方</b></p> <p><b>■ 解説</b> ・絵コンテの作成： 絵コンテ＝ストーリー・構成を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 編集作業のコツとポイント： 編集ソフト基本操作</li> <li>● わかりやすい撮り方</li> <li>● 効果の把握の仕方</li> <li>● 出来上りの20のチェック</li> </ul> <p><b>6 モラルアップマネジメント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モラルレベルと動機付け</li> <li>● やる気にさせる11の施策</li> </ul> <p><b>7 事例紹介</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育・訓練のしくみ事例</li> <li>● ビデオ標準の実施事例</li> </ul>

# 71 ものづくり担当者のための データ分析と統計学の使い方セミナー

ID 100393  
2 日間

## データ活用に必要な統計的なもの見方・考え方を学ぶ

データ分析には、過去に何があったかを読み取る分析、未来を予測する分析、重要な要因を診断する分析などがありますが、いずれも統計学の力を借りる必要があります。本セミナーでは、ものづくりに関係するデータ分析と統計的なもの見方・考え方をPC (Excel) を活用しながらデータから未来を予測したり、価値を創造する方法を習得していただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化を推進している企画・開発設計・生産技術・情報システム部門の管理者、スタッフ</li> <li>製造、資材・購買、品質管理・検査、生産管理部門の管理者、スタッフ</li> <li>現場の改善、コストダウン、品質向上を推進されている方々</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>小川 正樹 JMA専任講師 株MEマネジメントサービス 代表取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年11月 4日(水)～11月 5日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 124,300円</li> <li>                  会員外 135,300円</li> </ul>

**参加者の声** データ解析で使用する関数の紹介や例題など実際に使用する際に参考になると感じた。

プログラム		
	1日目	2日目
10:00	<b>データ分析と統計の基礎知識</b>  <b>◆ 仕事ができる人は数字が読める</b> <b>1 ものづくりに役立つデータ分析と統計的アプローチとは</b> <b>2 「回帰分析」「重回帰分析」で未来を予測する</b> <b>演習</b> PC(Excel)で都道府県の人口から乗用車の販売台数を予測する <b>演習</b> PC(Excel)で複数要因から時間、コスト、売上などを予測する <b>3 統計的な考え方をものづくりに活用する</b> <b>演習</b> PC(Excel)で工程の安定状態を判定する	<b>ばらつきを低減する統計的アプローチの現場への展開</b>  <b>◆ ばらつきの分解と改善アクション</b> <b>4 「分散分析法」でばらつき要因を分解する</b> <b>演習</b> PC (Excel) で設備による部品のばらつきを判定する <b>5 「直交表」を活用して効率的な実験を計画する</b> <b>演習</b> PC (Excel) で直交実験を計画する <b>6 実験データから最適条件を診断分析する</b> <b>演習</b> PC (Excel) で補助表を作成する <b>演習</b> PC (Excel) で最適条件を確立する
17:00		

# 72 物流コスト管理基礎コース

ID 100396  
1 日

## 厳しい事業環境の中で 物流コスト削減を進める手法とは?!

物流に関するコスト問題について、基本的な知識の習得、及び、問題点の把握・分析方法、問題解決手法などを通じて、コストダウン施策立案を行うための考え方、進め方を体系的に習得いただくための研修です。すぐに業務に役立てていただくために、演習・事例を豊富に取り入れています。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場の物流管理担当者</li> <li>物流部門の管理者、担当者</li> <li>物流改善プロジェクトのメンバー</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>刈谷 優孝 株日本能率協会コンサルティング チーフ・コンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 6月24日(水) オンライン</li> <li>2027年 2月19日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,700円</li> <li>                  会員外 74,800円</li> </ul>

**参加者の声** コストの考え方、分析(稼働・動線)の仕方などの見識が広がった。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 物流とは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物流の定義</li> <li>「物流現場」における今日の課題</li> </ul>	<b>3 物流コスト削減の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の基本的考え方</li> <li>機能別物流コスト削減手法・削減事例</li> <li>在庫管理の考え方</li> </ul>
<b>2 物流コスト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物流コストとは</li> <li>管理対象と課題解決の方法</li> </ul>	<b>4 物流コストマネジメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理指標</li> <li>管理の考え方</li> </ul>

# 73 物流レイアウト改善セミナー

ID 152480  
1 日

## 定量的な観点から最適レイアウトを考える

物流拠点の最適配置の考え方からムダやミスの無いピッキング・荷役、流通加工を実現するための現場レイアウト実現法までを演習と事例紹介などを通して習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流・配送・梱包・倉庫部門の中堅スタッフ～マネジャー</li> <li>構内物流・ピッキング作業担当の中堅スタッフ～マネジャー</li> <li>本社ロジステック部門、グローバル指導関係者など</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>添田 英敬 株MEマネジメントサービス 取締役 マネジメントコンサルタント</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 6月30日(火) 名古屋</li> <li>2026年 9月 3日(木) 東京</li> <li>2026年 11月26日(木) 名古屋</li> <li>2027年 1月27日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,700円</li> <li>                  会員外 74,800円</li> </ul>

**参加者の声** レイアウト設計手法SLPの項について、レイアウトの設計手順が具体的に理解できました。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 物流活動の基本的考え方</b> ～課題を再認識し、物流活動の基本的な考え方を押さえる～ <ul style="list-style-type: none"> <li>物流が抱える課題の再認識</li> <li>物流機能の定義と物流評価の考え方</li> <li>物流効率化指標による改善ポイントの見極め方</li> </ul>	<b>3 構内物流・ピッキング作業の改善</b> ～改善の基本的な考え方を学ぶ～ <ul style="list-style-type: none"> <li>基本機能の追究、改善と管理</li> <li>改善検討の原則と着想の原則</li> <li>改善に欠かせない運搬作業分析と活性指数</li> <li>作業ミス・出荷ミスの撲滅改善</li> </ul> <b>演習</b> 工程分析とECRS <b>演習</b> 作業ミス防止対策
<b>2 物流レイアウトの基礎</b> ～レイアウト設計を体系的に習得する～ <ul style="list-style-type: none"> <li>物流拠点計画の考え方</li> <li>レイアウト設計手法SLP</li> <li>シミュレーション技術の活用</li> <li>物流レイアウト評価</li> </ul> <b>演習</b> 物流拠点と巡回ルート <b>演習</b> SLPの実践	<b>4 物流効率向上のための必要知識</b> ～レイアウトを考える際に欠かせない基礎知識～ <ul style="list-style-type: none"> <li>リードタイム短縮と適正在庫</li> <li>生産・販売と連携した在庫低減</li> <li>物流コストの構成と低減に繋がる改善</li> <li>絶対に外せない安全対策の考え方</li> </ul> <b>演習</b> 費用対効果のある発注量

# 74 技術者のための原価計算

ID 150834  
2日間

## お金に強い技術者であるために

本講座は自らの技術をお金で見る管理会計を習得することをねらいとしています。売上高の80%を占める製造原価のほとんどは技術者が決めていることを知り、それを測定する原価計算を学ぶ中で技術者がコストに果たす役割が明確になります。また、グループ演習を通じて「利益を上げる会社づくり」が体感できます。

対象	● 製造部門、生産技術部門、生産管理・工場管理部門、開発・設計部門のスタッフ ● 原価計算について学びたい方
講師	● 大塚 泰雄 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 常務取締役
会期	● 2026年 9月14日(月)～ 9月15日(火) 東京 ● 2027年 3月 9日(火)～ 3月10日(水) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 118,800円 会員外 130,130円

参加者の声 製品を作るうえでの価格算出の基本となる計算が知れてよかった。

プログラム	
1日目	2日目
10:00	5 改善と管理によるコストダウン ～CD成果は経理数値に反映する～
1 原価と利益のしくみ ～基礎的な会計用語を理解する～	6 原価計算から原価管理へ ～技術の原価企画と製造の標準原価管理～
2 製品別の原価を計算してみる ～材料費と加工費を計算する～	7 原価見積から価格見積へ ～受注時点で利益がわかる～
3 QCDボックス: 演習 ～利益を生み出すしくみを学ぶ～	8 原価計算結果を経営に役立てる ～損益分岐点と限界利益で意思決定～
4 コスト・時間テーブルの作成 ～購入品・工程別時間の標準資料化～	
17:00	

# 75 理想原価追求による原価革新セミナー

ID 100415  
2日間

## 理想原価を追求するとコストダウン余地が見えるようになる

- ◆業績に直結するコストダウン成果を見える化するやり方が分かります。
- ◆積み上げ型からあるべき姿の理想追求型が従来にない革新的コストダウンをもたらします。
- ◆部門別のコストに果たす役割が明確になり、全社のコストダウンが展開できます。

対象	● 会社のコスト統括をされている方 ● コストダウン活動プロジェクトリーダー ● 原価企画・原価管理などのコスト計算に携わる方々 ● 製造部門、生産技術部門、生産管理部門、開発・設計部門のマネジャー ● 事業戦略を立案されている方々 ● 購買・調達部門の方々
講師	● 小川 正樹 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 代表取締役
会期	● 2026年 7月14日(火)～ 7月15日(水) オンライン ● 2027年 2月18日(木)～ 2月19日(金) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 126,500円 会員外 138,050円

参加者の声 理想原価の追求によるコストダウンについて社内で提案出来るようになった。

プログラム	
2日間	
10:00	4 技術段階の原価革新 一原価企画によるコストマネジメントー 演習 理想材料費問題 演習 理想加工費問題
1 これからの原価革新戦略 一原価低減から原価革新活動へー 演習 原価革新活動の進め方	5 製造・管理段階の原価革新 一標準原価管理によるコストマネジメントー 演習 原価責任問題 演習 操業計画
2 コストダウンを経理数字につなげる 一原価情報システムの一元化ー 演習 製品別/部門別原価計算	6 コストダウンの実践活動 一生産性の高い組織にするにはー 演習 動機付け理論
3 誰・何・どれ位コストが下がるか 一順調と思える所にCD余地がー 演習 コストダウン余地分析 演習 どのようなロスが見えるか	
17:00	

# 76 コスト意識を高める損得計算入門コース

ID 100413  
1日

- ◆ビジネスの活動では、ひとつひとつの判断がコストに大きく結びついていきます。原価の仕組みを理解し、損得計算をすることにより、コストダウンを推進し、利益貢献ができる人材を育成するプログラムです。
- ◆数字に苦手意識のある方にも理解しやすく、楽しく学べる構成にしています。

対象	● 中堅社員、リーダー、管理者、改善担当者の方 ● コストダウン活動を推進している方
講師	● 島田 一弘 JMA専任講師
会期	● 2026年 5月26日(火) オンライン ● 2026年11月 5日(木) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 56,100円 会員外 61,600円

参加者の声 担当業務で作成してきた資料の目的がわかったので今後は役に立つ資料が作れると思う。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
原価計算の仕組み ～講義と演習～	ケースで学ぶ「損得計算」 ～儲けを最大化する意思決定～
1 なぜ「原価計算」をするのか	1 身近な例の損得計算 演習
2 原価計算の3要素 (材料費・労務費・経費)	2 どちらが儲かる製品か
3 「損益分岐点」とはどういうものか 演習	3 付加価値と内作・外注の判断
4 原価計算とコストダウン 演習	4 赤字製品をやめるべきか
① コスト (製造原価)	5 安い新規の受注を断るべきか
② 材料費低減の着眼点 -モノ-	6 人員配置、どの案が効率的か?
③ 労務費低減の着眼点 -ヒト-	7 不良損失の損得計算
④ 経費削減の着眼点 -コト-	8 投資をするべきかどうか

## 77 意思決定で迷わない管理会計・経済性工学



ID100414

2日間

正しい意思決定ができますか？

～ビジネス数字に強くなり判断力を養う～

- ◆意思決定のための手法を学びます。
- ◆正しい経済計算ができてビジネス数字に強くなることを目指します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画を立てるときの基本的原則を学びたい方</li> <li>● コストダウン活動プロジェクトを推進されているリーダー</li> <li>● 原価企画、原価管理などコスト計算に携わる方</li> <li>● 正しい設備投資計算を身につけたい方</li> <li>● 購買・調達部門の方々</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小川 正樹 JMA専任講師 株MEマネジメントサービス 代表取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月15日(木)～10月16日(金) 東京</li> <li>● 2027年 2月24日(水)～ 2月25日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 124,300円</li> <li>● 会員外 135,300円</li> </ul>

参加者の声 管理会計の知識を得て、自社の管理会計の問題点、課題を把握した。

プログラム	
	2日間
10:00	<p><b>1 経済計算の基礎</b> ～管理会計は未来の意思決定～ 演習 ・埋没原価問題</p> <p><b>2 投資の意思決定手順</b> ～変わる所を考え、利益の出る方を取る～ 演習 ・TOC問題 演習 ・手不足状態と手余り状態</p> <p><b>3 排反案・独立案・混合案</b> ～どっちが得?額で見るか率で見るか～ 演習 ・排反案・独立案・混合案 演習 ・生産能力が足りない</p> <p><b>4 日常業務で発生する経済性判断</b> ～限界利益・付加価値を使って～ 演習 ・赤字製品を中止・受注するか 演習 ・コストダウン対象製品の選定</p>
17:00	<p><b>5 生産要素の最適組合せと効果</b> ～最適生産要素の組み合わせとは～ 演習 ・改善効果の計算</p> <p><b>6 最適生産を求める経済計算</b> ～最適人員や最適ロット・在庫を求める～ 演習 ・操業計画立案 ・経済ロット・安全在庫</p> <p><b>7 投資に伴う経済計算</b> ～お金の時間的価値を考慮～ 演習 ・時間的価値の計算</p> <p><b>8 設備投資の経済計算</b> ～過大設備投資にならないために～ 演習 ・設備生産性とロスの内訳</p>

## 78 設計前に製品コストを創り込む原価企画



ID100416

2日間

VEで変動費・モジュール設計で固定費の  
あるべき原価を追求する

製品の価格、すなわちその背後にある製品原価は、総合商品力の重要な要素です。新製品がねらった競争力を発揮するには、コストの70%が決まる、製品企画・開発段階にさかのぼって原価を創り込む「原価企画」活動が必要不可欠です。

本セミナーでは、原価企画・VE・モジュール設計のステップを講義、事例、演習を交えながら学んでいただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コスト改革・原価企画に携わる方</li> <li>● コストダウン実現を目指す、開発設計・開発購買・生産技術のマネジャー・スタッフの方など</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大塚 泰雄 JMA専任講師 株MEマネジメントサービス 常務取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月27日(火)～10月28日(水) オンライン</li> <li>● 2027年 3月 4日(木)～ 3月 5日(金) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 124,300円</li> <li>● 会員外 135,300円</li> </ul>

参加者の声 実務に直結した内容で分かりやすく、実際に実務に取り入れてみようと思った。

プログラム	
	2日間
10:00	<p><b>1 開発設計段階のコストダウン余地を追求する</b> ～まずはコストダウンの可能性を把握する～</p> <p><b>2 原価企画の目的と進め方とは</b> ～事前に原価をシミュレーションする～</p> <p><b>3 CADから直接見積原価を設定する</b> ～CAD見積とコストテーブル作成～</p> <p><b>4 機能・余地分析と目標原価設定の進め方</b> ～理想原価を踏まえ目標原価を設定する～</p> <p><b>5 感性機能を取り入れたコストダウンを実現するVE</b> ～機能から最適構造を追求することの重要性～</p>
17:00	<p><b>6 VEのアイデアを実現するポイントとステップ</b> ～アイデア発想の基礎をマスターし実践へ役立てる～</p> <p><b>7 モジュール化で開発費と間接費をコストダウンする</b> ～見えない固定費を標準化で見えるようにする～</p> <p><b>8 モジュール設計の手順</b> ～系統立てた効果のあるモジュール設計の進め方～</p> <p><b>実践演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● VE改善設計・機能分析ソフト、モジュール化分析ソフト紹介</li> </ul>

## 79 “実践”製品価値向上とコストダウン同時実現セミナー



ID150811

2日間

製品価値は機能とコストのバランスで決まる！

コストダウンで大切なことは、製品機能を明確にし、技術的根拠より目標原価を設定することです。本セミナーでは、目標原価である製品の理想原価を設定し、現状とのギャップをコストダウン余地とし捉え、多岐にわたるコストダウン手法をもとに、大きなコストダウンを実現する方法を学んでいただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上流プロセス段階からのコストダウン実現をめざす、開発設計・開発購買・生産技術部門のマネジャーおよびスタッフの方</li> <li>● コスト改革・原価企画の躍進に携わる方</li> <li>● 事業戦略立案をされている方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大塚 泰雄 JMA専任講師 株MEマネジメントサービス 常務取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2027年 3月11日(木)～ 3月12日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 109,450円</li> <li>● 会員外 121,000円</li> </ul>

参加者の声 製品ポートフォリオの考え方、理想原価・構造原価の設定方法(見える化)など、初めて学ぶ内容が多く有意義なセミナーでした。

プログラム	
	2日間 (10:00～17:00)
1 原価の基礎を学ぶ	<p>～コストダウンに欠かせない原価の知識～</p>
2 コストダウンのねらい所と改善余地の考え方	<p>～事前にあるべき原価を想定する必要性～</p>
3 製品の最適構造を追求するVEとは	<p>～目的機能にかける最適コストの追求～</p> <p><b>グループ演習1</b> 製品の機能評価追求</p>
4 アイデア発想のポイントと実践のステップ	<p>～1つの製品にアイデアを1000件出す方法～</p>
5 世界の発明原理TRIZ(トゥリーズ)を使ったコストダウン	<p>～アイデアを効率的にシステムチックに出すツール～</p> <p><b>グループ演習2</b> 画期的なアイデアの発想</p>
6 感性VEの考え方とコストダウン事例紹介	<p>～感性機能へのコストのかけ方とコストダウンの実践～</p>
7 実践で使う前にVEの使い方をマスターする	<p>～ソフトを使って効率よく分析する～</p>

# 80 設備投資の経済計算とその活用セミナー



ID 100417

2日間

効果のある投資判断が企業の未来を決める

- ◆利益に繋がる意思決定プロセスの進め方の解説をします。
- ◆申請どおりの効果が出ていない投資を見抜ける設備投資の審査者にも受講をお勧めします。

対象	● 設備投資に関わる生産技術部門・企画部門・設備調達部門のマネジャー・スタッフ
講師	● 小川 正樹 JMA専任講師 株MEマネジメントサービス 代表取締役
会期	● 2026年12月15日(火)～12月16日(水) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 124,300円 会員外 135,300円

参加者の声 次回の設備投資時に今回学んだ事が参考になります。

プログラム	
2日間	
10:00	<p><b>1 なぜ自動化が生産性に繋がらないか</b> ～自動化が目的になっていないか～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備が労働生産性向上に繋がらない実態</li> <li>● 演習 設備効率の測定</li> <li>● 性能とサイズが過大な設備</li> <li>● 演習 設備能力を生かす改善</li> </ul> <p><b>2 投資の意思決定手順</b> ～変わる所を考え、利益の出る方を取る～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 排反案・独立案・混合案</li> <li>● 演習 混合案の選択</li> <li>● 回収期間法はどのような時に使うのか</li> <li>● 演習 駐車場建設問題</li> </ul> <p><b>3 お金の時間的価値</b> ～時間経過とともにお金の価値が変わる～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お金の時間的価値の計算と6つの係数</li> <li>● 演習 時間的価値の計算</li> <li>● DCF法 (Discounted cash flow method)</li> <li>● 演習 割引投資利益率問題</li> </ul> <p><b>4 設備投資のプロセスと提案書</b> ～意思決定しやすい設備投資提案書～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 単体設備投資提案書の書き方</li> <li>● 演習 設備投資提案書の記載費用</li> </ul>
17:00	<p><b>5 能力増強投資の経済計算</b> ～生産量によって変わる設備投資～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産量によって変わる設備</li> <li>● 演習 1直2ラインか2直1ラインか</li> <li>● 能力増強・製品高度化投資</li> <li>● 演習 どちらの設備を入れるか</li> </ul> <p><b>6 取替投資の経済計算</b> ～取替投資から修理・予防保全へ～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 合理化設備への取替投資</li> <li>● 演習 取替投資可否問題</li> <li>● 移転・修理を伴う取替投資</li> <li>● 演習 売却損でも取り替えるか</li> <li>● 予防保全で乗り切る</li> <li>● 演習 手余り・手不足状態</li> </ul> <p><b>7 省力設備投資の経済計算</b> ～省力設備投資のコストダウン効果測定～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コストダウン効果を計算する</li> <li>● 演習 コストダウン効果の計算</li> <li>● 省力投資の限度額はいくらか</li> <li>● 演習 何台の設備を入れるか</li> <li>● 省力投資に影響する真金格差</li> <li>● 演習 省人化限度額の計算</li> </ul> <p><b>8 投資による増収とリスク管理</b> ～守りの投資から攻めの投資へ～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 攻めの投資と守りの投資</li> <li>● 演習 マスカスタマイゼーション効果</li> </ul>

# 81 製造段階における理想標準原価管理セミナー



ID 100452

2日間

製造段階におけるコストダウンの徹底追求

- ◆すでにつぶされている不良ロス・稼働率ロスや段取りなどの“見えるロス”のコストダウンから、人の作業能率ロス・設備の運転時間ロスや材料の製造歩留ロスなどの“見えないロス”へのコストダウンアプローチを学びます。
- ◆順調と思っている“見えないロス”に多くのコストダウン余地が潜んでいます。その製造原価(材料費・労務費・製造経費)のコストダウンの攻めどころと管理方法を中心に解説します。
- ◆製造原価の2/3は材料費のため、材料費のコストダウンなくして大きな成果は得られません。そこで製造部門でもできる材料費のコストダウンのポイントについて解説します。

対象	● 製造部門、生産技術部門、生産管理部門のマネジャーおよびスタッフ ● コストダウン活動推進リーダー ● 原価企画・原価管理などコスト計算に携わる方々
講師	● 大塚 泰雄 JMA専任講師 株MEマネジメントサービス 常務取締役
会期	● 2027年 1月27日(水)～ 1月28日(木) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 124,300円 会員外 135,300円

参加者の声 「標準原価管理の活用」について学び“あるべき姿”の理解を深める事ができたので社内で原価に対する理解と関心度がアップされました。

プログラム	
1日目	2日目
10:00	<p><b>1 理想標準原価管理のねらいは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造段階での原価ロスとコストダウンのねらい所</li> <li>● あるべき姿を描くとやるべきことが見えてくる</li> </ul> <p><b>2 理想標準原価管理システムのポイントとは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 理想標準原価管理システムの作り方</li> <li>● 全体演習</li> </ul> <p><b>3 原価比率が高まる材料費の歩留をねらうコストダウン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料費のムダと歩留ロス</li> </ul> <p><b>4 不良の見える化による品質コストのコストダウン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 不良を見るようにする</li> </ul>
17:00	<p><b>5 賃率・時間ロスをねらう労務費のコストダウン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 労務費のムダ</li> <li>● 派遣社員の短期教育</li> </ul> <p><b>6 人と設備の両方の生産性をあげてコストダウン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● パフォーマンス管理システムの考え方</li> <li>● 生産性を倍増する能率向上のポイント</li> </ul> <p><b>7 変動・固定経費の特徴を狙ったコストダウン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造経費のムダ</li> <li>● 消費ロスの見える化と管理のやり方</li> <li>● 操業度ロスの見える化と操業度の調整</li> </ul>



“現場経営者”の視点を持った第一線監督者の育成

- ◆ CPF資格試験（第一線監督者マネジメント資格）は、監督者に自らの役割を確認させ、モチベーションを高めることをねらいとしています。
- ◆ 認定テキスト（第一線監督者マネジメントガイド）の掲載ページとリンクしたプログラムで自己学習しやすい構成となっています。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CPF（第一線監督者マネジメント）資格の受験を検討されている方</li> <li>● 製造業現場における管理監督としての基礎知識を学習したい方</li> </ul>
講師	● 伊藤 育徳 MISアソシエイツ 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 9月18日(金) オンライン</li> <li>● 2026年12月 7日(月) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>                  会員外 71,500円</li> <li>                  マネジメントガイド 19,800円</li> </ul>

プログラム	
1日 (9:30 ~ 17:00)	
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>第一線監督者の役割の認識</b></li> <li>・ これからの第一線監督者とは</li> <li>・ 第一線監督者の7つの役割</li> </ul>
第1部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>「Q(品質)、C(コスト)、D(納期)、S(安全)、E(環境)」を通じた職場目標の達成と全体管理</b></li> <li>第1章① 変化に対応できる作業管理の進め方</li> <li>第1章② 変化に対応できる工程管理の進め方</li> <li>第2章 不良ゼロを実現する品質管理の進め方</li> <li>第3章 コスト革新を実現する生産性向上活動</li> <li>第4章 事故ゼロを実現する安全管理の進め方</li> <li>第5章 環境負荷低減のための環境管理の進め方</li> </ul>
第2部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>規律ある職場づくりと部下育成</b></li> <li>第1章 職場ルールの順守と習慣化</li> <li>第2章 訓練指導・技能伝承</li> <li>第3章 リーダーとしての職場管理</li> <li>第4章 全員参画の職場づくり</li> <li>第5章 改善活動の効用</li> </ul>

※本セミナーの受講によって合格を保証するものではありません

参加者の声

ポイントを絞って説明してくれているため、合格への道筋が見えた感じがしました。

CPF第一線監督者マネジメント資格

<https://jma-cpf.jp/>

CPF 資格

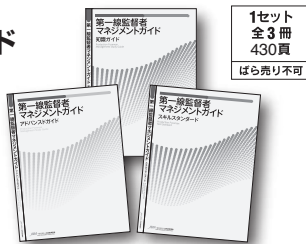
検索

CPF 資格試験実施概要（詳細は上記 URL でご確認ください）

試験名称	CPF (Certified Production Foreman)
開催日程	通年
受験資格	受験資格の規定はありませんが、第一線監督者に関する5年以上の経験があり、生産現場をマネジメントしていくうえで、必要な知識を有している方々を想定しています。
出題範囲	CPF 公式テキスト「第一線監督者マネジメントガイド」の知識ガイドより出題されます。
受験料	16,500円 (税込)
試験会場	全国47都道府県主要都市にある試験会場で受験が可能です。(最寄りの会場は、公式ホームページから検索することができます。)
問題形式	70問 / 90分 【択一問題・語彙選択問題・アンケート時間を含む】
試験方式	CBT: Computer Based Testing (コンピュータを用いた試験を採用しています)
合格基準	530点以上 (800点満点) ※試験問題の配点、回答状況、解答は非公開となります。あらかじめご了承ください。

CPF 資格に準拠した認定テキスト

第一線監督者  
マネジメントガイド



定価 1セット (税込) **19,800円**

もし、このような悩みをお持ちであれば第一線監督者マネジメントガイドをご活用ください。

- 時代が変化し続ける中で、製造人材のスキル不足あるいは個人のスキルが不明確である。社員の能力に不安がある。
- 製造部門のスキルはどのような構成が良いのか、明確でない。
- スキル標準は一応あるが、世間標準と照らし合せておらず、人材育成の面から見て、自信を持って強力に推し進められない。
- 海外赴任・派遣人材（グローバル人材）の現地での指導に不安がある。

ガイド構成

知識ガイド		アドバンスドガイド		第一線監督者スキルスタンダード
はじめに 第一線監督者の役割の認識	はじめに 第一線監督者の役割の認識 1. 変化に対応できる作業管理の進め方 変化に対応できる工程管理の進め方 2. 不良ゼロを実現する品質管理の進め方 3. コスト革新を実現する生産性向上活動の実現 4. 事故ゼロを実現する安全管理の進め方 5. 環境負荷低減のための環境管理の進め方	第2部 規律ある職場づくりと部下育成	1. 職場ルールの順守と習慣化 2. 訓練指導・技能伝承 3. リーダーとしての職場運営 4. 全員参画の職場づくり 5. 改善活動の効用	各スキルの自己レベルをセルフチェックできます。
第1部 「Q(品質)、C(コスト)、D(納期)、S(安全)、E(環境)」を通じた職場目標の達成と全体管理		第3部 工場経営の理解と職場の生産技術・生産管理高度化への対応	1. 工場経営と職場改善の関係の理解 2. 診断技術による潜在的課題発掘と改善基本構想の策定 3. 職場の高度化活動への対応 4. 管理業務の効率化(間接業務のスリム化)	

## JMA公開セミナー提案サービスのご案内

「JMA 公開セミナーを活用し、貴社の課題解決にお役立てください」

Step

01

### お問い合わせ

- 新たに研修体系を作りたい
- 人事制度改訂に伴って、研修体系を見直したい
- 自己啓発プログラムを作りたい／メニューを充実させたい
- 数あるセミナーの中から、自社のニーズに最適なものを選びたい
- 他社交流を積極的に行いたい



Step

02

### ヒアリング

お問い合わせにいたった背景、貴社のお悩み、解決したいことなど、さまざまな観点からご質問させていただくとともに、貴社からのご要望をお伺いします



Step

03

### ご提案

- 貴社の教育方針、能力要件に合わせた公開セミナーを体系的にパッケージ提案します
- 必要な領域に絞った、カテゴリ別セミナーを提案します
- 公開セミナー選択受講制度を設計します
- 課題に沿った適切なセミナーをピックアップします



ご相談は  
無料です

## まずはお気軽にお問い合わせください

人事・研修ご担当者の負担を増やさず、  
貴社の人材育成の機会を改訂拡充しませんか？

JMAマネジメントスクール



お問い合わせフォームよりご連絡ください

# 購買・調達分野

●本文中のアイコン説明●



通学



オンライン



通学もしくはオンライン

プログラム一覧 (2026年4月～2027年3月)

プログラム No	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
1	新任バイヤー早期戦力化セミナー	41	1日	2026年 2027年	9月	8月	7月	6月 1月
2	調達基礎力向上セミナー	42	1日	2026年 2027年		5月/11月(福岡)/12月		6月/9月 3月
3	調達業務レベルアップのための 問題解決と論理思考スキル習得セミナー	42	半日	2026年 2027年				6月/12月
4	中堅バイヤー実践力強化セミナー	42	1日	2026年 2027年	9月	11月		7月 2月
5	調達マネジャー実践力強化セミナー	43	1日	2026年 2027年	6月 2月	9月		
6	調達・購買マネジャーのための マネジメント力強化セミナー	43	1日	2026年 2027年	8月 3月			
7	調達組織の在り方とその活性化セミナー	43	1日	2026年 2027年	2月			
8	調達・購買マネジャー向け 部下育成力セミナー	44	1日	2026年 2027年				7月/12月
9	調達担当者のための プロジェクト遂行力強化セミナー	44	1日	2026年 2027年				7月 3月
10	部下・後輩バイヤーの支援と育成 バイヤー向けOJTの進め方セミナー	44	1日	2026年 2027年				7月
11	バイヤー業務の基礎知識習得セミナー	45	1日	2026年 2027年	11月			
12	成果につながる開発購買の進め方セミナー	45	1日	2026年 2027年	11月	6月/12月		
13	コスト削減ツールとしての「コスト分析」セミナー	45	1日	2026年 2027年		10月		12月
14	コストテーブル作成・活用セミナー	46	1日	2026年 2027年				6月/11月 3月
15	外注価格査定テーブルの作り方と活用セミナー	46	1日	2026年 2027年	9月 2月			
16	コスト削減の基本と見積り査定入門セミナー	46	1日	2026年 2027年		5月/10月(福岡)		9月 2月
17	コスト削減の考え方と進め方基礎セミナー	47	半日	2026年 2027年	2月			6月/10月
18	設備調達セミナー	47	1日	2026年 2027年		7月		
19	バイヤーのための 戦略的交渉力セミナー	47	2日間	2026年 2027年	5月/6月/10月			1月 9月 1月
20	購買交渉の理論と実践セミナー	48	1日	2026年 2027年	10月 2月	6月/12月		
21	購買・調達バイヤーのための 商談深掘り入門セミナー	48	1日	2026年 2027年				12月
22	調達・購買スタッフ 社内コミュニケーションスキル強化セミナー	48	1日	2026年 2027年	6月			2月
23	調達・購買スタッフのための説明力習得セミナー	49	1日	2026年 2027年	7月/11月			
24	調達担当者のための交渉力基礎習得セミナー	49	半日	2026年 2027年				8月/11月 2月
25	はじめて取引先担当を持つ交渉力入門セミナー	49	1日	2026年 2027年	6月/10月			
26	半導体・電子部品の戦略的調達実践力セミナー	50	1日	2026年 2027年				12月 2月
27	グローバル調達実践力強化セミナー [基礎知識編]	50	1日	2026年 2027年				10月
28	グローバル調達実践力強化セミナー [実務活用編]	50	1日	2026年 2027年				12月
29	海外サプライヤーマネジメントセミナー (旧名称：海外サプライヤー活用セミナー)	51	1日	2026年 2027年	7月 2月			
30	海外調達入門セミナー	51	半日	2026年 2027年				5月/10月
31	調達担当者のための 契約の理解と実務基本セミナー	51	1日	2026年 2027年	10月 2月			
32	調達・購買担当者のための 取適法の理解と事例対策セミナー	52	1日	2026年 2027年	5月/11月	7月/12月	9月	2月

生

産

購  
買  
・  
調  
達

開  
発  
・  
設  
計  
・  
技  
術

I

S

O

プログラム No.	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
33	調達・購買スタッフのための 文書作成力習得セミナー	52	1日	2026年 2027年	8月			
34	「サプライヤ決算書の見方と倒産事前察知」 習得セミナー	52	半日	2026年 2027年				9月 1月
35	持続可能な/CSR調達を実現させる サプライヤマネジメント	53	1日	2026年 2027年				9月 2月
36	購買・調達バイヤーのための 協力工場・外注先管理セミナー	53	1日	2026年 2027年	8月			2月
37	サプライチェーン視点の 調達実践力強化セミナー	53	1日	2026年 2027年	11月			8月
38	サプライチェーンマネジメント (SCM) 基礎力養成セミナー	54	1日	2026年 2027年	6月 2月	10月		
39	在庫削減のための 調達担当者が知るべき需要予測入門セミナー	54	半日	2026年 2027年				6月 1月
40	調達担当者のための物流知識習得セミナー	54	1日	2026年 2027年				6月 3月
41	サプライチェーン強化のための 調達カテゴリー戦略セミナー	55	1日	2026年 2027年	9月 1月			
42	サプライヤー選定・評価・育成セミナー	55	1日	2026年 2027年				1月
43	サプライヤー評価実務革新セミナー	55	1日	2026年 2027年	9月	12月		2月
44	成果に直結する取引先評価セミナー	56	1日	2026年 2027年	3月			
45	調達・購買スタッフのための 仕入先管理入門セミナー	56	1日	2026年 2027年	2月			
46	「値上げ要求」対策セミナー	56	1日	2026年 2027年		7月/12月		4月 2月
47	シングルソース攻略セミナー	57	1日	2026年 2027年				9月 1月
48	サプライヤ評価・サプライヤ戦略セミナー	57	半日	2026年 2027年				7月/11月 2月
49	間接材管理実務セミナー	57	1日	2026年 2027年	8月			3月
50	調達担当者のための 脱炭素調達セミナー	58	半日	2026年 2027年				8月
51	人権デューデリジェンス対応セミナー	58	半日	2026年 2027年				11月
52	調達購買担当者の問題解決力向上セミナー	58	1日	2026年 2027年				6月/12月
53	調達担当者のための 「データ分析・統計」基礎セミナー	59	半日	2026年 2027年				8月/12月
54	調達活動におけるデータ活用力強化セミナー	59	1日	2026年 2027年				10月
55	生成AIの調達業務への活用	59	半日	2026年 2027年				4月/10月 2月
56	Copilotで実践する生成AIの調達業務への応用	60	半日	2026年 2027年				7月
57	調達リスク対応力強化セミナー	60	1日	2026年 2027年	7月			11月
58	価値発揮のための 調達業務改善スキルアップセミナー	60	1日	2026年 2027年				9月 1月
59	CPP-B級試験対策セミナー	61	2日間	2026年 2027年	7月/9月/12月 1月/2月	12月 3月		6月/10月/11月
60	CPP-A級試験対策セミナー	61	1日	2026年 2027年				6月/9月/12月 2月

# 購買・調達分野

## ◆ 購買・調達分野プログラム体系

◆注)：●内の数字は購買・調達分野に掲載されているプログラムNO.です。数字のないものもしくは最新の情報については、<https://school.jma.or.jp>でご確認ください。

分野	新配属者・若手社員層	係長・リーダー層	課長・部長層
階層別セミナー	1 新任バイヤー早期戦力化セミナー <small>東京 大阪 名古屋 オンライン</small>	4 中堅バイヤー実践力強化セミナー <small>東京 大阪 オンライン</small>	5 調達マネジャー実践力強化セミナー <small>東京 大阪 オンライン</small>
	2 調達基礎力向上セミナー <small>大阪 福岡 オンライン</small>	6 調達・購買マネジャーのためのマネジメント力強化セミナー <small>東京</small>	
	3 調達業務レベルアップのための 問題解決と論理思考スキル習得セミナー <small>オンライン</small>	New! 7 調達組織の在り方とその活性化セミナー <small>東京</small>	
		8 調達・購買マネジャー向け 部下育成力セミナー <small>オンライン</small>	
		9 調達担当者のための プロジェクト遂行力強化セミナー <small>オンライン</small>	
		10 部下・後輩バイヤーの支援と育成 バイヤー向けOJTの進め方セミナー <small>オンライン</small>	
		11 バイヤー業務の基礎知識習得セミナー <small>東京</small>	
コストダウン		12 成果につながる開発購買の進め方セミナー <small>東京 大阪 オンライン</small>	
		13 コスト削減ツールとしての「コスト分析」セミナー <small>大阪 オンライン</small>	
		14 コストテーブル作成・活用セミナー <small>オンライン</small>	
		15 外注価格査定テーブルの作り方と活用セミナー <small>東京</small>	
		16 コスト削減の基本と見積り査定入門セミナー <small>大阪 福岡 オンライン</small>	
		17 コスト削減の考え方と進め方基礎セミナー <small>東京 オンライン</small>	
		New! 18 設備調達セミナー <small>大阪 オンライン</small>	
交渉	19 バイヤーのための 戦略的交渉力セミナー <small>東京 オンライン</small>		
	20 購買交渉の理論と実践セミナー <small>東京 大阪 オンライン</small>		
	21 購買・調達バイヤーのための 商談深掘り入門セミナー <small>オンライン</small>		
	22 調達・購買スタッフ 社内コミュニケーションスキル強化セミナー <small>東京 オンライン</small>		
	23 調達・購買スタッフのための説明力習得セミナー <small>東京</small>		
	24 調達担当者のための交渉力基礎習得セミナー <small>オンライン</small>		
	25 はじめて取引先担当を持つ 交渉力入門セミナー <small>東京</small>		
	26 半導体・電子部品の戦略的調達実践力セミナー <small>オンライン</small>		
海外調達		27/28 グローバル調達実践力強化セミナー [基礎知識編] [実務活用編] <small>オンライン</small>	
		29 海外サプライヤーマネジメントセミナー <small>東京</small>	
	30 海外調達入門セミナー <small>オンライン</small>		
法務・契約	31 調達担当者のための 契約の理解と実務基本セミナー <small>東京</small>		
	32 購買担当者のための 取適法の理解と事例対策セミナー <small>東京 大阪 名古屋 オンライン</small>		
	New! 33 調達・購買スタッフのための文書作成力習得セミナー <small>東京</small>		
	34 「サプライヤ決算書の見方と倒産事前察知」習得セミナー <small>オンライン</small>		
		35 持続可能な/CSR調達を実現させるサプライヤマネジメント <small>オンライン</small>	
Procure	36 購買・調達バイヤーのための 協力工場・外注先管理セミナー <small>東京 オンライン</small>		
SCM	37 サプライチェーン視点の調達実践力強化セミナー <small>東京 オンライン</small>		
		38 サプライチェーンマネジメント(SCM)基礎力養成セミナー <small>東京 大阪</small>	
		39 在庫削減のための調達担当者を知るべき需要予測入門セミナー <small>オンライン</small>	
		40 調達担当者のための物流知識習得セミナー <small>オンライン</small>	
		「外注先の品質・納期・原価」課題解決セミナー <small>※プログラム詳細はP.20参照</small>	

分野	新配属者・若手社員層	係長・リーダー層	課長・部長層
サプライヤーマネジメント		④1 サプライチェーン強化のための調達カテゴリ戦略セミナー <span style="float:right">東京</span>	
	④2 サプライヤー選定・評価・育成セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
		④3 サプライヤー評価実務革新セミナー <span style="float:right">東京 大阪 オンライン</span>	
		New! ④4 成果に直結する取引先評価セミナー <span style="float:right">東京</span>	
	New! ④5 調達・購買スタッフのための仕入先管理入門セミナー <span style="float:right">東京</span>	④6 「値上げ要求」対策セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
		④7 シングルソース攻略セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
	④8 サプライヤ評価・サプライヤ戦略セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
間接材		④9 間接材管理実務セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
持続的社會		⑤0 調達担当者のための脱炭素調達セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
		⑤1 人権デューデリジェンス対応セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
業務改善	⑤2 調達購買担当者の問題解決力向上セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
	⑤3 調達担当者のための「データ分析・統計」基礎セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
	⑤4 調達活動におけるデータ活用力強化セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
	New! ⑤5 生成AIの調達業務への活用 <span style="float:right">オンライン</span>		
	New! ⑤6 Copilotで実践する生成AIの調達業務への応用 <span style="float:right">オンライン</span>		
	⑤7 調達リスク対応力強化セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>		
	⑤8 価値発揮のための調達業務改善スキルアップセミナー <span style="float:right">オンライン</span>		
原価管理	技術者のための原価計算 <span style="float:right">※プログラム詳細はP.31参照</span>	理想原価追求による原価革新セミナー <span style="float:right">※プログラム詳細はP.31参照</span>	
		コスト意識を高める損得計算入門コース <span style="float:right">※プログラム詳細はP.31参照</span>	
		意思決定で迷わない管理会計・経済性工学 <span style="float:right">※プログラム詳細はP.32参照</span>	
		設計前に製品コストを創り込む原価企画 <span style="float:right">※プログラム詳細はP.32参照</span>	
		“実践” 製品価値向上とコストダウン同時実現セミナー <span style="float:right">※プログラム詳細はP.32参照</span>	
		設備投資の経済計算とその活用セミナー <span style="float:right">※プログラム詳細はP.33参照</span>	
		製造段階における理想標準原価管理セミナー <span style="float:right">※プログラム詳細はP.33参照</span>	
資格制度	⑤9 CPP-B級試験対策セミナー <span style="float:right">東京 大阪 オンライン</span>	⑥0 CPP-A級試験対策セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	

生 産 購 買 ・ 調 達 開 発 ・ 設 計 ・ 技 術

# 1 新任バイヤー早期戦力化セミナー ID100344 1日

～これだけは知って、業務にあたりたい～  
 ◆ 新入社員や他部門から異動してきた担当者・部課長を対象に、「少なくともこれだけは承知して業務にあたりたい」という、基本要素を解説します。

対 象	● 調達部門に新規配属となった方(役職は問いません)
講 師	● 山藤 順 Strategy and Operations 研究所 代表
会 期	● 2026年 6月 5日(金) オンライン ● 2026年 7月 2日(木) 名古屋 ● 2026年 8月 5日(水) 大阪 ● 2026年 9月15日(火) 東京 ● 2027年 1月18日(月) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 64,350円 会員外 77,000円

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 早期戦力化のために</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達業務の専門性</li> <li>● バイヤーが目指す姿</li> <li>● 調達倫理</li> </ul> <b>2 契約書の構成と意味</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本契約書</li> <li>● 支払いについて</li> </ul> <b>3 「取適法」／実務上の留意点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 取適法の運用状況</li> <li>● 実務上の留意点</li> <li>● 理解度確認チェック</li> </ul>	<b>4 決算書の読み方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 決算書を読む3つの要素</li> <li>● B/S、P/Lと5つの指標</li> <li>● キャッシュフロー計算書</li> <li>● 理解度確認・分析演習</li> </ul> <b>5 見積書の査定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 見積明細の重要性</li> <li>● コスト構成要素</li> <li>● 材料費査定のチェック・ポイント</li> <li>● 加工費査定のチェック・ポイント</li> <li>● 管理費・利益査定のチェック・ポイント</li> <li>● 見積明細が出せない調達品の場合</li> <li>● 理解度確認・計算演習</li> </ul>

**参加者の声** バイヤーが目指す姿に必要な知識を講師の経験と合わせて学ぶことができ、参考となった。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

## 2 調達基礎力向上セミナー



ID100347

1日

### 調達業務の基礎が1日でよくわかる

◆調達・購買・資材担当者は広範囲な知識を身につける必要があります。調達・購買部門の役割から、コスト削減、QD(品質・納期)の管理、そしてサプライヤマネジメント。これらの広範囲な知識のうち基礎力として身につけるべき内容を俯瞰して説明します。またケーススタディにより、翌日からの実務に役立つ知識を習得することが可能です。新任バイヤー、調達経験の浅い方、基礎知識を習得したい方におすすめです。

対象	● 新任バイヤー ● 調達の基礎知識を身につけたい方
講師	● 坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役
会期	● 2026年 5月20日(水) 大阪 ● 2026年 6月 4日(木) オンライン ● 2026年 9月 4日(金) オンライン ● 2026年11月26日(木) 福岡 ● 2026年12月10日(木) 大阪 ● 2027年 3月 2日(火) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 会員外 71,500円

オンライン参加選択可

### プログラム

1日(10:00~16:30)

<b>1 調達・購買の重要性</b> ~調達業務の重要性をしっかりと認識します ● 何を考え業務をすべきか ● 調達・購買業務の役割と重要性 ● 調達・購買担当者に求められる能力	<b>3 コスト削減の基礎</b> ~調達業務でもっとも大切な役割の一つであるコスト削減について考え方とアプローチ手法を学びます ● ABC分析 ● コスト削減4つのアプローチ ● 2つのコスト分析手法
<b>2 調達・購買業務の基礎</b> ~基礎知識とプロセスを学びます ● 調達・購買プロセス ● RFXの提示 ● 交渉基礎 ● 適切な発注数を決定する ● 取適法の基礎 ● 納期・品質の確保	<b>4 【応用編】調達・購買に必要な知識</b> ~“買う”だけではなく一人前のバイヤーになるための応用知識を学びます ● サプライヤ決算書の読み解き方 ● 海外調達の基本



参加者の声 日常業務であまり考えずにやっていることを文章・言葉で伝えていただいたので、「知識」として吸収できた。

## 3 調達業務レベルアップのための問題解決と論理思考スキル習得セミナー



ID152338

半日

調達人材に必要な根源スキルは、個々の調達知識ではなく目の前の問題を具体的に解決するスキルと論理的に考えるスキルです。

◆調達戦略や施策についてうまく資料にまとめられない

◆自分のやりたいことを上司が承認してくれない

◆これまで経験したことのない問題にどう取り組めばよいかわからない

といった悩みをお持ちの方が身につけるべき問題解決と論理思考について、特に「バイヤー業務の遂行」視点から解説します。

対象	● 購買・調達部門の方 ● バイヤー業務の質を上げて成果を出したい方
講師	● 坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役
会期	● 2026年 6月16日(火) オンライン ● 2026年12月 3日(木) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 35,200円 会員外 41,800円



参加者の声 上司への報告一つとっても自分の戦略不足を感じた。具体的にどうしたらよいのか事例がわかりやすい。

### プログラム

半日(13:00~16:30)

<b>1 問題解決のプロセス</b> ● 情報収集対象の2種類 ● 問題解決のための工程 ● 問題の確定	<b>3 論理的な資料作成</b> ● ストーリーチャートの作成 ● プレゼンテーションの各スライド ● 資料内容の事前合意
<b>2 原因の特定と目標設定・施策立案</b> ● 原因の深掘り ● 目標設定(あるべき姿・ありたい姿) ● 対策・施策立案 ● KPI・KGIの設定	<b>4 「報告を聞く側」を徹底的に考えて成果を出す</b> ● 報告は基本的に拒絶される ● 「報告を聞く側」を事前調査する ● 報告時の確認ポイント

## 4 中堅バイヤー実践力強化セミナー



改訂 ID100348

1日

### 自律的業務遂行で調達目標の達成へ

◆中堅バイヤーは、調達組織の目標達成に向け、担当する調達品やサプライヤーに関する業務を自律的に遂行することが期待されます。本セミナーではバイヤーの果たすべき役割、サプライヤーとの関係の維持発展、要求への対応、コンプライアンスなどを考えていきます。

対象	● 調達部門の主任・係長 ● 他部門から配属された新任部課長
講師	● 八島 俊彦 SSMリサーチ 代表
会期	● 2026年 7月 7日(火) オンライン ● 2026年 9月 8日(火) 東京 ● 2026年11月25日(水) 大阪 ● 2027年 2月 9日(火) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 64,350円 会員外 77,000円

オンライン参加選択可

### プログラム

1日(10:00~17:00)

<b>1 調達目標</b> ● ゴール、戦略	<b>5 サステナビリティ対応とリスク対応</b> ● サステナビリティ対応 ● リスク対応
<b>2 調達機能の再考</b> ● 調達の機能、ミッション、役割、業務範囲、ステークホルダー、プロセス、法的対応、契約、サプライチェーン、エンジニアリングチェーン、調達関連システム、課題	<b>6 交渉</b> ● 交渉の進め方、交渉の準備
<b>3 サプライヤーとの関係の維持・発展</b> ● サプライヤーとの関係性、サプライヤーマネジメント体系 ● 財務諸表と財務分析、サプライヤー評価 ● 倒産への対応	<b>7 スキルの強化</b> ● 強化すべきスキル ● スキルを強化する方法
<b>4 要求への対応</b> ● 要求元への価値発揮 ● 開発購買	<b>8 まとめに代えて ~自らの力を伸ばす</b>



参加者の声 実例をあげて解説いただき、わかりやすかった。最新の調達事情についてもふれいただき自分の知識を増やすことができた。

# 5 調達マネージャー実践力強化セミナー

**社内外からの信頼が業務運営の鍵**

- ◆ マネージャーの役割は ①課題を持つこと、②責任を果たすこと、③実践することの3つです。
- ◆ 会社方針や事業方針にどう貢献できるかの方針を定め、状況変化に応じて意思決定しなければなりません。そして、調達マネージャーは部下の活力を引き出し、関連部門との連携を通じて、取引先に能力を発揮してもらうことも必要です。
- ◆ 信頼される調達マネージャーになるためには何を為すべきか、共に考えていきます。

対象	● 購買・調達部門の部長、マネージャー候補者
講師	● 藤田 敏 調達科学研 代表
会期	● 2026年 6月23日(火) 東京 ● 2026年 9月25日(金) 大阪 ● 2027年 2月19日(金) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 64,350円 会員外 77,000円

☑ オンライン参加選択可

参加者の声 調達マネージャーとしての役割と責任、部下の育成についての考え方が理解できた。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>1 信頼を得るために為すべきこと</b></p> <p><b>2 課題の整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業計画策定</li> <li>● 調達戦略とサプライヤー戦略の立案</li> <li>● 調達業務の優先順位・劣後順位</li> <li>● 能動的コーディネーターとは</li> </ul> <p><b>3 調達の責任を果たす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達責任の明確化・宣言</li> <li>● 説明責任を果たす</li> <li>● 目的はプライスダウンではなく、利益改善・利益創出</li> </ul>	<p><b>4 調達施策を実践する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達のアカデミズム</li> <li>● 目で見るな、足で見ろ。頭で考えるな、手で考えろ</li> <li>● 週次でPDCAサイクルを回す</li> <li>● サプライヤーへの丸投げではなく、協創</li> <li>● 技術説明会・展示会・工場見学会の主催</li> <li>● 部下の育成（上司の背中を見せよ）</li> <li>● 組織編制とプロジェクト対応の留意点</li> <li>● コンプライアンス（法律遵守と調達倫理）とCSR</li> </ul> <p><b>5 質疑応答</b></p>

# 6 調達・購買マネージャーのためのマネジメント力強化セミナー

～部下の能力を引き出し、組織力を向上させる～

部下の活躍を支え、次代を担う人材を育成しながら、組織力を向上させていくにはどうすればいいのか、実務経験の豊富な講師が具体例を交えて、組織力を向上させる手がかりを学びます。

対象	● 調達・購買部門の新任マネージャーの方 ● 一年以上に就任予定の調達・購買マネージャー候補の方
講師	● 藤田 敏 調達科学研 代表
会期	● 2026年 8月26日(水) 東京 ● 2027年 3月 5日(金) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 64,350円 会員外 77,000円

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>1 調達購買部門の仕事環境を整える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達購買部門の典型的問題、根源的課題</li> <li>● 調達責任の明確化と調達権限の確立</li> <li>● 事業の根幹を担っているという気概を示す</li> <li>● 受動的な仕事感覚を能動的に変えていく一歩</li> </ul> <p><b>2 部門目標から個人目標への展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● マネージャーの仕事とは</li> <li>● 各人の目標をどのように設定するか</li> <li>● 実行指標と先行指標</li> <li>● 人事考課が行動を決める</li> <li>● 数値で管理すべきは結果よりプロセス</li> </ul> <p><b>3 部下への支援と目標達成への牽引</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 部下の「気づき」を誘発する</li> <li>● 上司の悪い質問と良い質問</li> <li>● コーチングとティーチングの違い</li> <li>● 部下にチャンスを与える、そしてサポートする</li> </ul>	<p><b>4 部下とのコミュニケーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 傾聴力</li> <li>● 部下のモチベーションを下げている理由は何か</li> <li>● 部下の成長を喜び褒めよ</li> <li>● 上司・部下からの信頼を得る</li> <li>● 心理的安全性</li> </ul> <p><b>5 組織力の向上と人材計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リーダーとマネージャーの役割の違い</li> <li>● 現組織のミッションの確認から人材における課題を見出す</li> <li>● 部下のスキル査定により組織の欠落している部分や脆弱な部分を補強する</li> <li>● 職場の風土は上長がつくる</li> <li>● これから求められる思考・行動様式</li> </ul> <p><b>6 グループ討議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織力向上に向けて</li> </ul>

# 7 調達組織の在り方とその活性化セミナー

開発購買に代表される上流での活動強化のために、技術者が調達部門に異動するケースも見られますが、その力を十分に発揮してもらうためにも調達組織の再設計と構成員のモチベーション向上や利益創出力強化が喫緊の課題です。本セミナーでは、社内外のステークホルダーとの連携を通じ、経営の一翼を担う調達部門へと変貌するための道筋を明らかにします。

対象	● 調達部門の部長の方 ● 調達部門の組織的なレベルアップを担う管理職の方
講師	● 藤田 敏 調達科学研 代表
会期	● 2027年 2月 9日(火) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 62,700円 会員外 74,800円

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>0 パラダイムシフトへの気づき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● AI・ロボティクス時代の到来</li> <li>● Project Aristotle 効果的なチームとは？</li> <li>● ジョブ型とメンバーシップ型</li> </ul> <p><b>1 経営に貢献する調達組織とは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主資本主義からステークホルダー資本主義へ</li> <li>● 事業の根幹を担っている気概を示す</li> <li>● 言い訳から始めるな</li> <li>● 利益創出における調達の伝統的思考からの脱皮</li> </ul> <p><b>2 調達部門の組織の位置付け</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本は職の専門化が進んでいない</li> <li>● 調達の深化</li> <li>● 調達組織の考え方</li> <li>● 本社部門の心得</li> </ul> <p><b>3 調達組織体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業組織の変遷</li> <li>● マネジメントとリーダーシップの違い</li> <li>● 自社に合った調達組織の枠組みとは？</li> <li>● 調達部門の責任の明確化と権限の確立</li> <li>● サプライヤーとの協力関係強化</li> </ul>	<p><b>4 調達部門の業務の明確化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 影響力行使と拡大する業務</li> <li>● コストマネジメント2つの視点</li> <li>● 調達競争力強化の方向性</li> <li>● 購買業績評価の思想的発展</li> </ul> <p><b>5 一目置かれる調達部門になるには</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達コストは売り上げを上げるための投資</li> <li>● 原価低減は決して難しくない</li> <li>● マーケティングに無関心では調達は務まらない</li> </ul> <p><b>6 事業計画立案・実行・PDCA</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スローガンからマニフェストへ</li> <li>● 戦略とはやめることを決めること</li> <li>● 実行指標と先行指標（結果目標と行動目標）</li> </ul> <p><b>7 調達組織の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問力が組織を変える</li> <li>● スキルの前にモチベーション</li> <li>● 若手社員とベテラン社員の関わり合い</li> <li>● モチベーションを下げる要因を排除する</li> <li>● これからの調達部門の道</li> </ul> <p><b>8 Q&amp;A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受講者の具体的な課題に関するアドバイス等</li> </ul>



# 11 バイヤー業務の基礎知識習得セミナー



ID151377

1日

バイヤーにとって必要かつ重要な項目をコンパクトに網羅

- ◆新規配属者や若手社員を対象に、バイヤーに必要な項目をコンパクトに網羅し、事例を交えてお伝えします。
- ◆「バイヤーに必要な4つの力」「バイヤーの心得10か条」を軸に、演習を取り入れ、わかり易く、すぐに実践できるように学びます。
- ◆顧客視点のマーケティング、品質・コスト・納期の押さえ方、交渉のポイント、サプライヤーとの信頼関係の築き方など解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造業の購買・調達部門の新任スタッフ</li> <li>● PB・OEM商品の新任バイヤー・マーチャンダイザー</li> <li>● 上記部門への新規配属者・新任マネジャー</li> </ul>
講師	● 大沢 徹 Office Sourcing Worth 代表
会期	● 2026年11月12日(木) 東京
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 64,350円</li> <li>● 会員外 77,000円</li> </ul>



参加者の声 仕事の仕組みや心得10か条等、基礎を多く学べたところが良かったです。今後に繋げていきたいと思います。

プログラム	
1日(10:00~17:00)	
<p><b>1 バイヤーに必要なこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バイヤーの心得10か条</li> <li>● バイヤーに必要な4つの力(専門知識・論理性・真摯さ・想像力)</li> <li>● サプライヤーを把握する</li> </ul> <p><b>2 バイヤーの業務サイクル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バリューチェーンにおけるバイヤーの役割</li> <li>● 演習「自己の業務をバリューチェーン化する」</li> </ul> <p><b>3 顧客視点で考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 想像力の重要性</li> <li>● 情報収集とマーケティング</li> <li>● 戦略策定とPDCA</li> <li>● 安全・安心、社会的責任</li> </ul>	<p><b>4 品質・コスト・納期を押さえる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 仕様書から品質を知る</li> <li>● 見積書からコスト構造を押さえる</li> <li>● 製造工程・生産地から納期を押さえる</li> </ul> <p><b>5 商談、交渉のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 商談の心得</li> <li>● 演習「見積の精査、コスト交渉のポイント」</li> </ul> <p><b>6 確認すべき法令法規</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプライアンスを知る(契約書・下請法)</li> <li>● 知的財産権を確認する</li> </ul> <p><b>7 サプライヤーとのパートナーシップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライヤーの選定と評価</li> <li>● サプライヤーと進めるSDGs</li> </ul>

# 12 成果につながる開発購買の進め方セミナー



ID100355

1日

開発購買推進の実践ポイントが学べる!

開発購買成功のために調達部門が良きコーディネーターになって、サプライヤーを含めた関連部門との連携を深め、これまで調達部門が培ってきた経験や知識を最大限に活用しながら、新たに開発購買に必要な視点と進め方及びツールを解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発購買推進担当の方々</li> <li>● サプライヤーおよび関連部門との調整方法を学びたいの方々</li> <li>● 製造業の調達部門の主任、係長、部課長の方々</li> </ul>
講師	● 藤田 敏 調達科学研 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年6月11日(木) 大阪</li> <li>● 2026年11月17日(火) 東京</li> <li>● 2026年12月23日(水) 大阪</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 64,350円</li> <li>● 会員外 77,000円</li> </ul>

オンライン参加選択可



参加者の声 開発購買の定義から、具体的に必要な知識、スキルまで、幅広く網羅されていて、大変参考になりました。

プログラム	
1日(10:00~17:00)	
<p><b>1 なぜ開発購買がうまくいかないのか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発購買とは何か</li> <li>● 開発購買による効果</li> <li>● 開発購買における役割と連携の進化</li> <li>● 開発購買における勘違い</li> </ul> <p><b>2 開発購買の進め方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 原価企画が開発購買の第一歩</li> <li>● 原価企画は利益計画の具体的な展開</li> <li>● 目標原価の作り方</li> <li>● 企画・開発・設計プロセスに沿った開発購買</li> <li>● 階層的サプライヤー戦略</li> <li>● グローバルな開発購買体制</li> </ul> <p><b>3 開発購買はVE活動が基本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● VEの考え方</li> <li>● VEの活用手順</li> </ul>	<p><b>4 ライフサイクルでのQCD最適化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計品質の向上</li> <li>● キーデバイスの確保</li> <li>● リスク・マネジメント</li> <li>● 製品ライフサイクルとコストの関係</li> </ul> <p><b>5 開発購買に求められる分析能力・ツール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発購買に求められる能力</li> <li>● 開発購買に必要なツール</li> </ul> <p><b>6 開発購買事例</b></p> <p><b>7 開発購買成功の基盤</b></p>

# 13 コスト削減ツールとしての「コスト分析」セミナー



ID100356

1日

コスト分析は「査定ツール」ではなく、

「コスト削減ツール」

コスト分析の目的が「適切な価格査定を行う」という狭い領域にとらわれがちで、結果として「コスト削減効果が得られない」「コストテーブルは作ったが活かされていない」「コストテーブルのメンテナンスができていない」といった状況に陥っている企業が多いようです。

本セミナーでは、「コスト削減につなげるバイヤーの知恵・工夫を盛り込む」ということを事例をあげて解説します。

対象	● 機械加工部品の単価決定業務・VA(VE)業務・コストテーブル作成業務を担当する方
講師	● 山藤 順 Strategy and Operations 研究所 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月21日(水) 大阪</li> <li>● 2026年12月10日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 64,350円</li> <li>● 会員外 77,000円</li> </ul>



参加者の声 OJTで学ぶ機会がなく「バイヤーとしての基礎」を学ぶことができた。

プログラム	
1日(10:00~17:00)	
<p><b>1 コスト分析とバイヤーの知恵・工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コスト分析の目的</li> <li>● 見積明細を必要とする理由</li> </ul> <p><b>2 コスト分析の得手・不得手</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般的な価格の査定方法</li> <li>● 一般的な価格の決定要因</li> <li>● マクロなコスト分析法</li> </ul> <p><b>3 部品コストの構成要素</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コスト構成要素</li> <li>● 見積書の一般的構成</li> <li>● 見積書サンプル</li> </ul> <p><b>4 部品コストの分析手順</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料費の分析</li> <li>● 加工費の分析</li> <li>● 加工費率の分析</li> <li>● 加工時間の分析</li> <li>● 管理費・利益の分析</li> </ul>	<p><b>5 実践のコストテーブルの考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コストテーブルが使われない理由</li> <li>● これがベターなコストテーブル</li> </ul> <p><b>6 コスト削減につなげる知恵・工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ウォーミングアップ計算</li> <li>● プレス部品コスト分析</li> <li>● 射出成型部品コスト分析</li> <li>● 段ボールシート加工品価格査定とコスト削減活動</li> </ul>



# 17 コスト削減の考え方と進め方基礎セミナー

ID152344  
半日

## さらなるインフレ基調に今から備える

多くの企業では、調達購買のあり方を見直し、値上げの抑制も含めたコスト削減の強化が、多くの調達購買の担当者の喫緊の課題となっています。本セミナーでは、コスト削減の考え方と進め方について、短期間で成果を出す具体策に加え、現場横断で英知を結集する方法を、調達購買領域を専門とするコンサルタントが解説します。

対象	● コスト削減の考え方と進め方に関心のある、調達購買の担当者 ● コスト削減活動を担う、調達購買部門の担当者
講師	● 坂田 直樹 パーソル株式会社 取締役
会期	● 2026年 6月 4日(木) オンライン ● 2026年10月 9日(金) オンライン ● 2027年 2月 8日(月) 東京
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 38,500円 ● 会員外 45,100円

プログラム	
1日 (13:00~16:30)	
<b>1 コスト削減の基本</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● コストを定義する3つの視点：会計、財務、経済学</li><li>● 交渉は最後の手段！コスト削減の優先順位</li></ul>	<b>3 コスト削減の体系化</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 現場横断でコスト削減を進めるポイント</li><li>● 開発設計が起点となるコスト削減手法</li><li>● 調達購買が担うコスト削減</li><li>● 生産・製造が主導する方法</li></ul>
<b>2 値下げ余地の生み出し方</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● サプライヤの特徴の見極め</li><li>● 品目特性別の攻略方法</li><li>● 業務コストの低減</li><li>● 取り組み対象を広げる方法</li></ul>	<b>4 品目別のコスト削減アプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 原材料</li><li>● 購入部品</li><li>● 委託加工品</li><li>● 仕入商品</li><li>● 間接材</li></ul>

# 18 設備調達セミナー

NEW ID152621  
1日

近年、旺盛な設備投資意欲に調達部門は直面していますが、長らく継続した設備投資機会の減少によって、設備導入にともなう調達ノウハウが失われつつあります。設計・現場部門があらかじめサプライヤーを決めてしまい、設備導入の遅延を避けるために予算オーバーにも関わらず「やむを得ず」注文書を出している実態があります。調達費用の妥当性が検証できないという課題を抱える方も多いのではないのでしょうか？そこで本セミナーではいまの時代に即した設備調達のノウハウをわかりやすく解説していきます。設備調達の考え方を学びなおしたい方、従来から続けてきた手法をアップデートしたい方のご参加をお待ちしております。

対象	● 購買・調達部門の方 ● 設備調達に関係する方
講師	● 牧野 直哉 未来調達研究所(株) 取締役
会期	● 2026年 7月22日(水) 大阪 □ ● 2027年 1月22日(金) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 ● 会員外 77,000円

□ オンライン参加選択可

プログラム	
1日 (10:00~16:30)	
<b>1 設備調達とは？</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 設備調達定義</li><li>● 設備調達と直接材・間接材調達の相違点</li><li>● 設備調達の問題点と今日的課題</li></ul>	<b>3 設備調達実践事例</b> <p>講師がコンサルティングの現場で培ったさまざまな実例と、どのように解決へ導いたのかを、惜しみなくお伝えします</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● <b>Case1</b> 汎用的設備購買のとき</li><li>● <b>Case2</b> 仕様書が書けないとき</li><li>● <b>Case3</b> 1社購買サプライヤーのとき</li><li>● <b>Case4</b> 購入要求部門と調達・購買部門のコラボレーション</li><li>● <b>Case5</b> 設備サプライヤーとの関係性構築法</li></ul>
<b>2 設備調達のポイントと実践</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 設備投資目的の明確化</li><li>● 現行設備の現状把握～問題・課題のあぶり出し／発注実績のデータベース化</li><li>● 購入仕様書の作成</li><li>● 発注先候補選定</li><li>● 見積依頼</li><li>● 見積査定</li><li>● サプライヤー選定方式</li><li>● 契約管理</li><li>● 納期管理（立会検査）</li><li>● 設備稼働（初期）管理</li><li>● 稼働後フォロー（運用管理）</li></ul>	

# 19 バイヤーのための 戦略的交渉力セミナー

ID100361  
2日間

## 「ロールプレイ実習」で交渉術UP！

◆「長期的な信頼関係」を重視しながら、自分（自社）の「最大限の利益」を巧みに勝ち取るための、戦略的交渉力を学びます。調達交渉のケーススタディを用いて、ビデオ撮影を伴うロールプレイ演習をじっくり行うため、より実践に活かせる交渉を体得できます。

対象	● 購買・調達部門にてサプライヤーとの交渉に臨まれている方 ● 交渉力を向上させ、競争力を高めたい方 ● 交渉の理論、プロセスを習得したい方
講師	● 観音寺 一嵩 (株)NRIJ 代表取締役社長 ● 宮本 直樹 (株)NRIJ認定コンサルタント
会期	● 2026年 5月26日(火)～5月27日(水) 東京 ● 2026年 6月25日(木)～6月26日(金) 東京 ● 2026年 9月 3日(木)～9月 4日(金) オンライン ● 2026年10月27日(火)～10月28日(水) 東京 ● 2027年 1月19日(火)～1月20日(水) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 121,000円 ● 会員外 133,650円

プログラム		
	1日目【理論編】	2日目【ロールプレイ実習】
10:00	<b>1 交渉の基本概念</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 交渉の心構え：「Win/Perceived Win」</li><li>● 交渉のスタイル：「Warm &amp; Tough」</li><li>● 交渉のインフラ：「Trust ; GoodWill」</li></ul> <b>2 5つの説得テクニック</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 演習 「5歳の子の説得テクニック」</li><li>● 演習 「取引カード」</li></ul> <b>3 6つの交渉フェーズ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 交渉の準備とプランニング</li><li>● ワンポイントレッスン「タダでは与えないで交渉しよう」</li></ul> <b>4 7つの交渉タクティクス（戦術）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 使えるタクティクス（戦術）</li><li>● 気をつけたいトリック（計略）</li></ul>	<b>【ロールプレイ実習のねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 学習ポイントの復習</li><li>● スキル及びテクニックの練習および習得</li><li>● 各自の交渉スタイルの認識、改善点の発見</li><li>● 交渉に対する不安解消、自信の獲得</li><li>● 今後の交渉スキル向上への意欲付け</li></ul> <b>【ロールプレイ実習の流れ】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● グループ分け（3～5チーム）</li><li>● ロールプレイ実習</li><li>● プランニング</li><li>● ロールプレイング（ロールプレイ講師を相手にマンツーマンで交渉している姿をレコーディング。受講者全員が各1回登場）</li><li>● フィードバック（撮影したビデオを再現しながら、メイン講師が個別指導）</li></ul>
18:00	<b>5 人間的要素</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 戦略的人間関係構築</li></ul>	

(オンライン会期は10:00~17:00)

参加者の声 今の自分のレベルを確認する良い機会であり、繰り返し実践することで自分のモノにできた。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。



## 23 調達・購買スタッフのための説明力習得セミナー



ID 152523

1日

～調達・購買業務の調整・交渉場面で求められる説明力を向上させる～

説明力を向上させるために必要な心構え、スキルを学んだ上で、「上司の承認を得る」「関係部門との調整」「取引先との交渉」など調達・購買業務によくあるシーンに合わせた適切な説明の仕方について、講義・演習を通して習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>入社3～4年目の調達・購買スタッフの方</li> <li>関係部門との調整や取引先との交渉に課題をお持ちの方</li> </ul>				
講師	佐藤 公和 応援のチカラ 代表 プロコーチ				
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 7月15日(水) 東京</li> <li>2026年11月17日(火) 東京</li> </ul>				
参加料(税込)	<table border="0"> <tr> <td>1名につき 法人会員</td> <td>62,150円</td> </tr> <tr> <td>会員外</td> <td>73,150円</td> </tr> </table>	1名につき 法人会員	62,150円	会員外	73,150円
1名につき 法人会員	62,150円				
会員外	73,150円				

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>1 調達・購買スタッフに説明力が必要な理由とは？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明力向上がもたらす3つのこと</li> <li>説明下手な人がしてしまう伝え方</li> <li>調整・交渉場面で求められる説明力とは</li> </ul> <p><b>2 説明の基本ステップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心構え</li> <li>事前準備</li> <li>納得感のある伝え方</li> </ul> <p><b>3 上司の承認を得るための説明力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承認時に必要な情報(背景・経緯・理由)を用意する</li> <li>懸念事項の洗い出しと対応策を準備する</li> <li>承認されないことによるリスクについて触れる</li> </ul> <p><b>演習</b>「取引先からの値上げ要請を受け、上司の承認を得るための準備をする」</p>	<p><b>4 関係部門との調整をスムーズに行うための説明力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係部門の特性(部分最適を優先)を理解する</li> <li>関係部門の上流工程に配慮した伝え方</li> <li>関係部門のために対応していること示して協力を促す</li> </ul> <p><b>演習</b>「取引先の納期遅延が発生！関係部門に説明するための準備をする」</p> <p><b>5 取引先との交渉で合意を得るための説明力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取引先との交渉における心構え</li> <li>「共通の目標」を設定して実現のために協力できる関係をつくる</li> <li>営業担当者を味方につける伝え方</li> </ul> <p><b>演習</b>「取引先とのコストダウン交渉で説明するための準備をする」</p> <p><b>6 総合演習</b></p> <p>「上司の承認を得る」「関係部門との調整」「取引先との交渉」場面で求められる説明の仕方について、理解度を確認するための総合演習</p>

## 24 調達担当者のための交渉力基礎習得セミナー



ID 100366

半日

調達担当者が真に必要な本当の交渉力

◆企業における購買取引は、長期継続取引を前提としたものが多く、交渉には協調的な側面と競争的な側面の2つが存在することに特徴があります。

◆テクニックを駆使する「交渉術」だけではなく、交渉プロセスを管理し、創造的な交渉結果を実現する「交渉力」を習得していただけます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>購買・調達部門の方</li> <li>バイヤーに必要な交渉力を習得したい方</li> </ul>				
講師	坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役				
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 8月 4日(火) オンライン</li> <li>2026年11月18日(水) オンライン</li> <li>2027年 2月 9日(火) オンライン</li> </ul>				
参加料(税込)	<table border="0"> <tr> <td>1名につき 法人会員</td> <td>35,200円</td> </tr> <tr> <td>会員外</td> <td>41,800円</td> </tr> </table>	1名につき 法人会員	35,200円	会員外	41,800円
1名につき 法人会員	35,200円				
会員外	41,800円				

プログラム	
半日 (13:00～16:30)	
<p><b>1 交渉の土台作り</b></p> <p>～調達交渉は、ターゲットと調達戦略の構築が前提となります。その本質をご説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調達交渉とは何か</li> <li>品目別分析</li> <li>社内事前合意</li> </ul>	
<p><b>2 交渉準備</b></p> <p>～調達交渉で重症なそもそも取引先からしっかりとした見積書を取得したり、調達の土台を作りを施行する必要があるため、その本質をご説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RFP/RFQ</li> <li>サプライヤ分析、市況分析</li> <li>MDO/LAA/BATNAを想定する</li> <li>交渉相手のニーズ分析</li> <li>交渉のストーリー、選択肢の検討</li> </ul>	
<p><b>3 交渉実行</b></p> <p>～実際の調達交渉時に必要なテクニックをすべてお伝えします</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交渉導入から要求・確認まで</li> <li>交渉術</li> <li>調達交渉後</li> </ul>	

参加者の声

交渉プロセスを管理する能力も大事だと認識した。演習を重ねることで自分の弱点が浮き彫りになった。

## 25 はじめて取引先担当を持つ交渉力入門セミナー



ID 152634

1日

～交渉の基礎力を身につけ、

取引先との初交渉にそなえる～

はじめて取引先担当を持つことになった調達・購買スタッフが安心して取引先との初交渉に臨めるよう、「交渉の心構えと基本ステップ」「納期交渉・価格交渉の基礎」「交渉中に困ったときの対処方法」について、交渉の基礎知識がない方にもわかりやすく解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめて取引先担当を持つことになった調達・購買スタッフの方</li> <li>他部門から異動された調達・購買スタッフの方</li> <li>交渉力について一から学びたい調達・購買スタッフの方</li> </ul>				
講師	佐藤 公和 応援のチカラ 代表 プロコーチ				
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 6月 5日(金) 東京</li> <li>2026年10月 8日(木) 東京</li> </ul>				
参加料(税込)	<table border="0"> <tr> <td>1名につき 法人会員</td> <td>62,150円</td> </tr> <tr> <td>会員外</td> <td>73,150円</td> </tr> </table>	1名につき 法人会員	62,150円	会員外	73,150円
1名につき 法人会員	62,150円				
会員外	73,150円				

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<p><b>1 調達・購買業務で交渉力が必要な理由とは？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交渉力を高めることで得られる3つのこと</li> <li>交渉時に陥るよくある3つのケース</li> <li>取引先交渉で求められる交渉力とは</li> </ul> <p><b>2 交渉で欠かせない6つの約束事と4つの基本ステップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交渉で欠かせない6つの約束事</li> <li>交渉の4つの基本ステップ</li> </ul> <p><b>演習</b>「交渉材料を整理して下準備する」</p> <p><b>3 納期交渉の基礎を学ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>納期交渉に必要な3つの情報</li> <li>希望する納期に納品できない原因は「工程表」で把握</li> <li>交渉プロセスを丁寧に説明して、関係部門と調整</li> </ul> <p><b>演習</b>「顧客の要望で追加発注が必要！納期交渉の準備する」</p>	<p><b>4 価格交渉の基礎を学ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格交渉に必要な3つの情報</li> <li>交渉ですぐ活用できるコストダウン手法</li> <li>取引先営業担当者の「ぜひ協力したい！」を引き出す伝え方</li> </ul> <p><b>演習</b>「新規製品の発注を担当することに！価格交渉の準備する」</p> <p><b>5 交渉中に困ったときの対処方法を理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取引先から急に生産中止の話が！納期交渉をどうすべきか？</li> <li>コストダウンを依頼したら、値上げ要請をされた！価格交渉をどうすべきか？</li> <li>毎期のコストダウン交渉で「ゼロ回答」！再交渉をどうすべきか？</li> </ul> <p><b>6 総合演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「納期交渉の基礎」「価格交渉の基礎」「交渉中に困ったときの対処方法」について、理解度を確認するための総合演習</li> </ul>





## グローバル調達戦略の再構築

どのような海外調達を目指すのか、どのように海外取引先とのビジネスを進めていけばよいのかといった命題を乗り越えていかねばなりません。如何にして海外サプライヤーとの取引を安定させ、経営に貢献する盤石な調達体制を確立していくのか、講師の豊富な経験と今後の見通しを踏まえて解説していきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル調達担当</li> <li>購買・調達部門の部長・マネジャー</li> <li>調達マネジメント戦略に携わる方</li> </ul>
講師	藤田 敏 調達科学研 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 7月 7日(火) 東京</li> <li>2027年 2月16日(火) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,700円</li> <li>会員外 74,800円</li> </ul>



参加者の声 取引先の評価方法、手法について具体例が多くあり参考になりました。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 海外サプライヤーとの取引は必要なのか</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カントリーリスク (政経分離の終焉)</li> <li>・米中分断下の供給網</li> <li>・海外調達の理由を再確認</li> <li>・優れた調達戦略の立案</li> <li>・商社活用の意味</li> </ul>	<b>4 交渉・契約</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手国の歴史・文化・慣習を学ぶ</li> <li>・有利な契約を進める方法</li> <li>・英語圏・中華圏それぞれのメンタリティ</li> </ul>
<b>2 海外サプライヤーの評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先選定プロセスの基本</li> <li>・海外サプライヤーは求めているのか</li> <li>・サプライヤー評価の7大要素</li> </ul>	<b>5 グローバル調達体制作り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本社の国際化と地域分権</li> <li>・国際供給網と地域供給網の共存</li> <li>・経済圏構想における各国の思惑</li> </ul>
<b>3 海外サプライヤーとどう向き合うか</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価のフィードバック</li> <li>・海外調達におけるリスク・マネジメント</li> <li>・海外調達におけるSDGs</li> <li>・コストダウンの論理的根拠</li> <li>・為替変動をどう考えるか</li> </ul>	<b>最後に</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調達プロフェッショナルとは</li> </ul>



- ◆本セミナーでは、海外から製品を調達するスキルを基本から学びます。
- ◆さらに、サプライヤーとのコミュニケーションや、リスク・トラブル対応など、担当者が悩みやすい項目も取り上げます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外調達のご担当者</li> <li>海外サプライヤーとのやりとりがある方</li> </ul>
講師	坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 5月27日(水) オンライン</li> <li>2026年10月28日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 35,200円</li> <li>会員外 41,800円</li> </ul>



参加者の声 テキストがとても充実しており、たった1日で多くの知識と情報を得ることができて満足度が高い。

プログラム	
半日 (13:00 ~ 16:30)	
<b>1 海外調達はなぜ必要か、なぜ重要か</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 海外輸入のメリットとデメリット</li> <li>(2) 直接輸入と商社経由輸入</li> </ul>	<b>3 海外調達先とのトラブル事例・知っておきたい法律</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 金型の図面流出</li> <li>(2) その他輸入にまつわるトラブルと法律</li> </ul>
<b>2 海外調達のプロセスを確認する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 輸入業務の流れ</li> <li>(2) どのように海外サプライヤーを探すか</li> <li>(3) 海外サプライヤーの製品コスト</li> <li>(4) 輸入にまつわる各種コスト</li> <li>(5) インコタームズの説明</li> <li>(6) 契約書の締結</li> <li>(7) 海外輸入における製品と書類の流れ</li> </ul>	



## 調達契約スキルを高めるために必要な基礎知識を習得する

契約意識が日常業務に浸透してきた今、担当者には「調達の立場で考える契約の知識」が求められています。

本セミナーでは、

- ◆調達プロセスにおける契約の位置づけ
  - ◆契約書の作成、確認の留意事項等
- についての知識を1日で無理なく学べます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達関連の契約を学びたい方、CSR調達、リスクマネジメント、内部統制の担当者、購買・調達業務、契約に関わる方</li> </ul>
講師	山田 大貴 (株)日本能率協会コンサルティング コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年10月27日(火) 東京</li> <li>2027年 2月24日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>会員外 73,150円</li> </ul>



参加者の声 契約を学んだことがないまま実務を行ってきたが、いかに危険なことか理解できた。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 調達の役割と基本業務</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調達とは</li> <li>・調達対象の特性にあった管理のポイント</li> </ul>	<b>4 契約内容の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約とは</li> <li>・基本契約と個別契約</li> <li>・契約書におこむべきこと</li> <li>・国際取引と取引タイプ</li> </ul>
<b>2 調達関連契約と法規の基礎知識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調達関連契約の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・売買契約、業務委託契約</li> </ul> </li> <li>・調達関連法規とは <ul style="list-style-type: none"> <li>・下請法、トラブル事例、印紙税法</li> </ul> </li> </ul>	<b>5 契約交渉の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約交渉とは</li> <li>・契約交渉の基本</li> <li>・契約交渉の基本ステップとポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備事項、話の進め方</li> </ul> </li> </ul>
<b>3 調達の基本プロセスとポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約までの基本プロセス</li> <li>・各プロセスでの契約に関わる留意事項</li> </ul>	<b>6 まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点の確認</li> </ul>

# 32 調達・購買担当者のための 取適法の理解と事例対策セミナー

改訂 ID100370 1日

## 「下請法」から「取適法」へ

日常の調達業務に関連の深い「取適法」（改正下請法）に着目し、同法の本質理解と中小受託取引における同法遵守上の留意点・違反事例を交えて、実務に即した具体的な対応策を紹介・解説するプログラムです。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造業・サービス業の購買・調達部門のリーダークラス・マネジャーの方</li> <li>その他、関連部門（設計・開発・総務・管理・経理部門）にて購買・調達業務に携わる方</li> </ul>
講師	近藤 学 近藤モノづくり研究所 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 5月26日(火) 東京</li> <li>2026年 7月24日(金) 大阪</li> <li>2026年 9月25日(金) 名古屋</li> <li>2026年 11月12日(木) 東京</li> <li>2026年 12月15日(火) 大阪</li> <li>2027年 2月18日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>                  会員外 73,150円</li> </ul>

オンライン参加選択可

参加者の声 資料がわかりやすく、復習できるように工夫されていて大変助かる。事例を多数解説いただき、とても参考になった。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<p>1. はじめに ● 法令・社会規範の遵守</p> <p>2. 「取適法」の本質理解と実務対応 (主な改正内容を重点解説)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取適法（中小受託取引適正化法）の概要             <ul style="list-style-type: none"> <li>①取適法とは ②取適法の内容と罰則</li> <li>③取適法適用の判断基準と要件</li> <li>④中小受託取引における委託事業者の「4つの義務」と「11の禁止事項」</li> </ul> </li> <li>実務上の不具合事例とその対応策（取適法運用基準の改正への対応）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①不当な経済上の利益の提供要請の禁止                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期不稼働金型・版等の無償保管</li> <li>・知的財産権の保護</li> </ul> </li> <li>②買いたたきの禁止                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正価格の決め方</li> <li>・見積書の内容・フォーマットと査定方法</li> <li>・値上げ要請への対応</li> </ul> </li> <li>③受領拒否の禁止                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・注文取消し、納期変更等への対応</li> </ul> </li> <li>④支払い遅延の禁止&amp;遅延利息の支払い義務                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支払日の設定方法における留意点</li> <li>・情報成果物委託における特例と対応について</li> <li>・遅延利息の計算方法</li> <li>・「減額」への遅延利息支払い義務の適用</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>3. 官庁による取適法遵守状況調査と取適法事件処理の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 官庁による取適法遵守状況調査</li> <li>● 取適法事件処理フローチャート</li> <li>● 取適法運用強化の流れ</li> <li>● 取適法運用基準改正とその対応</li> </ul> <p>4. 取適法遵守体制の構築と自主チェックによるガバナンス強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社遵守体制構築の重要性と意義</li> <li>● 取適法責任者とその役割</li> <li>● 内部自主検査（監査）によるチェックとフォロー</li> <li>● 「取適法」遵守に向けた業務規定・標準・手順書等の整備</li> <li>● 購入依頼部門、発注担当部門、支払部門における相互補完</li> <li>● 発注システム対応（業務サポート）</li> </ul> <p>5. 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 理解度確認シート演習</li> </ul>

# 33 調達・購買スタッフのための文書作成力習得セミナー

NEW ID152836 1日

調達・購買スタッフは、調達関連契約書や稟議書、申請書などの社内外に手続きが必要となる文書、取引先や関係部門との間でやり取りするメールなど、文書を作成する機会が多くあります。しかし、「上司の承認が得られない」「関係部門や取引先との間でのテキストコミュニケーションがスムーズにいかない」といった課題をお持ちの方が多いのではないのでしょうか。

本セミナーでは、調達・購買スタッフが調達・購買業務を行う際に必要となる「文書作成の基本」「調達関連契約書の取り扱い方」「承認される稟議書・申請書の書き方」「調達業務を円滑に進める文書の書き方」等について、調達・購買業務経験がない方にもわかりやすく解説し、調達業務で取り扱う文書の書き方を身につけます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>配属1~3年目の調達・購買スタッフの方</li> <li>他部門から異動された調達・購買スタッフの方</li> <li>調達業務に関連する文書作成について学びたい調達・購買スタッフの方</li> </ul>
会期	2026年 8月24日(月) 東京
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>                  会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<p>1 調達・購買業務で文書作成力が必要な理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達・購買業務のトラブルは「言った」「言わない」から始まる</li> <li>● 文書で残しておくことの重要性を理解する</li> <li>● 調達・購買スタッフに必要な文書作成力とは</li> </ul> <p>2 文書作成の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達業務で作成する文書の種類             <ul style="list-style-type: none"> <li>①契約書 ②稟議書・申請書 ③メール・議事録</li> </ul> </li> <li>● 文書作成のプロセス             <ul style="list-style-type: none"> <li>①目的と種類の明確化 ②読み手の立場を理解</li> <li>③文書作成 ④確認・修正</li> </ul> </li> <li>● 文書力向上のポイント             <ul style="list-style-type: none"> <li>①正確な言葉 ②正確な表現 ③わかりやすさ</li> <li>④短文化 ⑤箇条書き</li> </ul> </li> </ul> <p>3 調達関連契約書の取り扱い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主な調達・購買関連契約書の種類             <ul style="list-style-type: none"> <li>①売買契約 ②業務委託契約</li> </ul> </li> <li>● 契約締結までのプロセス             <ul style="list-style-type: none"> <li>①契約内容の確認と合意 ②契約書の作成</li> <li>③契約書の修正 ④契約書の締結</li> </ul> </li> <li>● 修正協議になりやすい項目への対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>①製造物責任 ②契約不適合責任</li> <li>③秘密保持義務 ④支払い条件等</li> </ul> </li> </ul> <p>※演習「契約書の誤りや不利になる恐れのある部分を指摘、適切な契約書に修正する」</p>	<p>4 承認される稟議書・申請書の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通る稟議書と通らない稟議書の違い</li> <li>● 承認される稟議書の構成             <ul style="list-style-type: none"> <li>①発案理由 ②得られる効果 ③リスクと対処法</li> <li>④コストと実施時期</li> </ul> </li> <li>● 各種申請書作成の注意点             <ul style="list-style-type: none"> <li>①「新規取引口座開設申請書」 ②「4M変更通知書」</li> <li>③「特採申請書」</li> </ul> </li> </ul> <p>※演習「取引先からの値上げ要請に関する稟議書を準備する」</p> <p>5 調達業務を円滑に進める文書の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● メールでの依頼・報告・相談の仕方             <ul style="list-style-type: none"> <li>①取引先 ②関係部門 ③上司 ④テレワーク時</li> </ul> </li> <li>● 取引先との交渉過程・結果の書き方             <ul style="list-style-type: none"> <li>①取引先交渉の議事録編 ②社内調整会議の議事録編</li> </ul> </li> <li>● 生成AIを活用する時の注意点</li> </ul> <p>※演習「取引先との交渉結果を議事録にまとめる」</p> <p>6 総合演習</p> <p>「契約書の取り扱い方」「承認される稟議書・申請書の書き方」「調達業務を円滑に進める文書の書き方」の理解度を確認するための総合演習</p>

# 34 「サプライヤ決算書の見方と倒産事前察知」習得セミナー

ID151524 半日

サプライヤの決算書を取り寄せたはいいものの、きちんと活用せず放置していませんか？決算書の見方を学ぶだけではなく、各種経営指標と活用法までを半日でしっかりと解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買・調達部門の方</li> <li>● 技術・品質保証部門、経営企画部門の方</li> <li>● いち早くサプライヤの異変をつかみ対応したい方</li> </ul>
講師	坂口 孝則 未来調達研究所 取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 9月 3日(木) オンライン</li> <li>● 2027年 1月21日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 35,200円</li> <li>                  会員外 41,800円</li> </ul>

参加者の声 情報をわかりやすく整理すると見えてくるものにたくさん気づかされた。

プログラム	
半日 (13:00 ~ 16:30)	
<p>1 決算書の基本と見方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ決算書が必要なのか</li> <li>● 貸借対照表、損益計算書とは何か</li> <li>● 貸借対照表の構造</li> <li>● 貸借対照表と損益計算書の位置づけ</li> </ul> <p>2 代表的な経営指標とその活用法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全性、収益性、成長性、返済能力</li> <li>● 各種経営指標について</li> <li>● その他、確認すべきポイント</li> </ul> <p>3 サプライヤの粉飾を見抜く方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者目線から粉飾を考える</li> <li>● 粉飾の際につじつまがあわなくなる箇所</li> <li>● 粉飾度合いを計算する</li> </ul>	



# 38 サプライチェーンマネジメント(SCM)基礎力養成セミナー



ID 100382  
1日

競争力あるサプライチェーン構築に戦略的に  
取り組むには

◆調達カテゴリ戦略、サプライヤー戦略、サ  
プライヤーマネジメントの基本的な考え方と  
進め方を具体的な事例などを通じ、解説して  
いきます。

対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買調達部門の新任管理者、課長、中堅社員</li> <li>● 生産管理担当の新任管理者、課長、中堅社員</li> <li>● オペレーション改善や在庫最適化を志向して いるプロジェクトメンバー など</li> </ul>				
講 師	● 山藤 順 Strategy and Operations 研究所 代表				
会 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月26日(金) 東京</li> <li>● 2026年10月22日(木) 大阪</li> <li>● 2027年 2月10日(水) 東京</li> </ul>				
参加料 (税込)	<table border="0"> <tr> <td>● 1名につき 法人会員</td> <td>64,350円</td> </tr> <tr> <td>                                会員外</td> <td>77,000円</td> </tr> </table>	● 1名につき 法人会員	64,350円	会員外	77,000円
● 1名につき 法人会員	64,350円				
会員外	77,000円				

参加者の声 ゲームを最初にするので、その後の理解がスムーズ。知識ゼロからでも楽しみながら学ぶことができた。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<p><b>1 サプライチェーンゲーム 演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SCMとは? SCMを考えたときの視点</li> <li>● ゲームの概要・目的・ルールを紹介</li> <li>● チームに分かれゲームを実際に行い、 サプライチェーンで起こる様々な挙動 の体感</li> </ul> <p><b>2 ゲームからの考察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゲーム結果のレビュー・気づきの整理</li> <li>● SCM改善のための手法と導入へのヒント</li> <li>● PSI管理/共同での計画策定</li> <li>● リードタイムの重要性の理解と短縮活動</li> <li>● 適正在庫の考え方・算出方法</li> <li>● 需要のばらつき・在庫切れリスクをどう 考えるか</li> </ul>	<p><b>3 需要予測</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要予測の重要性と難しさ</li> <li>● 改善を行う為のアプローチ</li> </ul> <p><b>4 源流でのサプライチェーン改善活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品導入プロセスにおける改善活動</li> </ul> <p><b>小演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画・設計・製造などSCM部門外との 協働</li> </ul> <p><b>5 多品種小ロット生産への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 顧客満足度の向上にむけたSCM</li> <li>● BTO/CTOへの取り組み</li> <li>● アフターサービス活動を支えるサプライ チェーン</li> </ul>

# 39 在庫削減のための 調達担当者が知るべき需要予測入門セミナー



ID 151525  
半日

在庫削減を課題とする方は多いですが、今回は「調  
達担当者の視点で」在庫削減に貢献する手法を  
解説するプログラムです。

まず、在庫についての考え方を解説し、基本を理  
解していただいたうえで将来数量予測の手法につ  
いて説明します。最後に、これからの新たなフォー  
キャスト計算法について“実務でつかえる”考え  
方を丁寧に解説します。

対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達部門の若手・中堅社員の方</li> <li>● 在庫について知識を深めたい方</li> </ul>				
講 師	● 坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役				
会 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月10日(水) オンライン</li> <li>● 2027年 1月20日(水) オンライン</li> </ul>				
参加料 (税込)	<table border="0"> <tr> <td>● 1名につき 法人会員</td> <td>35,200円</td> </tr> <tr> <td>                                会員外</td> <td>41,800円</td> </tr> </table>	● 1名につき 法人会員	35,200円	会員外	41,800円
● 1名につき 法人会員	35,200円				
会員外	41,800円				

参加者の声 多くの手法を紹介いただいたので、実際に需要予測を立ててやってみようと思えた。

プログラム	
半日 (13:00~16:30)	
<p><b>1 在庫を持つのはなぜダメなのか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 在庫と企業の倒産</li> <li>● 在庫のメリットとデメリット</li> <li>● 取引先に在庫を強制できない</li> <li>● 内示と発注の違い~契約書の法的解釈</li> </ul> <p><b>2 サプライチェーン・マネジメントが上手 くない理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン全体像</li> <li>● 関連部門KPIの問題</li> <li>● 生産分類による受注と納品</li> <li>● 自社技術と市場の安定性マップ</li> </ul>	<p><b>3 将来数量予想の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実際の需要量と予想量</li> <li>● 移動平均法</li> <li>● 指数平滑法</li> </ul> <p><b>4 これからの新たなフォーキャスト計算法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● FP法について</li> <li>● 需要予測法の比較検討</li> <li>● 実務上の予想方法</li> <li>● 安全在庫について</li> </ul>

# 40 調達担当者のための物流知識習得セミナー



ID 151547  
1日

調達機能としての価値発揮の力を強化する

物流は調達とともにサプライチェーンの重要な構成要素  
です。

日本ではサプライヤーが指定納入場所へ輸送する取引が  
一般的ですが、意識しておきたいのは「調達物流コスト  
は調達コストの一部」ということです。

あえてバイヤーが管理して、全体最適化を狙う打ち手がある  
ことを知っておくのも良いでしょう。

本セミナーでは、バイヤーの世界標準である“調達+調  
達物流”の知識を得ていただくべく、物流の基礎および  
各種施策の理解を深めていきます。

対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体最適の視点で、調達と物流を合わせて 強化を図りたい調達担当者の方々</li> <li>● グローバル調達を担当される調達担当者の方 々</li> </ul>				
講 師	● 八島 俊彦 SSMリサーチ 代表				
会 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月17日(水) オンライン</li> <li>● 2027年 3月 4日(木) オンライン</li> </ul>				
参加料 (税込)	<table border="0"> <tr> <td>● 1名につき 法人会員</td> <td>60,500円</td> </tr> <tr> <td>                                会員外</td> <td>77,000円</td> </tr> </table>	● 1名につき 法人会員	60,500円	会員外	77,000円
● 1名につき 法人会員	60,500円				
会員外	77,000円				

参加者の声 資料の見せ方、説明の仕方がお上手で、ひきこまれました。内容もバイヤーが関心を持ってそうなものが多く参考になりました。

プログラム	
1日 (10:00~16:30)	
<p><b>1 物流と調達の関わりを押さえる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達にとっての物流</li> <li>● グローバル調達における物流</li> <li>● 国内調達における物流</li> </ul> <p><b>2 物流とは何かを知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 物流、ロジスティクス、SCM</li> <li>● 物流業界の現況</li> <li>● サプライチェーンと物流</li> <li>● 物流の6大機能</li> <li>● 物流コスト</li> <li>● 物流業務委託</li> </ul> <p><b>3 調達に関係する物流事象を理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル調達における物流</li> <li>● 国際物流</li> <li>● インコタームズ</li> <li>● コンテナ輸送</li> <li>● ルート選択の工夫</li> </ul>	<p><b>4 調達におけるトータルコスト低減の ための物流施策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達物流の打ち手</li> <li>● ミルクラン</li> <li>● 集荷センター</li> <li>● VMI</li> <li>● クロスドッキング</li> <li>● バイヤーズコンソリデーション</li> <li>● 物流費低減のための施策</li> </ul> <p><b>5 調達における物流施策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 物流と環境</li> <li>● 新世代テクノロジー</li> <li>● フィジカルインターネット</li> </ul>



## 競争力あるサプライチェーン構築に戦略的に取り組むには

◆調達カテゴリ戦略、サプライヤー戦略、サプライヤーマネジメントの基本的な考え方と進め方を具体的な事例などを通じ、解説していきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達部門管理者、グローバル調達、海外調達管理者</li> <li>調達コストダウンを推進するプロジェクトリーダー、カテゴリマネジャー、中堅の担当者</li> <li>開発、技術部門の原価企画、管理に関わる中堅の担当者</li> <li>経営企画部門のリーダー</li> </ul>
講師	山田 大貴 (株)日本能率協会コンサルティング コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 9月 8日(火) 東京</li> <li>2027年 1月19日(火) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>会員外 73,150円</li> </ul>



参加者の声 評価・管理手法を確立するのみでなく、目標を設定し戦略を立案する重要性を学びました。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 カテゴリ戦略の考え方と進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>調達を取り巻く環境変化と期待される役割</li> <li>調達競争力強化のフレームワーク</li> <li>調達カテゴリ戦略、サプライヤー戦略推進のポイント</li> <li>カテゴリ戦略立案の基本手順 例</li> <li>サプライヤーマネジメント基本方針の策定</li> <li>顧客要求、競合他社情報、調達市場情報の収集・分析</li> <li>カテゴリの競争力強化目標の設定</li> </ul>	<b>2 サプライヤー選定・評価の基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤー評価の考え方、評価項目</li> <li>サプライヤー評価項目と指標 例</li> <li>サプライヤー評価基準の考え方とポイント</li> </ul> <p>・サプライヤーマネジメントを進める上で重要なサプライヤー評価体系、評価のポイントを解説します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>調達を取り巻く環境変化に対し、何を強化すべきかを事例を交えながら紹介します。</li> <li>調達カテゴリ戦略策定の手順とポイントを、事例を交えながら紹介します。</li> <li>サプライヤー戦略と、マネジメントの考え方、進め方を事例を交えながら紹介します。</li> </ul>	<b>3 サプライチェーン強化に向けた施策とポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規サプライヤー探索を進める際の重要ポイント</li> <li>サプライヤー集約を進める際の重要ポイント</li> <li>サプライヤー強化を進める際のポイント</li> </ul> <p>・サプライチェーン強化に向けた3つの施策(サプライヤー探索、集約、強化)に関して、推進のポイントを解説します。</p>



## 持続可能な関係を構築する

サプライヤーは、単なる仕入先・調達先から、相互の目標や成長を共にする持続可能なビジネス・パートナーへ変わってきています。

サプライヤーの強みを生かすこと、課題は協力して解決することにより、信頼関係構築と持続的な取引が可能となります。また、新たな領域にチャレンジするために、新規サプライヤー開拓と育成も求められています。本セミナーでは、サプライヤーの選定・評価・育成について、事例を交えてわかりやすく学びます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造業の購買・調達部門スタッフ</li> <li>PB・OEM商品の新任バイヤー・マーチャンダイザー</li> <li>上記部門への新規配属者・新任マネジャー</li> </ul>
講師	大沢 徹 Office Sourcing Worth 代表
会期	2027年 1月26日(火) オンライン
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 64,350円</li> <li>会員外 77,000円</li> </ul>



参加者の声 サプライヤー構成ツリーの部分で、カテゴリに分けて、サプライヤーを分析して購買目標に向けて活動を行う点がとても参考になりました。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 持続可能なサプライヤー戦略とは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーの選定リスク</li> <li>持続可能なサプライヤー戦略とは</li> <li>SDGsと購買・調達</li> </ul>	<b>4 サプライヤー課題との取り組み方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自社の調達課題とサプライヤー課題 <b>演習</b></li> <li>サプライヤーとの課題共有</li> <li>持続的解決方法の策定</li> <li>課題解決とPDCA</li> </ul>
<b>2 自社の調達課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤー構成ツリー</li> <li>現状課題の確認 <b>演習</b></li> <li>課題解決の方向性</li> <li>新規開拓領域の必要性</li> </ul>	<b>5 新規サプライヤーの開拓</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>開拓領域の戦略策定</li> <li>サプライヤー開拓方法</li> <li>面談、視察・確認ポイント</li> <li>取り組み戦略</li> <li>新規サプライヤーとのリスクマネジメント</li> </ul>
<b>3-1 サプライヤー評価(評価項目)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーの評価</li> <li>一般項目(財務/経営/コンプライアンス/他)</li> <li>実績項目(品質/コスト/納期/他)</li> <li>実力項目(提案/デザイン/対応/他)</li> </ul>	<b>6 持続可能なサプライヤー育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来像の一致、目線の一致、PDCAと支援</li> <li>持続可能な信頼関係の構築</li> </ul>
<b>3-2 サプライヤー評価(評価ポイント)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価項目の基準値</li> <li>定性評価の数値化</li> <li>最重要項目の抽出</li> </ul>	



## 強いサプライヤー群の形成を通して事業に貢献する

◆発注側は、期待される成果が創出されているかを適切なタイミングで評価し、結果に応じて然るべき対応を取ることが重要です。この積み重ねが強いサプライヤー群を形成していきます。

◆サプライヤーの評価について、その意味合い、評価の方法、評価結果の活用などをいろいろな角度から検討し、事業貢献につなげていくためのサプライヤー評価の方法と活用のスキルを体得していただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達・購買部門、外注管理部門、生産管理部門のマネジャーおよびスタッフ</li> <li>経営戦略や事業戦略立案に関っている方</li> <li>業務委託先の管理に関わられている方々</li> </ul>
講師	八島 俊彦 SSMリサーチ 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年 9月16日(水) 東京</li> <li>2026年12月16日(水) 大阪</li> <li>2027年 2月24日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 59,400円</li> <li>会員外 71,500円</li> </ul>

オンライン参加選択可



参加者の声 攻めのサプライヤー評価の魅力が伝わってきた、自社で実践してみたい。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 事業遂行におけるサプライヤー活用の意味合い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>調達機能のミッションとサプライヤーマネジメント</li> <li>サプライヤー活用の意味合い</li> <li>サプライヤー評価の活用局面とその目的</li> </ul>	<b>4 サプライヤーの評価～調達対象品の視点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤー評価のプロセス</li> <li>サプライヤー評価ツールの考え方</li> <li>サプライヤー評価ツールの活用</li> </ul>
<b>2 サプライヤーマネジメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーマネジメントの体系～PDCA体系</li> <li>サプライヤー評価の意味合い</li> <li>サプライヤー評価システムの考え方と使いどころ</li> </ul>	<b>5 特定事象におけるサプライヤー評価と活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営リスク顕在化時における評価と活用</li> <li>グローバル調達における評価と活用</li> <li>CSRに関する評価と活用</li> <li>業務委託に関する評価と活用</li> </ul>
<b>3 サプライヤーの評価～企業全体の視点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>財務分析に基づく評価</li> <li>非財務分析に基づく評価</li> <li>サプライヤーに関わるリスクの評価</li> </ul>	<b>6 まとめ</b>





# 50 調達担当者のための 脱炭素調達セミナー

ID152334 半日

脱炭素に向けた世界の動きについて、主に購買・調達部門の方向けに解説するプログラムです。調達人材に必要な「脱炭素に向けた温室効果ガスの算定方法」をお伝えするとともに、脱炭素に寄与するサプライヤをマネジメントする方法や社内制度についても解説します。各社の動向を知りたい方、これからのサプライヤマネジメントのポイントを押さえてほしい方はぜひご参加ください。

プログラム	
半日 (13:00 ~ 16:30)	
<b>1 脱炭素に向けた世界の動き</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界が環境問題に注目する理由</li> <li>TCFD/RE100について</li> <li>SDGs/CSR/ESGの関係</li> </ul>	<b>3 温室効果ガス排出量のサプライヤに算定してもらう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サンプル工程</li> <li>工程ごとの分析</li> <li>排出原単位のあてはめ</li> <li>CO<sub>2</sub>以外のGHG換算</li> </ul>
<b>2 サプライチェーン温室効果ガスの算定方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーン排出量 (Scope1+Scope2+Scope3) の定義</li> <li>調達部門の関与</li> <li>対象調達品の設定、活動量把握</li> <li>排出原単位データベースについて</li> </ul>	<b>4 脱炭素に向けたサプライヤ・マネジメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤ目標値の設定</li> <li>サプライヤ評価軸の設定</li> <li>調達業務の温室効果ガス削減手法</li> <li>脱炭素社会に向けた社内制度の設定</li> </ul>

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>購買・調達部門の方</li> <li>脱炭素調達に関心のある方</li> </ul>
講師	坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役
会期	2026年 8月 5日(水) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 35,200円 会員外 41,800円

**参加者の声** 今後、調達が考えなければならない脱炭素の理解を深めることができた。さまざまな資料を紹介いただき、解釈の仕方にも言及されていたので、とても参考になった。

# 51 人権デューデリジェンス対応セミナー

ID152444 半日

## これからの新たなサプライヤ管理

いまや人権デューデリジェンスは世界中で事業を展開する企業には必要な対応です。本セミナーでは、日本ではまだ法律が整備されていない中、先行事例として世界の企業がどのように「人権デューデリジェンス」に対応しているかを学びます。対応が必要だと理解はしているけれど、どうしたらいいのかかわからないと課題をお持ちの方が、具体的な対応手順を理解し、セミナー後すぐに行動できるようにします。

プログラム	
半日 (13:30 ~ 16:30)	
<b>1 人権デューデリジェンスとはなにか?</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権デューデリジェンスの定義付け</li> <li>CSR調達から人権デューデリジェンスへ至る歴史的経緯</li> <li>なぜ今、人権デューデリジェンスが必要なのか? ~サプライヤ管理の視点から~</li> <li>日本で人権デューデリジェンスの必要性が理解されにくい理由</li> </ul>	<b>3 社内人権デューデリジェンス対応プロセス設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>社内コンセンサス確認と確立</li> <li>最低限社内にも構築するルールと仕組み</li> <li>調達・購買部員を優先した全従業員教育</li> <li>サプライヤアプローチ</li> <li>監査後のサプライヤ対応</li> </ul>
<b>2 人権デューデリジェンス国際機関と各国の対応状況</b> 国際機関や各国で使用 <ul style="list-style-type: none"> <li>国連 ● OECD</li> <li>米国カリフォルニア州 ● 米国</li> <li>各国現代奴隷法 (英国、カナダ、オーストラリア)</li> <li>フランス ● ドイツ ● 日本</li> <li>国際機関と各国法制度の共通点</li> </ul>	

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>購買・調達部門の方</li> <li>生産・製造、品質管理などサプライチェーンに関連する部門の方</li> <li>経営企画、法務、CSRなど関連する部門の方</li> </ul>
講師	牧野 直哉 未来調達研究所(株) 取締役
会期	2026年11月 6日(金) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 35,200円 会員外 41,800円

**参加者の声** 取組みのプロセスや気をつけるべきポイントがわかりやすく、この後社内展開しやすい講義でした。このテーマのセミナーを探していたので情報提供ありがとうございます。

# 52 調達購買担当者の問題解決力向上セミナー

ID152345 1日

## 仕事の成果を上げるノウハウを習得!

製造業における構造的な課題は山積しています。こうした背景をもとに、調達購買部門における問題解決力の向上が、多くの企業で急務となっています。複雑に絡まる要素を解きほぐして原因を究明し、実現可能な解決策を考え、成果が出るよう実行するスキルは、これからの調達購買担当者にとって必須となります。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 16:30)	
<b>1 成果が出る問題解決の技法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>バイヤーに求められる成果とは?</li> <li>問題解決の全体像</li> </ul>	<b>4 フレームワークを使いこなす</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>今さら聞けないフレームワークの基本</li> <li>フレームワークの活用術</li> <li>新しいフレームワークが簡単に作れる方法</li> </ul>
<b>2 調達担当者が知るべき時間の使い方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>優先順位を付ける方法</li> <li>遅延を防ぐテクニック</li> </ul> 成果を極大化する時間の使い方	<b>5 調達実務の問題解決力を強化する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>見積の査定</li> <li>コスト削減策の検討</li> <li>既存サプライヤーとの関係構築</li> <li>新規サプライヤーの開拓</li> <li>購買データの分析</li> <li>トラブル発生時の対応</li> </ul>
<b>3 思考力を高める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>思考をクリアにする方法</li> <li>仮説を使いこなす技術</li> <li>誰でも出来るアイデア創出法</li> </ul>	

対象	これから中核を担う実務経験3~5年程度の調達購買の担当者
講師	坂田 直樹 パーソル株式会社 取締役
会期	2026年 6月 19日(金) オンライン 2026年 12月 1日(火) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 62,700円 会員外 74,800円



## 56 Copilotで実践する生成AIの調達業務への応用

NEW  ID15287 **半日**

調達業務にどのように生成AIを活用していくか、Copilotでの活用に絞って解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買・調達部門の方</li> <li>● 生成AIの活用を最新情報を知りたい方</li> <li>● Copilotを業務で活用したい方</li> </ul>
講師	● 坂口 孝則 未来調達研究所(株) 取締役
会期	● 2026年 7月23日(木) オンライン
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 25,300円</li> <li>● 会員外 27,500円</li> </ul>

プログラム	
半日 (10:00～12:00)	
<b>1 Sourcing～契約業務</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文章、マニュアル、Q&amp;Aの作成</li> <li>● 資料の要約</li> <li>● プログラミングの作成</li> <li>● サプライヤの探索</li> <li>● RFx作成</li> <li>● アンケートの作成</li> <li>● 物価把握</li> <li>● 仕様書の見直し</li> <li>● 価格査定</li> <li>● 契約書のチェック</li> </ul>	<b>2 Purchasing～調達実行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 納期催促</li> <li>● 需要量予想</li> <li>● 在庫分析</li> <li>● VOSアンケート分析</li> <li>● サプライヤ評価</li> <li>● その他</li> </ul>

## 57 調達リスク対応力強化セミナー

 ID152579 **1日**

不確実性が高まる現代において、リスクを理解し対応する力を高める

調達活動においてはリスクの顕在化により、調達物の入手難、調達条件の悪化、企業ブランドの毀損など問題への対応を迫られています。本セミナーでは具体的な事象を見ることを通じて、リスクへの対応策、BCP策定・運用に必要なことを考察していきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達部門の管理職の方</li> <li>● 調達の企画に関わる方</li> <li>● 調達実務を担当される方</li> </ul>
講師	● 八島 俊彦 SSMリサーチ 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月 2日(木) 東京</li> <li>● 2026年11月 5日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 64,350円</li> <li>● 会員外 77,000円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 調達におけるリスク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクとは</li> <li>● リスクの捉え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カントリーリスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地政学リスク</li> <li>・外国為替のリスク</li> <li>・市況変動のリスク</li> </ul> </li> <li>● サプライヤーの倒産リスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の監視</li> <li>・リスク顕在化時の対応</li> </ul> </li> <li>● サプライヤー生産リスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量不足リスク</li> <li>・品質問題リスク</li> <li>・EOLリスク</li> </ul> </li> <li>● サステナビリティ関連リスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境対応</li> <li>・人権対応</li> <li>・ガバナンス関連</li> </ul> </li> </ul>
<b>2 調達リスクへのリスクマネジメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リスク対応計画</li> <li>● リスクの識別・分析</li> <li>● リスク対応策と監視</li> </ul>	
<b>3 具体的なリスク事象</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン視点のリスク <ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーン上流に潜むリスク</li> <li>・調達としての対応</li> </ul> </li> <li>● 商業的リスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害リスク</li> <li>・国際調達に関するリスク</li> <li>・サプライチェーン上のリスク</li> <li>・疫病に関するリスク</li> <li>・物流に関するリスク</li> <li>・買入れのリスク</li> <li>・サイバーセキュリティリスク</li> </ul> </li> </ul>	
<b>4 調達としてのBCP (Business Continuity Plan)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リスク事象顕在化前</li> <li>● リスク事象顕在化後</li> </ul>	

## 58 価値発揮のための調達業務改善スキルアップセミナー

 ID152581 **1日**

調達業務の遂行方法を見直し価値発揮する力を高める

調達ではやるべきことが増加し、業務に追われる状況に立たされることが増えています。本セミナーでは、こうした状況に対し、業務を効率化し、いかにより高度な業務で価値発揮を高めていくかをいろいろな角度から考えていきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達実務の遂行を担当される方</li> <li>● 調達の企画管理業務を担当される方</li> </ul>
講師	● 八島 俊彦 SSMリサーチ 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 9月10日(木) オンライン</li> <li>● 2027年 1月20日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 64,350円</li> <li>● 会員外 77,000円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 業務の価値発揮と生産性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Active non-action、目的意識、緊急でない重要事項</li> <li>● 業務生産性、仕事と作業</li> </ul>	<b>6 業務プロセスにおける効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネスプロセスにおける効率化</li> <li>● DXの推進、新ソリューションの活用</li> </ul> <b>7 業務の委託</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務の委託、プロに任せる</li> <li>● 業務委託の管理</li> </ul> <b>8 チームでの価値発揮</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● メンバーの意識の整合</li> <li>● リーダーシップ、フォロワーシップ</li> </ul> <b>9 新たな価値創出の発想</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● イノベーションと調達</li> <li>● VE (Value Engineering) 的思考、VR (Variety Reduction) 的思考、IPS (Ideal Production System) 的思考</li> </ul> <b>10 情報の活用と知識・スキルの強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織の学習能力</li> <li>● 情報の共有・活用、汎用化、上位概念化、アナロジー</li> <li>● 知識とスキル</li> </ul>
<b>2 論点思考と問題解決</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 論点 (Issue) とは</li> <li>● 問題解決のプロセス</li> </ul>	
<b>3 思考整理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ロジカルシンキング、ピラミッド構造</li> <li>● MECE、Why so?/So what?</li> </ul>	
<b>4 コミュニケーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニケーションの成立、発信者と受信者</li> <li>● メッセージの整理と構成</li> </ul>	
<b>5 環境認識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部・内部環境認識</li> <li>● ステークホルダーマネジメント</li> </ul>	

# 59 CPP-B級試験対策セミナー



ID 100445

2日間

◆テキストの重要35ポイントを解説し、CPP-B級に合格する力をつけることを目標としています。

対象	● CPP-B級の受験を予定されている方
講師	● 藤田 敏 調達科学研 代表 ● 八島 俊彦 SSMリサーチ 代表
会期	● 2026年 6月 9日(火)～ 6月10日(水) オンライン ● 2026年 7月14日(火)～ 7月15日(水) 東京 ● 2026年 9月16日(水)～ 9月17日(木) 東京 ● 2026年10月14日(水)～10月15日(木) オンライン ● 2026年11月10日(火)～11月11日(水) オンライン ● 2026年12月10日(木)～12月11日(金) 東京 ● 2026年12月17日(木)～12月18日(金) 大阪 □ ● 2027年 1月19日(火)～ 1月20日(水) 東京 ● 2027年 2月16日(火)～ 2月17日(水) 東京 ● 2027年 3月16日(火)～ 3月17日(水) 大阪
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 97,900円 ● 会員外 108,900円

□ オンライン参加選択可

プログラム	
2日間	
10:00	<b>1 調達マネジメントガイド</b> ● 調達競争力強化の方向性 ● 調達基盤  <b>2 調達プロフェッショナル 知識ガイド1</b> ● 戦略・マネジメント ● 調達のサステナビリティ対応 ● 開発購買 ● 調達実施  <b>3 調達プロフェッショナル 知識ガイド2</b> ● 調達管理 ● 調達実施のための基礎知識 ● 調達システム  <b>4 調達プロフェッショナル 知識ガイド3</b> ● CRのための関連知識 ● 専門領域調達 ● マネジメント手法 ● ビジネスファンダメンタルズ
17:00	本セミナーでは、「電卓」を使用いたしますので、ご持参ください。 本セミナーは「調達プロフェッショナルスタディーガイド 第3版」を読まれている事を前提にした講義です。

※本セミナーの受講によって合格を保証するものではありません。



参加者の声 CPP-B級の試験対策としてだけでなく、バイヤーに求められる知識やマネジメントの考えかたの理解がより一層深まった。

# 60 CPP-A級試験対策セミナー



ID 100383

1日

企業の購買・調達業務に従事する方のための資格「CPP-A級」試験の対策セミナー

CPP-A級は、認定テキスト「調達プロフェッショナルスタディーガイド」の内容にそって、総合的に出題されます。調達部門が直面する問題を解決するための考え方や手順、また関連法規のより深い知識などを問います。セミナーでは、知識を整理することができますので、試験本番でもあわてることなく回答することができますようになります。

対象	● CPP-A級の受験を予定されている方
講師	● 加賀美 行彦 (株)日本能率協会コンサルティング シニア・コンサルタント
会期	● 2026年 6月15日(月) オンライン ● 2026年 9月17日(木) オンライン ● 2026年12月 9日(水) オンライン ● 2027年 2月15日(月) オンライン
参加料(税込)	● 1名につき 法人会員 60,500円 ● 会員外 71,500円



参加者の声 調達業務の考え方や重要ポイントが再認識でき参考となった。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 調達の基本事項、調達マネジメント	6 開発購買
2 調達組織	7 サプライヤー戦略、サプライヤー評価
3 調達戦略	8 コスト分析、査定
4 調達計画、目標展開	9 CSR・リスクマネジメント、下請法による義務と禁止事項、罰則規定
5 海外調達	10 調達交渉、調達倫理

※本セミナーの受講によって合格を保証するものではありません。

※CPP-A級は、CPP-B級を保有していることが受験の条件となります。



<https://school.jma.or.jp/>

# 開発・設計・技術分野

●本文中のアイコン説明●



通学



オンライン



通学もしくはオンライン

プログラム一覧 (2026年4月~2027年3月)

プログラム No.	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
1	開発・技術戦略リーダー養成コース	67	9日間	2026年 2027年	10月~3月			
2	R&Dイノベーションリーダー交流フォーラム	67	8日間	2026年 2027年	9月~2月			
3	開発力強化ワークショップ	67	全5回	2026年 2027年		10月 2月		11月/12月 1月
4	技術部門・技術者向け 成果と成長が同時実現できるチームづくり実践研修	68	2日間	2026年 2027年	8月/12月			
5	開発・設計・技術リーダーのための チームマネジメント研修	68	1日	2026年 2027年		11月		5月 2月
6	開発・技術・研究部門における 「中堅リーダー養成コース」	68	2日間	2026年 2027年	7月/9月/11月 3月			
7	「プロダクトマネジメント」力習得セミナー	69	1日	2026年 2027年				6月/11月 2月
8	若手技術者レベルアップのための セルフマネジメント研修	69	1日	2026年 2027年		10月 3月	8月	7月 2月
9	ひとりで抱え込まず 「助けを求める力」育成セミナー	69	1日	2026年 2027年	11月 1月			
10	技術ロードマップ構築・活用セミナー	70	1日	2026年 2027年		12月	9月	7月 2月
11	製品開発・技術開発 テーマ推進マネジメント研修	70	1日	2026年 2027年				7月 1月
12	技術開発力強化のための 企画担当者実務セミナー	70	1日	2026年 2027年	8月 1月			10月
13	実験ノート・記録の書き方	71	1日	2026年 2027年				8月/11月
14	設計業務の基礎習得セミナー	71	1日	2026年 2027年				6月/11月 2月
15	DR/DRBFM実践研修	71	1日	2026年 2027年		5月/7月		2月
16	成果につながる検図実践セミナー	72	1日	2026年 2027年		11月		6月
17	FMEA・DRBFMの本質的理解と実践法	72	1日	2026年 2027年	11月	9月		6月 1月
18	設計品質向上基礎セミナー	72	1日	2026年 2027年		10月/11月(福岡)		9月 3月
19	「設計手順の標準化」推進セミナー	73	1日	2026年 2027年		12月		2月
20	モジュラーデザイン実践セミナー	73	1日	2026年 2027年		6月		12月
21	ソフトウェア・デファイン実践力習得セミナー	73	1日	2026年 2027年				11月 2月
22	タグチメソッドの基礎理解	74	1日	2026年 2027年				7月 1月
23	治具設計ベーシックセミナー	74	1日	2026年 2027年	9月	12月		
24	品質管理・改善基礎セミナー	74	1日	2026年 2027年	9月			
25	電池の壊れ方セミナー	75	1日	2026年 2027年				7月/10月 2月
26	モータ技術必須 (7項目) 習得セミナー	75	2日間	2026年 2027年	10月			2月
27	新任担当者のためのモノづくり技術入門セミナー	75	3日間	2026年 2027年	9月	5月		
28	機械設計ベーシックセミナー	76	2日間	2026年 2027年	10月 2月	8月	6月	
29	図面の読み方「再」入門セミナー	76	1日	2026年 2027年	5月 2月	10月	7月	
30	図面の描き方習得セミナー	76	1日	2026年 2027年	5月/9月		7月	
31	機械加工の基礎知識習得セミナー	77	1日	2026年 2027年	10月	6月		
32	加工材料基本知識習得セミナー	77	1日	2026年 2027年		6月 2月		

プログラム No	タイトル	掲載 ページ	期間	開催年	開催地/開催月			
					東京	大阪	名古屋	オンライン
33	技術者のための「なぜなぜ分析」セミナー	77	1日	2026年 2027年				6月/10月 2月
34	技術者のための課題設定力強化セミナー	78	1日	2026年 2027年	10月			1月
35	ものづくり・研究開発の進め方、論理的技術者思考とその実践 (旧名称：技術者が研究開発を行うための論理的な考え方と進め方)	78	1日	2026年 2027年				8月 2月
36	技術開発現場の課題解決に使える ロジカルシンキング力(論理的思考力)強化セミナー	78	1日	2026年 2027年	10月			1月
37	クリティカルシンキング力(課題解決する思考力) 強化セミナー	79	1日	2026年 2027年	7月/10月			1月
38	ラテラルシンキング力(創造的水平思考力) 強化セミナー	79	1日	2026年 2027年	10月			1月
39	読みやすく伝わりやすい技術文書が書ける 文書作成力強化セミナー	79	1日	2026年 2027年	7月/10月			1月
40	技術者のための「報告書・レポートの書き方」	80	1日	2026年 2027年				10月/12月 2月
41	技術者のための 時間管理・計画策定	80	1日	2026年 2027年				7月/11月
42	技術者のための タイムマネジメント・タスク管理術習得セミナー	80	1日	2026年 2027年				9月/11月
43	技術者のための 効果的な会議の準備と進め方	81	1日	2026年 2027年				7月 3月
44	技術者のためのファシリテーションテクニック	81	1日	2026年 2027年				9月 3月
45	技術者を説明上手にする研修	81	1日	2026年 2027年	9月 1月			5月/7月/11月 3月
46	「技術プレゼンテーション」スキル向上セミナー (構想&内容準備編)	82	1日	2026年 2027年				6月/11月
47	「技術プレゼンテーション」スキル向上セミナー (スライド作成&本番実践編)	82	1日	2026年 2027年				8月 1月
48	エレベーターピッチ研修	82	1日	2026年 2027年	7月/11月			
49	生成AIを活用した技術系英文作成セミナー	83	1日	2026年 2027年				11月 1月
50	技術・生産部門担当者のための 伝わる『技術英語』習得セミナー(基礎編)	83	1日	2026年 2027年				6月/9月 2月
51	技術・生産部門担当者のための 伝わる『技術英語』習得セミナー(中級編)	83	1日	2026年 2027年				9月 2月
52	技術者のための 技術マーケティング基礎セミナー	84	1日	2026年 2027年				7月/11月
53	製品・サービスに「情緒的価値」のつくり込み方 習得セミナー(基礎編)	84	1日	2026年 2027年	10月			2月
54	「ひとり情シス」のための 基礎知識とスキル習得セミナー	84	1日	2026年 2027年	6月/11月		2月	
55	生成AI/AIエージェントツール活用スキル 習得セミナー	85	1日	2026年 2027年				6月/9月 1月
56	「社内技術研修インストラクター養成」 基本コース	85	3日間	2026年 2027年	7月/10月 1月			
57	技術者のための知財戦略「再」入門セミナー	85	半日	2026年 2027年				12月
58	BtoBにおける 知財トラブル予防策&対処策セミナー	86	半日	2026年 2027年				11月
59	研究開発の段階から考える 後発で勝つための知財戦略セミナー	86	半日	2026年 2027年				6月

# 開発・設計・技術分野

## ◆ 開発・設計・技術分野プログラム体系

◆注)：●内の数字は開発・設計・技術分野に掲載されているプログラムNO.です。数字のないものもしくは最新の情報については、<https://school.jma.or.jp>でご確認ください。

階層別		
若手社員層	中堅社員・リーダー層	マネジメント層
	① 開発・技術戦略リーダー養成コース <span style="float:right">東京</span>	
New! ③ 開発力強化ワークショップ <span style="float:right">大阪 オンライン</span>		
	④ 技術部門・技術者向け 成果と成長が同時実現できるチームづくり実践研修 <span style="float:right">東京</span>	
	⑤ 開発・設計・技術リーダーのためのチームマネジメント研修 <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	② R&Dイノベーションリーダー交流フォーラム <span style="float:right">東京</span>
	⑥ 開発・技術・研究部門における「中堅リーダー養成コース」 <span style="float:right">東京</span>	
⑧ 若手技術者レベルアップのためのセルフマネジメント研修 <span style="float:right">大阪 名古屋 オンライン</span>		⑦ 「プロダクトマネジメント」力習得セミナー <span style="float:right">オンライン</span>
New! ⑨ ひとりで抱え込まず「助けを求めろ力」育成セミナー <span style="float:right">東京</span>		
	⑩ 「社内技術研修インストラクター養成」基本コース <span style="float:right">東京</span>	

研究・開発・技術	
⑩ 技術ロードマップ構築・活用セミナー <span style="float:right">大阪 名古屋 オンライン</span>	
⑪ 製品開発・技術開発 テーマ推進マネジメント研修 <span style="float:right">オンライン</span>	
⑫ 技術開発力強化のための企画担当者実務セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
⑬ 実験ノート・記録の書き方 <span style="float:right">オンライン</span>	
⑭ ソフトウェア・デザイン実践力習得セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
⑮ 技術者のための技術マーケティング基礎セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
⑯ 製品・サービスに「情緒的価値」のつくり込み方習得セミナー(基礎編) <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
New! ⑰ 技術者のための知財戦略「再」入門セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
New! ⑱ BtoBにおける知財トラブル予防策&対処策セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
New! ⑲ 研究開発の段階から考える後発で勝つための知財戦略セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	

電気・電子・材料系	
⑳ 電池の壊れ方セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
㉑ モータ技術必須(7項目)習得セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	

モノづくり基礎技術系	
⑲ 設計品質向上基礎セミナー <span style="float:right">大阪 福岡 オンライン</span>	
⑳ 「設計手順の標準化」推進セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
㉑ 治具設計ベーシックセミナー <span style="float:right">東京 大阪 オンライン</span>	
㉒ 品質管理・改善基礎セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉓ 新任担当者ためのモノづくり技術入門セミナー <span style="float:right">東京 大阪 オンライン</span>	
㉔ 機械設計ベーシックセミナー <span style="float:right">東京 大阪 名古屋 オンライン</span>	
㉕ 図面の読み方「再」入門セミナー <span style="float:right">東京 大阪 名古屋 オンライン</span>	
㉖ 図面の描き方習得セミナー <span style="float:right">東京 大阪 名古屋 オンライン</span>	
㉗ 機械加工の基礎知識習得セミナー <span style="float:right">東京 大阪 オンライン</span>	
㉘ 加工材料基本知識習得セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	

設計の考え方・品質向上	
⑭ 設計業務の基礎習得セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
⑮ DR/DRBFM実践研修 <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
New! ⑯ 成果につながる検図実践セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
⑰ FMEA・DRBFMの本質的理解と実践法 <span style="float:right">東京 大阪 オンライン</span>	
⑲ モジュラーデザイン実践セミナー <span style="float:right">大阪 オンライン</span>	
㉒ タグチメソッドの基礎理解 <span style="float:right">オンライン</span>	

ナレッジ/スキル	
⑳ 技術者のための「なぜなぜ分析」セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
㉑ 技術者のための課題設定力強化セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉒ 技術者が研究開発を行うための 論理的な考え方と進め方 <span style="float:right">オンライン</span>	
㉓ 技術開発現場の課題解決に使えるロジカルシンキング力(論理的思考力)強化セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉔ クリティカルシンキング力(課題解決する思考力)強化セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉕ ラテラルシンキング力(創造的水平思考力)強化セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉖ 読みやすくて伝わりやすい技術文書が書ける文書作成力強化セミナー <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉗ 技術者のための「報告書・レポートの書き方」 <span style="float:right">オンライン</span>	
㉘ 技術者のための 時間管理・計画策定 <span style="float:right">オンライン</span>	
New! ㉙ 技術者のための タイムマネジメント・タスク管理術習得セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
㉚ 技術者のための 効果的な会議の準備と進め方 <span style="float:right">オンライン</span>	
New! ㉛ 技術者のためのファシリテーションテクニック <span style="float:right">オンライン</span>	
㉜ 技術者を説明上手にする研修 <span style="float:right">東京 オンライン</span>	
㉝ 「技術プレゼンテーション」スキル向上セミナー(構想&内容準備編) <span style="float:right">オンライン</span>	
㉞ 「技術プレゼンテーション」スキル向上セミナー(スライド作成&本番実践編) <span style="float:right">オンライン</span>	
㉟ エレベーターピッチ研修 <span style="float:right">東京</span>	
New! ㊱ 生成AIを活用した技術系英文作成セミナー <span style="float:right">オンライン</span>	
㊲ 技術・生産部門担当者ための 伝わる「技術英語」習得セミナー(基礎編) <span style="float:right">オンライン</span>	
㊳ 技術・生産部門担当者ための 伝わる「技術英語」習得セミナー(中級編) <span style="float:right">オンライン</span>	

デジタル人材		
基礎	基本	応用
㉜ 「ひとり情シス」のための基礎知識とスキル習得セミナー <span style="float:right">東京 名古屋</span>		
New! ㉝ 生成AI/AIエージェントツール活用スキル習得セミナー <span style="float:right">オンライン</span>		

# 1 開発・技術戦略リーダー養成コース



ID 100293

9日間

## 本コースの特徴

- 技術戦略とビジネス戦略の両立を目指すプログラム。自社資源を有効に活用して得た技術を市場に展開し、新事業に結びつけることのできる、プロフェッショナル人材の育成を目指します。
- 技術戦略と事業戦略の両立の基礎を習得し、戦略構築の考え方や立案方法を習得。技術者から戦略リーダーへの意識転換を促す。
- 技術者としての実践的演習
- [仮想事業化プロジェクト] 開発の演習により、事業戦略立案のための分析テクニックやプロジェクト推進の基本手法を学び、ビジネスプランを策定していただきます。
- 相互研鑽による意識改革とネットワーク構築

異業種他社のメンバーとの交流で、自社の業務では経験できない新たな価値観や視点の受け取りを得られます。研修を通じて得られたネットワークは、今後の事業に貢献いたします。

対象	● 部門：研究・開発・設計・生産技術 ● 職種：研究・エンジニアリング・戦略企画スタッフ ● 職位：係長・課長（候補者含む） ● 実務経験：入社6年～15年程度（30歳～45歳程度）
講師	コースファシリテータ ● 細矢 泰弘 (株)日本能率協会コンサルティング 2025年度実績 ● 垣本 昌久 元三菱ケミカル(株) ● 高嶋 隆大 東京理科大学 ● 浅川 和宏 慶應義塾大学 ● 新 誠一 電気通信大学 ● 木内 文昭 (株)マクアケ ● 竹林 一 京都大学
会期	● 2026年10月～2027年3月（計9日間）東京
参加料（税込）	● 1名につき 法人会員 <b>早割</b> 528,000円 <b>通常</b> 621,500円 会員外 <b>早割</b> 577,500円 <b>通常</b> 693,000円

プログラム	9日間（10：00～17：00）
研修テーマ	1 技術戦略とイノベーションマネジメント 2 技術開発と事業化 3 グローバルR&D戦略 4 新製品開発・事業創出 5 新規事業シナリオ・事業化マネジメント 6 イノベーションと戦略思考 7 投資と採算性評価 8 チーム研究発表会（事業化開発構想書）

# 2 R&Dイノベーションリーダー交流フォーラム



ID 100290

8日間

イノベーションを起こしていくためには、

- 自らが未知の領域にチャレンジし、同時に
  - 周囲の人を巻き込み、目指すべき方向へ導くリーダーシップが求められます。
- 本フォーラムでは、組織力を活かしたイノベーションの起こし方や、プロセスの導き方について、リーダーに求められる要件を交えながら、考察する機会を提供します。

- ①新しい技術やビジネスの開拓者との対話によりイノベーションの本質を学ぶ
  - ②CTOやビジネスリーダーとの交流を通じて、リーダーシップの在り方を学ぶ
  - ③異業種分野のメンバー同士の交流により、新たな発見や深い気づきを得る
- 本フォーラムでは、上記の3つの達成目標を掲げ、その実現を目指します。そのために、研究テーマに対し、グループに分かれて、それぞれブレイクダウンした目標を設定し、6ヶ月にわたり自主的な議論を行います。また、異業種のCTOの方々などゲスト講師の講師の講義を通じて、その実現に必要な戦略的な発想や行動原理を学びます。

対象	● 研究・開発部門、技術部門、新規事業開発部門、経営戦略部門の課長・マネジャー・スタッフ及びプロジェクトリーダーの方々
会期	● 2026年9月～2027年2月 （全6回・8日間・合宿2回）東京
参加料（税込）	● 1名につき 法人会員 495,000円 会員外 550,000円

プログラム	8日間（10：00～17：00）
第1回：イノベーションの課題を共有する	
第2回：イノベーションの起点を考える	
第3回：点から面へ 仲間づくりをする	
第4回：自身の原点に向き合い未来を構想する	
第5回：イノベーションを牽引するリーダーシップを考える	
第6回：最終報告会	

# 3 開発力強化ワークショップ

NEW



ID 152837

全5回

## 演習が自社の開発体制革新に直結!![6社限定]

製造業各社が描いている中長期ビジョンを実現させるためには、中核部門である開発・設計・技術部門において、新製品・新技術を創出する能力をさらに強化することが求められます。そこで、技術者にこれから求められる要素を「開発力体系」として整理し、学べるコースを開催いたします。参加者に以下の力が身につくことをねらいます。

- ◆技術部門におけるマネジメントの基本を体系的に学ぶ。
- ◆将来ビジョンを描く力と具現化して成果につなげるリーダーシップの発揮の仕方
- ◆自社が抱える問題点の脱却・進化に向けた着眼点
- ◆試行錯誤と実験が中心となる新たな開発プロセス確立

対象	● 開発、技術、設計部門の方
講師	● 渡部 訓久 (株)日本能率協会コンサルティング
会期	● 2026年10月～2027年2月（全5回）大阪・オンライン
参加料（税込）	● 1名につき 法人会員 165,000円 会員外 187,000円

プログラム	全5回（13:00～17:00）
第1回	<b>開発力強化概要</b> 2026/10/13(火) 大阪 ● 開発マネジメントの基本 ● 開発力の構成要素と強化策 ● 開発力強化活動事例紹介 <b>演習</b>
第2回	<b>開発プロセス革新（企画力・遂行力）</b> 2026/11/20(金) オンライン ● 特性ごとの開発プロセスのあり方 ● 試行錯誤や失敗を許容するプロセスとは？ <b>演習</b> 開発プロセス振り返り分析と改革課題設定
第3回	<b>技術力強化方法（技術力・組織力）</b> 2026/12/22(火) オンライン ● 設計ノウハウの標準化と技術伝承 ● 業務成果と自己成長を同時に図るには？ <b>演習</b> 業務分析と価値ある仕事へのシフトするための課題設定
第4回	<b>革新ビジョンの描き方</b> 2027/1/22(金) オンライン ● 内外環境変化の捉え方 ● 事業/顧客貢献、他社優位性などの検討法 <b>演習</b> 内外環境分析と将来のありたい姿検討
第5回	<b>まとめ</b> 2027/2/26(金) 大阪 ● 検討内容まとめとレビュー、実行計画策定



# 7 「プロダクトマネジメント」力習得セミナー



ID 152356

1日

昨今、「プロダクトマネジメント」の重要性が叫ばれています。「プロジェクトマネジメント」とは何が違うのでしょうか？第4次産業革命/DX時代において、ビジネスを成功させるには、守りの「プロジェクトマネジメント」では無く、攻めの「プロダクトマネジメント」が必要になります。また、従来のプロジェクトマネジメントは人のマネジメントが中心であったのに対し、プロダクトマネジメントは将来的なライフサイクルにも注目し、製品/サービス全体をマネジメントしなければいけません。本セミナーでは、自らが開発の責任者(製品開発部長)としての経験をもち、プロダクトマネジメントの企業支援をしているコンサルタントが、わかりやすくプロダクトマネジメントの解説を実施します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロダクトマネジメント力を習得したい方</li> <li>● 初めてプロダクトマネージャーになった方</li> <li>● 製品(サービス)開発や顧客支援プロジェクトに関連している方</li> <li>● プロダクトマネジメントについて理解したい方</li> <li>● プロジェクトマネジメントでの製品(サービス)開発/システム開発では限界を感じている方</li> <li>● 製品(サービス)開発/顧客支援での付加価値向上/競争力向上を実施したい方</li> </ul>
講師	● 高安 篤史 合同会社コンサルランス 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月11日(木) オンライン</li> <li>● 2026年 11月26日(木) オンライン</li> <li>● 2027年 2月 3日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (9:30 ~ 16:30)	
<p><b>1 プロダクトマネジメントとは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロダクトマネジメントが注目される背景(ニーズの多様化/競争の激化/デジタル技術の進歩)</li> <li>● プロダクトマネジメントとの違い</li> <li>● スリーチェーン(バリュー、エンジニアリング、サプライ)から見たプロダクト</li> <li>● 付加価値の本質とビジネスの成功</li> <li>● プロダクトマネジメントの要素</li> </ul> <p><b>2 プロダクトマネジメントを成功させるためのポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営と戦略とプロダクト</li> <li>● プロダクトの種類別のポイント(B2B、サービス、コンシューマ製品)</li> <li>● 顧客のニーズと生涯価値</li> <li>● プロダクト開発体制</li> <li>● DevOps (Development and Operations)</li> <li>● デザイン思考とアジャイル開発</li> <li>● プロダクトライフサイクルとKPI</li> <li>● ステークホルダーの把握</li> <li>● ユーザー価値の共創</li> </ul> <p><b>演習</b> プロダクトマネジメントがうまくいかない事例の改善検討</p>	<p><b>3 プロダクトマネジメントを推進するフレームワーク/ツール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● PPM (プロダクトポートフォリオマネジメント)</li> <li>● 狩野モデル</li> <li>● 5フォース (5つの競争要因)</li> <li>● BSC (バランススコアカード) の活用</li> <li>● RACI分析: ステークホルダー分析</li> <li>● プロダクトのライフサイクルマネジメント</li> </ul> <p><b>4 プロダクトマネジメントに必要なスキルと育成手法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 戦略策定スキル</li> <li>● プロダクトの分析スキル</li> <li>● マーケティング能力</li> <li>● 将来的な技術の展望 (特にデジタル技術)</li> <li>● ジェネラリスト的要素</li> <li>● リスクマネジメント力</li> <li>● データ分析スキル</li> </ul> <p><b>演習</b> プロダクトマネジメントに必要なスキル</p> <p><b>演習</b> 自社プロダクトのマネジメント方法の検討</p>

# 8 若手技術者レベルアップのためのセルフマネジメント研修



ID 100288

1日

- ◆ 自分の仕事をやりきることから始めよう!
- ◆ 上司から信頼されるには、まずは与えられた仕事をきっちりやりきることが大切です。
- ◆ 目の日常業務に忙殺され、ステップアップのきっかけがつかめない若手技術者におすすめです。
- ◆ 「見える管理」「出来る管理」を基本として、効率的な仕事の進め方を学んでいただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計・開発・技術・品質保証部門の若手技術者</li> <li>● 技術系スタッフ部門の担当者クラス</li> </ul>
講師	● 渡部 訓久 株式会社能率協会コンサルティング
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月 7日(火) オンライン</li> <li>● 2026年 8月21日(金) 名古屋</li> <li>● 2026年 10月22日(木) 大阪</li> <li>● 2027年 3月 2日(火) 大阪</li> <li>● 2027年 2月18日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (9:30 ~ 17:00)	
<p><b>1 計画立案・遂行力強化に向けたセルフマネジメントの必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術者を取り巻く環境変化</li> <li>● 業務のスムーズな推進には「計画」が重要</li> <li>● 仕事の目的を理解しよう</li> <li>● セルフマネジメント力向上のポイント</li> </ul> <p><b>■ 実習 1</b> 一週間の業務計画振り返り</p> <p style="text-align: right;"><b>個人ワーク</b></p> <p><b>2 計画立案・遂行力強化の基本的な考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ、計画が必要か?</li> <li>● 計画の質を上げるための基本手法</li> </ul> <p><b>3 計画立案・遂行力強化のための課題ばらし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5つの前提知識</li> <li>● 課題ばらしとは～組むうえでのポイント～</li> <li>● 課題解決のストーリーを描くとは</li> </ul>	<p><b>4 中小日程計画立案・運用の進め方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保有技術の棚卸し</li> <li>● 各業務の目標明確化</li> <li>● 懸念点掃出しと課題設定</li> <li>● 課題解決のストーリーづくり</li> <li>● 中日程計画の立案/小日程計画の立案</li> <li>● 進捗管理と実績管理</li> </ul> <p>(業務遂行力の現状把握)</p> <p><b>■ 実習 2</b> 課題ばらしによる計画検討</p> <p style="text-align: right;"><b>グループワーク</b></p> <p><b>5 業務効率を高めるための改善着眼</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 負荷量を見積り、前もって負荷ギャップを解決する</li> <li>● 業務の優先順位付け</li> <li>● 飛び込み業務の解決方向</li> <li>● パフォーマンス管理の実現による業務効率化</li> </ul>

参加者の声 他社の方の話を聞きながらのグループ実習はおもしろく、気づかされるところがたくさんあった。

# 9 ひとりで抱え込まず「助けを求める力」育成セミナー



ID 152823

1日

「困ったときに周囲に助けを求める」ことが苦手な社員が増えています。「助けを求める」ことができないと、困難な状況でもひとりで仕事を抱え込み、上司や同僚のサポートが得ることができないため、チーム・組織全体の生産性を大きく損なってしまいます。社員個人としても、限界までがまんすることで、ミスや失敗のリスクが高まり、頑張りすぎて燃え尽き症候群や心身の不調を招く怖れがあります。本セミナーでは、「助けを求められない」根本原因である心の壁(心理的バリア)の解消を目指し、「助けを求めやすくする」コミュニケーションスキル(ヘルプシーキング)と職場環境づくりを、講義と豊富な実習を通じて実践的に学びます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談や手助けを求めるのが苦手な方</li> <li>● ひとりで仕事を抱え込みがちの方</li> <li>● 助けを求めにこない部下に困っている方</li> <li>● チームで助け合って仕事を進めたいと思っている方</li> </ul>
講師	● 高橋 澄子 (株)MOMO 代表取締役 公認心理士・経営コンサルタント 米国CTI認定プロコーチ 産業カウンセラー
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 11月17日(火) 東京</li> <li>● 2027年 1月22日(金) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<p><b>1 「助けを求める」ことの大切さ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● チーム・組織の総合力を発揮するために</li> <li>● 個人の生産性を高め健康的に働き続けるために</li> </ul> <p><b>演習</b> 「助けを求める力」チェック</p> <p><b>2 「助けを求めない・求められない」背景と理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「助けを求めない」人の行動や態度</li> <li>● 「助けを求めない」人が抱える心理的な壁</li> <li>● 心理的な壁が生まれた背景</li> </ul> <p><b>演習</b> 自分の心の「壁」の振り返り</p> <p><b>3 「助けを求めやすい」職場づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 心の壁を解消の鍵「心理的安全性の高い」職場</li> <li>● チーム・組織の雰囲気・価値観の影響</li> </ul> <p><b>演習</b> 職場の「助けの求めやすさ」の振り返り</p>	<p><b>4 「助けを求める力」を高めるコミュニケーション</b></p> <p>(1) 安心して「助けを求められる」共感的な場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 相互を尊重するコミュニケーションスタイル</li> <li>● 共感して話を聴く</li> </ul> <p><b>演習</b> 傾聴のスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 存在を認めて安心感を高める</li> </ul> <p><b>演習</b> 承認のスキル</p> <p>(2) 上手に相談をする話し方/上手な相談の受け方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談をするときの話し方</li> </ul> <p><b>演習</b> 話の組立て方のスキル (DESC法など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上手な相談の受け方</li> </ul> <p><b>演習</b> 実際の職場場面を想定したロールプレイ</p> <p><b>5 振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーで学んだことの実践プランの作成</li> </ul>



# 13 実験ノート・記録の書き方



ID100671

1日

## 実験を効率化して確実に成果を生む

- ◆研究者は目的に合わせて実験を計画し、データを取得・解析し、それらを記録し、まとめることを正しく行うことが求められます。
- ◆本セミナーは、多くの開発現場でほとんど教育が行われていない「実験実務」について、確実に成果へと昇華させ、より効率的な開発を実現するために必要な知識を詳細に解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究・開発部門の実務担当者</li> <li>● 若手研究者に指導する管理者・リーダーの方</li> </ul>
講師	● 奥村 治樹 ジャパン・リサーチ・ラボ
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 8月26日(水) オンライン</li> <li>● 2026年 11月27日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>



参加者の声 実験はあくまで手段であるということを再認識しました。「仮説」の重要性とその理由が理解でき、大変すばらしい研修でした。

プログラム	
1日 (10:30 ~ 16:30)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>イントロダクション</b> 実験ノートがなぜうまく機能しないのか、書けないのかについてイントロダクションとして整理します。 ・実験と開発</li> <li>● <b>実験ノートの基本</b> 具体的な実験ノートの書き方を学ぶ前に、最低限理解しておくべき実験ノートの基本と記録という観点における注意点やポイントについて解説します。</li> <li>● <b>実験ノートの役割と条件(要求)</b> 実験ノートに書くこと、書き方を理解するために、実験ノートが果たすべき役割と、そのために実験ノートに要求されることを整理します。</li> <li>● <b>実験ノートに書くこと・書き方</b> 具体的に実験ノートに何を書けばよいのか、それらをどのように書けばよいのかについて解説します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>実験ノートの書き方実務</b> 実際に実務の中で実験ノートを書くときに、置くポイントを踏まえながら、実際にどのように実験ノートを書いて、運用していくのかについて解説します。</li> <li>● <b>実験ノートの例</b> 実際の実験ノートを含めて、実際の実験ノートのイメージを紹介します。 ・偉人の実験ノート ・ノートの例</li> <li>● <b>実験ノートの失敗例と対策</b> 実際に合った失敗例を紹介すると共に、そのような失敗をしないために必要なことを解説します。</li> <li>● <b>今後の流れ</b> 電子実験ノートを中心に今後の実験ノートの進む方向、導入に際しての注意点、ポイントを失敗例等を交えながら解説します。</li> <li>● <b>まとめと質疑</b></li> </ul>

# 14 設計業務の基礎習得セミナー



ID100636

1日

## 製造工程を考えた図面が描けるようになる

設計の中で最も重要なアウトプットである図面。「ものづくりができる図面」を描くことができるよう、設計とは何か、なぜ図面があるのか、どうやって描くのか、これらのつながりを丁寧に解説します。  
本セミナーを受講することで、製造工程のことを考えた図面が描ける設計者になることを目指します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計のご担当者（設計の知識がなくてもご参加いただけます）</li> <li>● ものづくりに関する設計と図面のつながりを理解したい方</li> <li>● 技術、設計部門の方</li> </ul>
講師	● 中西 正行 (株)A&Mコンサルト
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月12日(金) オンライン</li> <li>● 2026年 11月11日(水) オンライン</li> <li>● 2027年 2月19日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>



参加者の声 業務に活かせるものが多く、非常に有用なセミナーだと感じました。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1 間違った図面によって起きる問題点</b> (1) 幾何公差間違い (2) 寸法間違い</li> <li><b>2 演習 図面の間違い探し</b></li> <li><b>3 あるべき設計プロセスと図面</b> (1) 設計の基本原則 (2) フロントローディング (3) コンカレントエンジニアリング (4) あるべき設計プロセス</li> <li><b>4 図面の基本ルール</b> (1) 図面とは (2) 図面種類と用紙 (3) 投影法と立体図 (4) 線の種類と用法 (5) 図形の表し方 (6) 寸法の記入方法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>5 公差の基本ルール</b> (1) 寸法公差 (2) はめあい公差 (3) 幾何公差</li> <li><b>6 公差での問題点と解決方法</b> (1) 積上げ公差の考え方 (2) 正しいはめあい公差の考え方</li> <li><b>7 標準図(手本図)の考え方</b></li> <li><b>8 演習 社内の図面ルールを考えてみよう</b></li> <li><b>9 演習 正しい図面を描いてみよう</b></li> </ol>

# 15 DR/DRBFM実践研修



ID100549

1日

## 問題の未然防止活動を推進させよう

- ◆消費者ニーズの多様化や、要求品質の高まり等により、設計起因の問題が多発しています。これらの多くは、設計段階で問題の予測ができていないことが原因なのです。
- ◆ものづくりを始める前に問題を把握し、未然防止ができるよう、DRやDRBFMの具体的な実践手法について学びます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計・品質管理・品質保証・生産技術部門の方</li> <li>● DRやDRBFMの実践手法を学びたい方</li> </ul>
講師	● 中山 聡史 (株)A&Mコンサルト
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月19日(火) 大阪</li> <li>● 2026年 7月29日(水) 大阪</li> <li>● 2027年 2月12日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

オンライン参加選択可



参加者の声 実践するためのポイントをわかりやすく説明され、とても参考になりました。実際の正しい使用イメージを持つことができました。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1 設計の課題と他部門から見た設計課題</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● どのような課題があるのか</li> <li>● 設計課題の事例紹介</li> <li>● バックローディングが設計に与える影響</li> <li>● 設計に関わるノウハウは会社の財産</li> </ul> </li> <li><b>2 設計起因の品質問題抽出</b> <span style="float:right">演習</span></li> <li><b>3 設計開発プロセスのあるべき姿</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● フロントローディング</li> <li>● コンカレントエンジニアリング</li> <li>● 設計プロセスの事例紹介</li> </ul> </li> <li><b>4 設計品質向上策</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「品質企画」と品質管理の目的を理解する</li> <li>● 品質を保証する考え方の歴史の変遷</li> <li>● 品質企画があると手戻りがなくなる</li> <li>● 品質企画のつくり込みとは</li> <li>● 品質企画のための7つのツール</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>5 DR(Design Review) 実践</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● DRとは</li> <li>● DRの事例紹介/あるべき姿/タイミング</li> <li>● DRでの検討内容</li> <li>● あるべきDRと現場のGAPを確認</li> </ul> <span style="float:right">グループワーク</span> </li> <li><b>6 DRBFM(Design Review Based on Failure Mode) 実践</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● DRBFMの定義/誕生の経緯/構成</li> <li>● DRBFMの適切な検討時期</li> <li>● DRBFMの内容</li> </ul> </li> <li><b>7 DRBFMを実践しよう</b> <span style="float:right">演習</span>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実際の製品を用いた演習で、仕組みとコツを具体的に習得する</li> </ul> </li> </ol>

# 16 成果につながる検図実践セミナー

NEW  ID 152532 **1** 日

今の時代の設計に合った検図を実践しよう！

本セミナーでは、現状の設計に合った検図の仕組みや方法を解説し、設計の生産性向上の実現を可能とします。また、検図だけではなく、自己検図についても紹介し、より間違いの少ない図面の実現を可能とします。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計、品質管理、品質保証、生産技術部門の方</li> <li>● 正しい検図の仕組みを理解し、確実な検図が実行できるようになりたい方</li> <li>● 昔ながらの検図から脱却したい方</li> </ul>
講師	● 中山 聡史 (株)A&Mコンサルティング
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月18日(木) オンライン</li> <li>● 2027年11月26日(木) 大阪</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 現状設計での検図の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状の検図 (市場調査結果)</li> <li>● 間違った設計プロセスと検図の進め方</li> <li>● 正しい設計プロセスと検図の仕組み</li> <li>● 課題まとめ</li> <li>● <b>演習</b> ~現在の検図の課題を抽出しよう!~</li> </ul>	<b>3 効率的な設計プロセスと検図</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 変更点・変化点管理の仕組み</li> <li>● 検図の詳細プロセス                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検図の詳細内容</li> <li>・ 検図に必要な準備物と仕組み</li> </ul> </li> <li>● 3DCADと変化点管理と検図</li> <li>● <b>演習</b> ~検図の演習(グループワーク)~</li> </ul>
<b>2 設計プロセスのあるべき姿と検図の役割</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計の基本概念</li> <li>● フロントローディング</li> <li>● 設計プロセスのあるべき姿</li> </ul>	<b>4 自己検図の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己検図とは</li> <li>● 自己検図のPDCA                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PLAN: チェックリスト</li> <li>・ DO: 自己検図</li> <li>・ CHECK: 間違いポイントの解析</li> <li>・ ACTION: チェックリストへのフィードバック</li> </ul> </li> <li>● 自己検図まとめ</li> </ul>

**参加者の声** 検図に対する考え方が変わる研修でした。自社でももっとしっかりやる必要があるとわかりすべてが勉強になりました

# 17 FMEA・DRBFMの本質的理解と実践法

 ID 150734 **1** 日

FMEAやDRBFMといった未然防止手法が思ったように成果があがらない要因として、「技術者の発想力を引き出す考え方や活用方法の理解不足、手法導入のプロセスに問題がある」ことが多いです。

本セミナーでは、特に企業の皆様が手法活用においてどこでつまずくのかを丁寧に紐解き、現場で実践する方法を一緒に考えていきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発、設計、技術、品質保証部門の方</li> <li>● 若手・中堅エンジニアの方</li> <li>● 設計の品質を向上させたい方</li> </ul>
講師	● 柏木 茂吉 (株)日本能率協会コンサルティング
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月 2日(火) オンライン</li> <li>● 2026年 9月30日(水) 大阪</li> <li>● 2026年11月25日(水) 東京</li> <li>● 2027年 1月29日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 58,300円</li> <li>● 会員外 65,450円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 設計品質の問題と改善に向けた着眼</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 品質を支える組織の要素</li> <li>● 品質向上のための組織的学習</li> </ul>	<b>4 職場での実践ポイント</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 職場実践のポイント                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門間のインターフェースに着目して問題を発掘する</li> <li>・ 振り返りの徹底</li> <li>・ 効果の測り方</li> <li>・ 各手法の使い分け</li> </ul> </li> <li>(2) 他社事例に学ぶ</li> </ol>
<b>2 未然防止とは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 未然防止のための第一歩</li> </ul>	<b>5 まとめ、Q&amp;A</b>
<b>3 未然防止実現のための手法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) DRの基礎</li> <li>(2) FMEA <b>実習</b> FMEAの実施</li> <li>(3) DRBFM <b>実習</b> DRBFMの実施</li> </ol>	

**参加者の声** 各開発プロセスにおいて「ふり返る」ことができれば、品質向上につながるのだということがわかった。

# 18 設計品質向上基礎セミナー

 ID 100298 **1** 日

「品質」へのこだわりをもった技術者の育成

- ◆ 手戻りとなって後工程に大きな影響を及ぼす設計品質問題。設計計画の立て方、設計品質管理の進め方を参加者全員で考えます。
- ◆ 「節目管理」に着目し、品質問題の未然防止技術、流出防止技術を学び、品質向上のストーリーを作ります。
- ◆ 職場における品質向上のための議論のきっかけを提供します。

対象	● 開発・設計・品質保証・技術企画部門の若手・中堅スタッフ
講師	● 渡部 訓久 (株)日本能率協会コンサルティング
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 9月11日(金) オンライン</li> <li>● 2026年10月23日(金) 大阪</li> <li>● 2026年11月11日(水) 福岡</li> <li>● 2027年 3月 5日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (9:30 ~ 17:00)	
<b>1 設計品質に関する一般的な問題点</b>	<b>4 未然防止に向けた基本手法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) FMEA手法</li> <li>(2) DRBFM手法</li> </ol>
<b>2 設計品質向上の基本的な考え方</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 設計品質向上の主目的</li> <li>(2) 設計品質向上への5つの原則と基本手法体系</li> </ol> <b>実習</b> 開発設計テーマの振り返り分析 <b>実習</b> 問題解析・T型マトリクス分析	<b>5 その他の設計品質向上手法</b>
<b>3 再発防止に向けた基本手法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 設計品質問題の振り返り分析方法</li> <li>(2) なぜなぜ分析手法 <b>演習</b></li> </ol>	
<b>6 まとめ、Q&amp;A</b>	

**参加者の声** 自職場での問題とセミナー内容が直結しており、自らに置き換えて研修を受けることができた。





## 25 電池の壊れ方セミナー



ID 152112

1日

製品安全と信頼性を向上するために、これまで発生した多くの故障を解明した結果を分析し、現在多分野で使われているリチウムイオン電池を主体に電池の壊れ方の原理・原則を理解し、今後のクレームやトラブルの未然防止方策について学んでいただく事をねらいとして本セミナーを開催いたします。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電池、電気・電子機器の設計・開発に従事している技術者</li> <li>● 技術者として電池の壊れ方について精通したい方</li> <li>● 品質保証・製品安全対策部門で部品の壊れ方を学びたい方、学び直したい方</li> </ul>
講師	● 大崎 隆久 大崎技術コンサルティング 代表工学博士 (元東芝電池㈱ 技監)
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月 1日(水) オンライン</li> <li>● 2026年 10月 21日(水) オンライン</li> <li>● 2027年 2月 10日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 電池事故の実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モバイル機器</li> <li>● 自動車、飛行機</li> </ul>	<b>4 安全化技術の開発</b> ~安全性向上の指針~ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気・電子機器設計                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リチウムイオン電池を安全に活用する</li> <li>・ リチウムイオン電池を長持ちさせる</li> </ul> </li> <li>● 電池技術の高度化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長寿命で安全性に優れた電池材料を創る</li> <li>・ 長寿命化と安全性向上を支える製造技術の開発</li> <li>・ 電池の膨張対策設計</li> </ul> </li> </ul>
<b>2 電池内で起こる反応</b> ~正常時・異常時の電池内反応~ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電池の基本原則</li> <li>● 電池を構成する材料とその性質・性能</li> <li>● 充電・放電プロセスでの反応</li> <li>● 電池発熱要因と自己発熱反応</li> <li>● 電池の膨張要因</li> <li>● リチウムイオン電池の劣化メカニズム</li> </ul>	<b>5 まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リチウムイオン電池を安全に使うために</li> <li>● 電池のリサイクル・リユースで気を付けるべきポイント</li> </ul>
<b>3 電池事故の解析</b> ~発煙・発火に至るプロセス~ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事故原因究明の進め方</li> <li>● 過充電反応</li> <li>● 内部短絡反応</li> <li>● リチウム析出反応</li> </ul>	

## 26 モーター技術必須(7項目)習得セミナー



ID 152390

2日間

- ◆ 実務に役立つ現場のモーター技術に重きをおき、早期戦力化を目的として開催いたします。
- ◆ 基礎から応用まで、最新事例を含めて必須7項目を学べます。
- ◆ 一方的な講義だけではなく、「デモ機によるモーター運転、モーター分解」「講師との質疑応答」の時間を多く割いていますので、実機を見て、知識や考え方を深く理解できる研修となっています。
- ◆ 現場で起きているトラブル事例を多く紹介し、再発防止に繋がります。
- ◆ トラブルに出くわした時の解決法と落としどころGoalの決め方を学べます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実務に役立つ現場のモーター技術を学びたい方</li> <li>● システム装置でモーターを使用している方</li> <li>● モーター関連の若手からベテラン技術者</li> <li>● 日頃、モーター関連トラブルで悩んでいる方</li> </ul>
講師	● 野田 伸一 Nodaモーターテック事務所 代表モーター工学博士
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 10月 22日(木) ~ 10月 23日(金) 東京</li> <li>● 2027年 2月 25日(木) ~ 2月 26日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 104,500円</li> <li>● 会員外 116,600円</li> </ul>

プログラム		
	1日目	2日目
10:00	<b>1 モーターの構造</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● デモ機によるモーター運転での体験実習、コギング、巻線配列</li> <li>● ビデオ映像でモーター製造工程(巻線、絶縁処理、鉄心圧入)</li> <li>● Q&amp;A事例集: モーター製造現場はどの様になっているのですか?.....その他4件</li> </ul> <b>2 モーター仕様</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モーター仕様・仕様項目、環境、仕様決定・試験項目、温度特性、環境対応、負荷の使用頻度</li> <li>● 絶縁: 巻線構成、許容温度、絶縁劣化、耐圧試験、サージ電圧</li> <li>● Q&amp;A事例集: インバータ運転レアショート多いのはなぜですか?.....その他4件</li> </ul> <b>3 軸受</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 軸受構成、軸受寿命、グリース寿命、高速対応軸受</li> <li>● Q&amp;A事例集: 軸受トラブル事例はどのような事例がありますか?.....その他4件</li> </ul> <b>4 振動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 振動騒音の問題、電磁音、機械音、ファン騒音</li> <li>● 振動測定法・振動判定方法・トラブル事例</li> <li>● Q&amp;A事例集: 現場でモーターの騒音を低減するには、どのようにするのですか?.....その他8件</li> </ul>	<b>5 モーターの故障診断方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 振動法、電流法によるモーター故障診断の方法</li> <li>● 据付け、モーター荷重、ミスアライメント、故障診断</li> </ul> <b>6 インバータ運転</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現場でどのように制御され、何が大事ですか?</li> <li>● インバータ制御、インバータ仕様、現場での諸特性、パラメータ</li> <li>● Q&amp;A事例集: インバータのトラブル事例で何が多いのですか?.....その他3件</li> </ul> <b>7 トラブル解決法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● FTA分析、故障モード影響解析、トラブルシューティング法</li> <li>● なぜなぜ分析、特性要因、落としどころGoalの決め方</li> <li>● トラブル解決事例</li> <li>● Q&amp;A事例集: なぜなぜ分析は、なぜうまくいかないのか?.....その他8件</li> </ul>
17:00		

## 27 新任担当者のためのモノづくり技術入門セミナー



ID 100311

3日間

モノづくりの基礎的な技術知識は「読図知識」「材料知識」「加工知識」が三本柱です。これらの知識は、技術者や製造担当者のみならず、品質管理、生産管理、資材購買、営業などの間接部門の担当者にも必要です。初めて技術知識を学ぶ、新任担当社員を対象とし、基礎をわかりやすく学びます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若手社員、中途採用社員</li> <li>● 基礎知識を学び直したい開発、設計、製造部門担当者</li> <li>● 資材購買、品質管理、生産管理、営業等の間接部門担当者</li> <li>● 文系出身の技術アシスタント</li> </ul>
講師	● 西村 仁 ジン・コンサルティング 代表生産技術コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月 27日(水) ~ 5月 29日(金) 大阪 □</li> <li>● 2026年 9月 16日(水) ~ 9月 18日(金) 東京 □</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき</li> <li>1日参加 法人会員 62,150円</li> <li>          会員外 73,150円</li> <li>2日間参加 法人会員 96,140円</li> <li>          会員外 107,470円</li> <li>3日間参加 法人会員 118,800円</li> <li>          会員外 130,350円</li> </ul>

□ オンライン参加選択可

プログラム			
	1日目	2日目	3日目
10:00	<b>図面の読み方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>モノづくりに必要な固有技術と管理技術とは?</b></li> <li>1 <b>なぜ図面は必要なのか</b></li> <li>2 <b>立体を1枚の紙に表すルールを学ぶ</b></li> <li>3 <b>図面から立体をイメージする</b></li> <li>4 <b>寸法表示を読み取る</b></li> <li>5 <b>公差を読み取る</b></li> <li>6 <b>表面粗さを読み取る</b></li> </ul>	<b>加工材料の基礎知識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 <b>材料知識の全体像</b></li> <li>2 <b>材料の性質と機械的性質</b></li> <li>3 <b>物理的性質と化学的性質</b></li> <li>4 <b>鉄鋼材料</b></li> <li>5 <b>非鉄金属材料と非金属材料</b></li> <li>6 <b>熱処理</b></li> <li>7 <b>材料選定の具体的な手順</b></li> </ul>	<b>機械加工の基礎知識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 <b>設計と加工の位置づけについて</b></li> <li>2 <b>削って形をつくる切削加工</b></li> <li>3 <b>型を使って変形させる成形加工</b></li> <li>4 <b>力を加えずに形をつくる加工方法</b></li> <li>5 <b>品質を保証する測定器の基礎知識</b></li> </ul>
17:00			



参加者の声 自社の図面で、なぜこうしていたのかという理由がわかった。図面を見直しながら知識を深めていきたい。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

## 28 機械設計ベーシックセミナー



ID 100591

2 日間

- ◆ はじめて機械設計に携わる方に、事例も踏まえて基礎知識と設計のコツを解説します。
- ◆ 力学や機構の計算は最小限にして、具体的な活用方法に重点をおいて解説します。
- ◆ 加工方法を意識した設計やコストダウン設計、また効率よく設計するためのコツを、やさしく解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● はじめて機械設計をおこなう初級技術者</li> <li>● 文系出身の設計アシスタント</li> <li>● 機械設計の基礎を学び直したい方々</li> </ul>
講師	● 西村 仁 ジン・コンサルティング 代表 生産技術コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月11日(木)～6月12日(金) 名古屋</li> <li>● 2026年 8月27日(木)～8月28日(金) 大阪</li> <li>● 2026年 10月15日(木)～10月16日(金) 東京</li> <li>● 2027年 2月 4日(木)～2月 5日(金) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 101,750円</li> <li>● 会員外 113,300円</li> </ul>

☐ オンライン参加選択可



参加者の声 機械系が専門ではないので、なんとなくしか理解していなかったことをきちんと理解できた。

プログラム	
1日目	2日目
10:00 <b>1 設備の必要性を考える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 何のために設備を開発するのか</li> <li>● 設備の自動化レベルを考える</li> <li>● 構想のストーリー</li> </ul> <b>2 機構の基本と位置決め</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● クランク機構とカム機構</li> <li>● 位置決めの基本と事例</li> </ul> <b>3 アクチュエータ(動力源)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モーターの特徴と選定基準</li> <li>● 空圧機器の特徴と使用法</li> <li>● 真空機器の特徴と使用法</li> </ul> <b>4 動力の伝達機構と機械要素</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 直動と回転の案内機構</li> <li>● 部品供給の形態</li> </ul> 17:00	<b>5 材料の性質と選択法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械的・物理的・化学的性質</li> <li>● 主な材料の特徴と使い分け</li> </ul> <b>6 機械加工法とコストダウン設計</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種加工法の特徴</li> <li>● 加工法によるコストダウン設計</li> <li>● ポカヨケとフェールセーフ</li> </ul> <b>7 センサとシーケンス制御</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種センサの特徴と使用法</li> <li>● 基本の論理回路</li> </ul> <b>8 機械の品質と標準化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械の品質を分解する</li> <li>● 標準化の切り口と進め方の事例</li> <li>● いかに設計のレベルをあげていくか</li> </ul>

## 29 図面の読み方「再」入門セミナー



ID 100295

1 日

立体モデルを使いながら、必要な図面ルールを基礎から学ぶ

- ◆ はじめて図面を見る方にもJIS図面ルールを基礎からわかりやすく解説します。
- ◆ 図面を見て立体をイメージする方法の習得では、立体モデルを手にしながらか演習を踏まえて理解を深めます。
- ◆ 図面に盛り込まれた情報の理解では「なぜ」その情報が必要なのかの視点を伝えることで原理、原則を理解します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発、設計、製造部門の技術者、アシスタントの方</li> <li>● 資材購買、品質管理、生産管理、営業の担当者</li> <li>● 図面の読み方がわからない、図面の読み方を学び直したい、図面を読めるスキルを身につけたい方々</li> </ul>
講師	● 西村 仁 ジン・コンサルティング 代表 生産技術コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月21日(木) 東京 ☐</li> <li>● 2026年 7月21日(火) 名古屋</li> <li>● 2026年 10月 9日(金) 大阪 ☐</li> <li>● 2027年 2月 3日(水) 東京 ☐</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

☐ オンライン参加選択可



参加者の声 基本的な図面の読み方に加え、知らなかった標記やあいまいに認識していたことを知ることができた。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 なぜ図面は必要なのか</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 工業製品と工芸品の違いとは</li> <li>② 図面の目的と種類を知ろう</li> </ol> <b>2 立体を1枚の紙に表すルールを学ぶ</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① なぜ立体図がそのまま図面にならないのか</li> <li>② 基本となるモノを見る視点 (第三角法) <span style="float:right">個人演習</span></li> <li>③ なぜ六面すべてを表さないのか</li> </ol> <b>3 図面から立体をイメージする</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 木彫りの考え方を使得って立体をイメージする</li> <li>② いろいろな例で練習しよう <span style="float:right">個人演習</span></li> </ol> <b>4 寸法表示を読み取る</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 図面のサイズと尺度</li> <li>② 線の種類とその使い分け方</li> <li>③ 寸法の読み方、寸法記入のルールを知る 他</li> </ol>	<b>5 公差を読み取る</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① なぜ公差は必要なのか</li> <li>② 数値で表す寸法公差</li> <li>③ 一括指示する普通公差</li> </ol> <b>6 表面粗さを読み取る</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① なぜ表面粗さの指示は必要なのか</li> <li>② 表面粗さ記号はJIS三世代が混在している</li> <li>③ 生地記号材料素材をそのまま使用する</li> </ol> <b>7 まとめ(総合演習) 実際の図面を読む</b> 他

## 30 図面の描き方習得セミナー



ID 100296

1 日

機械製図の基本ルールとうまく描くコツを身につける

- ◆ はじめて製図をおこなう方にも、JIS製図規格を基礎からわかりやすく解説します。
- ◆ 形を表す第三角法の習得では、立体モデルを手にしながらか演習を踏まえて理解を深めます。
- ◆ 寸法を記入する際に大切な「基準の考え方」は事例を踏まえながら紹介します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発、設計、製造部門の技術者</li> <li>● 文系出身の設計アシスタント</li> <li>● 図面の描き方がわからない、学び直したい、製図のスキルを身につけたい方々</li> </ul>
講師	● 西村 仁 ジン・コンサルティング 代表 生産技術コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 5月22日(金) 東京 ☐</li> <li>● 2026年 7月22日(水) 名古屋</li> <li>● 2026年 9月 9日(水) 東京 ☐</li> <li>● 2027年 2月25日(木) 大阪 ☐</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

☐ オンライン参加選択可



参加者の声 第三角法を立体モデルを使用して演習したことで、より理解しやすかった。

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
<b>1 図面を描くことの意味</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 図面の果たす3つの役割</li> <li>● 国家規格のJIS規格と社内規格</li> </ul> <b>2 図面用紙の構成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計用図面(計画図)と製作用図面(組立図と部品図)</li> <li>● 図面用紙のサイズと尺度の決め方</li> </ul> <b>3 立体図を図面に表す方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 立体モデルを手にしながらか第三角法を学ぶ</li> <li>● 図面用紙には正面図から描きはじめる</li> <li>● 実際に描いてみよう <span style="float:right">個人演習</span></li> </ul> <b>4 寸法記入のルール</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 寸法線と寸法補助線の引き方</li> <li>● 役立つ寸法補助記号 他</li> </ul>	<b>5 寸法公差とはめあい公差</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公差はなぜ必要なのか</li> <li>● 数値で表す寸法公差</li> <li>● 公差を記入しない普通公差</li> <li>● 記号で表すはめあい公差</li> </ul> <b>6 寸法記入の実際</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 寸法を記入してみよう</li> <li>● 大切な基準の取り方</li> </ul> <b>7 形に対して指示する幾何公差</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ幾何公差は必要なのか</li> <li>● 平面度と平行度の違い</li> </ul> <b>8 表面粗さ(表面性状)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ表面粗さの指示が必要なのか</li> <li>● 寸法公差と表面粗さの関係</li> </ul> <b>9 その他の表示方法</b> 他



ID 100302

1日

# 31 機械加工の基礎知識習得セミナー

「モノの形をどのような方法でつくるのか」をやさしく学ぶ

- ◆ はじめて学ぶ方に、動画や写真を用いながら加工の基礎知識を、やさしく解説します。
- ◆ 加工法を意識して描かれた図面の意図を解説します。
- ◆ 工具の回転数や送り速度といった「加工条件」については触れません。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発、設計部門の技術者、アシスタントの方々</li> <li>● 製造部門の技術者、担当者</li> <li>● 資材購買、品質管理、生産管理、営業の担当者</li> </ul>
講師	● 西村 仁 ジン・コンサルティング 代表 生産技術コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月26日(金) 大阪</li> <li>● 2026年 10月14日(水) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

☑ オンライン参加選択可



参加者の声 加工の種類や工具等、まだ知らない事柄が多く、改めて勉強になった。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 加工知識の全体像</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モノづくりに関する加工の位置づけ</li> <li>● 最適な加工法を選択する視点</li> <li>● 加工を5つのグループで見る</li> </ul>	<b>5 局部的に溶かす特殊加工</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 光を使ったレーザー加工</li> <li>● 精密加工に適した放電加工</li> <li>● エッチングと3Dプリンタ</li> </ul>
<b>2 削って形をつくる切削加工</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 丸形状に削る旋盤加工</li> <li>● 角形状に削るフライス加工</li> <li>● ボール盤による穴あけ加工</li> <li>● 砥石で仕上げる研削加工</li> </ul>	<b>6 材料の表面を変える表面処理と材料取り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 塗装とめっき</li> <li>● 材料取りの切断加工</li> <li>● すべての加工で行うバリ取り</li> </ul>
<b>3 型を使って変形させる成形加工</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 型で打ち抜く板金加工</li> <li>● 溶かしてつくる鋳造</li> <li>● プラスチック加工に適した射出成形</li> <li>● 金属を叩いて鍛える鍛造</li> <li>● 圧延加工と押し出し・引抜き加工</li> </ul>	<b>7 品質を保証する測定器</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 測定の意味</li> <li>● 直接測定の測定器</li> <li>● 間接測定の測定器</li> <li>● 表面粗さと硬さの測定器</li> </ul>
<b>4 材料同士の接合加工</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 溶かして一体化する溶接</li> <li>● ろう付けと接着</li> </ul>	<b>8 質疑応答・まとめ</b>



ID 100312

1日

# 32 加工材料基本知識習得セミナー

「どう選ぶのか?」「なぜ選ばれたのか?」をやさしく学ぶ

- ◆ 製品や生産設備、人手作業で使用する治具に使用する主な材料の性質を知り、材料特性を読めるように、基礎からわかりやすく解説します。
- ◆ 一般環境での使用を前提として、航空機や、溶鉱炉といった特殊環境下で使用する材料は省く代わりに、材料選定手順といった実務面の解説に力点を置きます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発、設計部門の技術者、アシスタントの方々</li> <li>● 製造部門の技術者、担当者</li> <li>● 資材購買、品質管理、生産管理、営業の担当者</li> </ul>
講師	● 西村 仁 ジン・コンサルティング 代表 生産技術コンサルタント
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月25日(木) 大阪</li> <li>● 2027年 2月26日(金) 大阪</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

☑ オンライン参加選択可



参加者の声 材料選定手順の標準化等、実務に役立つ内容だった。

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 材料知識の全体像</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料と熱処理の全体像をつかむ</li> <li>● 材料を選定する際に必要な要素</li> <li>● なぜ材料知識は難しいのか</li> </ul>	<b>5 非鉄金属材料と非金属材料</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 軽さのアルミニウム合金</li> <li>● 電気と熱の伝導性に優れた銅合金</li> <li>● 自由度の高いプラスチック</li> </ul>
<b>2 材料の性質と機械的性質</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料の性質を3つに分ける</li> <li>● 機械的性質は外部からの力に対する性質</li> <li>● 強さと硬さと急激な力に対する粘り強さ</li> </ul>	<b>6 熱処理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械的性質を変える熱処理</li> <li>● 硬く粘り強くする「焼入れ焼戻し」</li> <li>● 軟らかくする「焼なまし」</li> <li>● 標準状態に戻す「焼ならし」</li> <li>● 表面のみに施す「高周波焼入れ」と「浸炭」</li> </ul>
<b>3 物理的性質と化学的性質</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 重さと電気の流れやすさを表す導電率</li> <li>● 熱による伸びと伝わるスピード</li> <li>● 悪性の赤さびと良性の黒さび</li> </ul>	<b>7 材料選定の具体的な手順</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 選定時間ゼロを狙う</li> <li>● 基本は炭素鋼で特殊用途のみ合金鋼を使う</li> <li>● 強さには材料力学を活かす</li> <li>● 材料の標準化を進める</li> </ul>
<b>4 鉄鋼材料</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉄の性質は含まれる炭素量で決まる</li> <li>● 安価な炭素鋼と高価な合金鋼の違い</li> <li>● 鋳物に使う 鑄鉄</li> </ul>	



ID 152261

1日

# 33 技術者のための「なぜなぜ分析」セミナー

問題の再発防止に利用される「なぜなぜ分析」は、効果が高いという評価がある反面、使い方が難しいとも言われます。特に技術者にとっては、その傾向が顕著になります。従来の「なぜなぜ分析」セミナーは、「ものづくり/生産」「ヒューマンエラー」に焦点を当てているものが多く、技術者/開発者/設計者視点の「なぜなぜ分析」セミナーは、ほとんどありませんでした。DX時代は、技術があらゆる分野で融合し、複雑化していきます。従って、発生した問題を表面的に捉えてしまうと、繰り返し同様の問題が発生します。そこで、本セミナーでは、多くの事例を通じて、技術者における「なぜなぜ分析」の活用の仕方、演習を中心として実践的に解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「なぜなぜ分析」を理解したい方</li> <li>● 問題の本質の見極めに苦労している方</li> <li>● 問題の再発防止/是正処置ができない組織の技術者</li> <li>● 繰り返し類似の問題(不良)が発生している組織の技術者</li> <li>● 品質の改善を図りたい技術者/管理者/品質保証関係者</li> <li>● 「なぜなぜ分析」の実務への活かし方が理解できていない方</li> <li>● リスクマネジメントの手法を理解したい方</li> </ul>
講師	● 高安 篤史 合同会社コンサルランス 代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月12日(金) オンライン</li> <li>● 2026年 10月 2日(金) オンライン</li> <li>● 2027年 2月 9日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 56,650円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (9:30 ~ 16:30)	
<b>1 「なぜなぜ分析」の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ、「なぜなぜ分析」か?</li> <li>● 基本的なルール</li> <li>● 適用項目: 作業/行動ミス、社外発生不良、プロジェクト問題(日程遅延、コスト超過など)、業務の慢性的問題など</li> <li>● 他の品質分析手法との違い</li> </ul>	<b>6 「なぜなぜ分析」を「未然防止」へ適用する方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「なぜなぜ分析」は、発生した問題を未然防止するだけではなく、類似不良の防止や問題の未然防止も可能になります。その方法を習得します。</li> </ul>
<b>2 問題発生状況の整理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 言葉の定義(問題と課題の違い、課題種類、原因と要因の関係、論点の粒度等)</li> <li>● 事実関係を整理するための方法</li> <li>● テンプレート(事実確認シート)による纏め</li> <li>● 失敗しないためのコツ①</li> </ul>	<b>7 技術者における「なぜなぜ分析」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発の検討/技術採用時における問題点</li> <li>● 簡単な事例(見積もりの問題)による演習: 分析の問題点の指摘 <b>演習④</b></li> </ul>
<b>3 「なぜなぜ分析」の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 進め方の概要</li> <li>● 「なぜなぜ分析」の注意事項</li> <li>● 本質の問題を見極めるためには?</li> <li>● 要因リストは必要か?</li> <li>● 本質的な問題が洗い出せていない事例 <b>演習①</b></li> </ul>	<b>8 種々の技術分野/業務分野の「なぜなぜ分析」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「なぜなぜ分析」事例サンプル(DX時代に必要「なぜなぜ分析」)</li> <li>● 開発プロジェクトの遅延(コミュニケーション不良における最終評価で問題多発)</li> <li>● 後継機での開発で仕様が変わり安全事故</li> <li>● ソフトウェア開発(変数名の間違い)による売り上げ計算結果の不正</li> <li>● AI(人工知能)による外観検査で不良の多数見逃し他</li> </ul>
<b>4 演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡単な事例による「なぜなぜ分析」実施演習 <b>演習② 演習③</b></li> </ul>	<b>9 演習Ⅱ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自業務における「なぜなぜ分析」演習 <b>演習⑤</b></li> </ul>
<b>5 再発防止策の立案</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改善項目の分類(工数、改善効果、短期/中長期など)</li> <li>● 失敗しないためのコツ②</li> </ul>	*実施結果の発表などはありませんが、必要により講師から個別にアドバイスを致します。

\*会期、内容など一部変更の可能性もありますので、ご了承ください。

## 34 技術者のための課題設定力強化セミナー



ID 152748

1日

本セミナーでは、研究開発・技術開発において技術者が適切に課題設定できるスキルを育成いたします。技術開発の各段階（テーマ探索、開発対象と目標設定、開発推進、実用化・製品化、計画立案）において、技術者に求められる課題設定の実践的なスキルを理論も参照しながら学び、革新的な技術開発と実用化を促進する能力を習得できるようにします。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術者として達成して成果を実用化・製品化につなげたい方</li> <li>● 開発テーマや技術テーマの探索で悩んでいる方</li> <li>● 研究開発や技術開発に行き詰まっている状況を打開したい方</li> </ul>
講師	● 日比 慶一 株式会社ディアレスト・パートナー 代表取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月13日(火) 東京</li> <li>● 2027年 1月26日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 はじめに	
2 技術開発と課題設定	
3 研究開発テーマ探索における課題設定	
4 研究開発における技術課題の特定と課題設定	グループ演習
5 開発を推進する上での課題への対処	
6 開発成果の実用化・製品化における観点と課題設定	グループ演習
7 効果的な課題設定のための考え方のポイント	
8 まとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーのまとめと振り返り、質疑応答</li> </ul>

## 35 ものづくり・研究開発の進め方、論理的技術者思考とその実践 (旧名称:技術者が研究開発を行うための論理的な考え方と進め方)



ID 151261

1日

### 目的達成できるロジカルな考え方と具体的方法

昨今の技術者は、高いレベルでの研究開発をスピーディーに、且つ、効率に行うことが求められています。

- 実験量ばかり多くて成果に結びつかない
- ゴールにつながる計画が立てられない
- データと情報に埋もれてしまっている

本セミナーでは、若手技術者が研究開発を行うために求められる論理的思考について解説します。

研究開発の場面はもちろん、製造トラブルなどの問題解決においても役立つ若手・中堅技術者におすすめのプログラムです。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究開発、技術部門の若手・中堅社員の方</li> <li>● 論理的思考を習得したい方</li> </ul>
講師	● 奥村 治樹 ジャパン・リサーチ・ラボ代表
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 8月25日(火) オンライン</li> <li>● 2027年 2月 8日(月) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:30～16:30)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【目的と目標】 机上の空論で終わらせない、実験を発散させない、求める成果を得るための基盤となる目的と目標とは何、そこに求められることについて解説します。</li> <li>● 【開発(ものづくり)の進め方】 企業における研究開発、ものづくりに求められることを整理しつつ、技術者としてこれをどのように捉え、考えて、進めていくかについて解説します。</li> <li>● 【研究開発のための思考】 研究開発において求められる論理的技術者思考とはどのようなものであり、どう実践するのかについて、求められるスキルを含めて解説します。</li> <li>● 【論理的な考え方と解釈】 実験結果等の情報をどのように捉えて、扱えば良いかについて、論理的技術者思考をベースとして、普段何気なく行っている行為の落とし穴なども含めて解説します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【思考の道具】 論理的技術者思考を進めるにあたって用いられる代表的な思考の道具、テクニックについて解説します。</li> <li>● 【仮説と検証】 論理構築はもちろん、論理的技術者思考の根幹とも言える仮説構築とその検証について、ポイントだけでなく陥りがちな落とし穴も含めて解説します。</li> <li>● 【実験の本質とは】 研究開発、ものづくりに欠かすことができない実験の役割とは何か、あるべき実験の姿とはどのようなものかについて、改めて整理解説します。</li> <li>● 【研究者の心得】 成果を出せる技術者、研究者となるための考え方、条件について、これまでの実務経験も踏まえながら解説します。</li> <li>● 質疑</li> </ul>

参加者の声 演習が多くて良い。オンラインでしたがコミュニケーションも問題なくとることができた。

## 36 技術開発現場の課題解決に使えるロジカルシンキング力(論理的思考力)強化セミナー



ID 152519

1日

本セミナーでは、先行き不透明な時代の中で複雑な課題を解決する基礎となるロジカルシンキングの力を習得します。研究開発・技術開発の現場でもすぐに実践できて、技術課題や業務課題を効果的に解決できる思考力を習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の考えや収集した情報をスッキリ整理したい方</li> <li>● 思い込みや固定観念に気づいて柔軟に思考できるようになりたい方</li> <li>● 研究開発や技術開発に行き詰まっている状況を打開したい方</li> <li>● 論理的な思考力(ロジカルシンキング)を強化したい方</li> </ul>
講師	● 日比 慶一 (株)ディアレスト・パートナー 代表取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月28日(水) 東京</li> <li>● 2027年 1月20日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00～17:00)	
1 はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーの目的・ゴール設定</li> <li>● アイスブレイク</li> </ul>
2 ロジカルシンキングとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ロジカルシンキングが求められている理由</li> <li>● 基本の確認、思考力チェック</li> <li>● ロジカルシンキングの定義と効果</li> <li>● 技術・研究開発におけるロジカルシンキングの効用</li> </ul>
3 ロジカルシンキングのツールと手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ロジカルシンキングのツール</li> <li>● MECE(漏れなくダブりなく)に分類する</li> <li>● ピラミッドストラクチャーで研究結果を整理する</li> <li>● ロジックツリーで技術課題を分解する</li> </ul>
4 ロジカルシンキングを使った課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決の2段階: 開発課題の設定と解決策の発見</li> </ul>
5 情報の収集・整理とロジカルシンキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 論点(イシュー)と結論(メッセージ)の関係</li> <li>● ロジックツリーで技術課題の本質を探る</li> <li>● 解決手段を探索するロジックツリー</li> </ul>
6 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仮説を設定して開発テーマを決める</li> <li>● ピラミッドストラクチャーで実験結果から課題発見</li> <li>● 仮説検証のための実験計画を考える</li> <li>● ロジカルシンキングで技術開発を進めるポイント</li> </ul>
7 まとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 思考力を高める学習法のヒント</li> <li>● セミナーのまとめと振り返り、質疑応答</li> </ul>

# 37 クリティカルシンキング力(課題解決する思考力)強化セミナー

ID 152520  
1日

本セミナーでは、正解がない時代と言われる中で情報の本質を見抜いて合理的に判断できる力であるクリティカルシンキングを習得します。研究開発・技術開発の業務においても技術課題や業務課題の解決に行き詰まった時、様々な情報を整理したい時に、合理的に判断できる思考力を習得します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多くの情報が溢れている中で正しく考えて適切な解決策を見出したい方</li> <li>● 過去の常識や固定観念にとらわれず柔軟に発想できるようになりたい方</li> <li>● 研究開発や技術開発における困難な課題を効果的に解決して前に進みたい方</li> <li>● 困難な状況でも自分で判断して意思決定できるリーダーとしての力を習得したい方</li> </ul>
講師	● 日比 慶一 (株)ディアレスト・パートナー 代表取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月 3日(金) 東京</li> <li>● 2026年10月29日(木) 東京</li> <li>● 2027年 1月21日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 はじめに</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーの目的・ゴール設定</li> <li>● アイスブレイク <b>グループ演習</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術的な制約条件とクリティカルシンキング</li> <li>● クリティカルシンキングによる新技術の発見 <b>グループ演習</b></li> </ul>
<b>2 論理的思考とクリティカルシンキング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● VUCAの時代と思考力が注目されている理由</li> <li>● 論理的思考の基本を振り返る <b>個人演習</b></li> <li>● クリティカルシンキングの定義と技術開発での活用</li> <li>● ロジカルシンキングとクリティカルシンキングの関係</li> </ul>	<b>5 解くべき技術課題を見極める</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術開発における本質的な技術課題を探る</li> <li>● 論点の設定で発見できる技術課題の真の要因 <b>グループ演習</b></li> <li>● 仮説設定と仮説検証からの技術課題の解決 <b>グループ演習</b></li> </ul>
<b>3 思考の偏りと認知バイアス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 思い込みと認知バイアスのチェック <b>個人演習</b></li> <li>● 技術者に生じやすい認知バイアスと理由</li> <li>● 思考のクセに気づいて技術アイデアを発想する <b>グループ演習</b></li> </ul>	<b>6 総合演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術開発における行き詰まりを打開するケーススタディ <b>グループ演習</b></li> <li>● 新技術の発想力とクリティカルシンキング</li> </ul>
<b>4 クリティカルシンキングの実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● クリティカルシンキングの3要素</li> <li>● 常識を疑うことで見えてくる技術開発の事例 <b>個人演習</b></li> </ul>	<b>7 まとめと振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術者としての判断力・意思決定力を身に付ける</li> <li>● セミナーのまとめと振り返り、質疑応答</li> </ul>

# 38 ラテラルシンキング力(創造的水平思考力)強化セミナー

ID 152521  
1日

本セミナーでは、課題解決やアイデア発想に使える思考法としてのラテラルシンキングの力を習得します。研究開発・技術開発においても既存概念や固定観念の枠を超えて柔軟で革新的な発想ができる思考力は、困難な技術課題や業務課題に解決の糸口を与え、イノベーションの創出に活用することができます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 革新的で斬新なアイデアが発想できる思考力を身に付けたい方</li> <li>● 暗黙の前提や固定観念に縛られずに自由で柔軟に思考できるようになりたい方</li> <li>● 困難な技術課題や業務課題の解決策を見つけ出せるようになりたい方</li> <li>● ありきたりではないユニークで面白いアイデアを考え出せる力を学びたい方</li> </ul>
講師	● 日比 慶一 (株)ディアレスト・パートナー 代表取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月30日(金) 東京</li> <li>● 2027年 1月22日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 はじめに</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーの目的・ゴール設定</li> <li>● アイスブレイク <b>グループ演習</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 制約条件を外して技術課題を考えることの意義 <b>個人演習</b></li> <li>● 理想システムから逆算して設計するバックキャスト <b>グループ演習</b></li> </ul>
<b>2 課題解決とイノベーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会の変化とイノベーションへの期待</li> <li>● 新技術のアイデアが出てこないのはなぜ?</li> <li>● 既存概念と前提知識がもたらす思い込み <b>個人演習</b></li> <li>● イノベーションを生み出すには? を考える <b>グループ演習</b></li> </ul>	<b>5 ラテラルシンキングによる技術課題の解決</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題発見における発想法と課題解決のための発想法</li> <li>● ラテラルシンキングを技術課題の発見に使う <b>グループ演習</b></li> <li>● 技術開発においてラテラルシンキングで生まれるアイデアの事例</li> <li>● 未来を状況を仮想して実現できる技術仕様を考えてみる <b>グループ演習</b></li> </ul>
<b>3 ラテラルシンキングとは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 論理的思考による発想の限界とは</li> <li>● ラテラルシンキングの基本 <b>個人演習</b></li> <li>● ラテラルシンキングの定義と技術開発での効果</li> <li>● ロジカルシンキングとラテラルシンキングの比較 <b>個人演習</b></li> </ul>	<b>6 総合演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新技術・新方式のアイデア発想のケーススタディ <b>グループ演習</b></li> <li>● 思考力を高める学習法のヒント</li> </ul>
<b>4 思考の枠を拡げる発想のエッセンス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 発想法とは何か?</li> <li>● 技術開発とは制約条件下での課題解決</li> </ul>	<b>7 まとめと振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーのまとめと振り返り、質疑応答</li> </ul>

# 39 読みやすく伝わりやすい技術文書が書ける文書作成力強化セミナー

ID 152522  
1日

本セミナーでは、相手に伝わりやすい論理的な文書が作成できるロジカルライティングの力を習得します。研究開発・技術開発の業務における技術報告書や提案書、論文などを題材に、現場でもすぐに実践できてシンプルで明瞭な文書を作成する力を習得して、わかりやすく説得力がある文書が書けるようになります。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の頭の中を整理して考えやアイデアをスッキリとまとめたい方</li> <li>● 自分の考えが伝わるようにわかりやすい技術文書が作成できるようになりたい方</li> <li>● 明瞭で説得力のある文書を作成して提案書・企画書が採用されるようになりたい方</li> <li>● 書くことの苦手意識を払拭してシンプルで簡潔な文書を作成したい方</li> </ul>
講師	● 日比 慶一 (株)ディアレスト・パートナー 代表取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月 2日(木) 東京</li> <li>● 2026年10月27日(火) 東京</li> <li>● 2027年 1月19日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 はじめに</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーの目的・ゴール設定</li> <li>● アイスブレイク <b>グループ演習</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表的な文書の構成法: 5W1H、サンドイッチ法 <b>個人演習</b></li> <li>● 技術提案をストーリーで伝える構成法 <b>グループ演習</b></li> </ul>
<b>2 わかりやすい文書とわかりにくい文書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術文書の種類と目的を考える <b>グループ演習</b></li> <li>● 文書の特徴と口頭との違い <b>グループ演習</b></li> <li>● 文書がわかりにくいのはなぜ? <b>個人演習</b></li> <li>● 読み手と伝えたいこと、文書の目的と内容を考える <b>個人演習</b></li> </ul>	<b>5 書く段階: 文書の書き方のポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● わかりやすい書き方の3つのポイント</li> <li>● シンプルに書く書き方 <b>個人演習</b></li> <li>● 根拠となる事実と考察・意見は分けて伝える <b>個人演習</b></li> </ul>
<b>3 ロジカルライティングの基本</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ロジカルライティングとは</li> <li>● わかりやすさと「伝える」コミュニケーション <b>グループ演習</b></li> <li>● 文書を作成する2ステップ: 考える段階と書く段階</li> </ul>	<b>6 技術文書の事例と作成のポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術者にありがちなクセと注意点</li> <li>● 技術的な専門用語の使い方</li> <li>● 提案書・企画書の構成と書き方 <b>グループ演習</b></li> <li>● 技術論文・技術説明の書き方 <b>グループ演習</b></li> </ul>
<b>4 考える段階: 情報と内容の整理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 三角ロジックとロジカルシンキング <b>個人演習</b></li> <li>● 文書を作成する目的と結論の関係</li> <li>● 結論・主張の根拠をデータで理由付ける <b>個人演習</b></li> <li>● 論理構成と伝える順序: 大項目と小項目</li> </ul>	<b>7 総合演習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術報告書・研究レポートの作成演習 <b>個人演習</b></li> <li>● 相手の立場で考える「伝える」コミュニケーション</li> </ul>
	<b>8 まとめと振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーのまとめと振り返り、質疑応答</li> </ul>







# 49 生成AIを活用した技術系英文作成セミナー

NEW  ID 152824  
1日

英語によるコミュニケーションで、誤情報の伝達をどう避けるか。いかに素早く正しい情報を届けるか。それは技術系コミュニケーションの現場における大きなテーマです。和文英訳においても生成AIの利用が広がり、情報を受け取る側でも、その精度についての意識が高まっています。

翻訳や読みづらさなどのように発生するものは、人間による翻訳でも生成AIによる翻訳でも、基本的には同じです。そのメカニズムをコントロールすることが、高品質な翻訳をする上では不可欠です。特に、生成AIの場合はそのスピードが仇となり、コントロール不足が誤訳の大量発生につながることもあります。ハルシネーション（事実に基づかない情報や、実際には存在しない情報を生成してしまう現象）に対しても十分な注意が必要です。本セミナーでは、和文英訳における誤訳や読みづらさの原因を明確にし、それを解消する手法を探っていきます。生成AIからの英文出力を、いかにして熟練の翻訳者の品質に近づけるか。講義と演習を通して、生成AIを活用した高品質な技術系英文の作成手法を習得していただきます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語技術文書の取り扱いがある方（マニュアル作成・Eメール・英訳/和訳・情報収集など）</li> <li>英語でのやり取りの回数を最小に抑え、業務効率の改善を図りたい方</li> <li>英語に自信がないが、確実に情報を伝えたい方</li> <li>英語に自信はあるが、相手の英語力が低くて伝わらない場合がある方</li> </ul>
講師	平野 信輔 一般社団法人日本能率協会 (技術英検1級取得実務翻訳者)
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年11月19日(木) オンライン</li> <li>2027年1月21日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 58,300円</li> <li>                  会員外 66,000円</li> </ul>

プログラム	
1日 (9:30 ~ 17:00)	
<b>1 技術系和英翻訳に求められるもの</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>正確で素早く読める英文 — 概念と実例</li> <li>翻訳作業のスピード</li> </ul>	<b>4 誤訳やわかりづらさを抑え込むには</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語と英語の特性差を吸収する</li> <li>訳しやすい原文/生成AI対応の原文を作る</li> <li>プロンプトを工夫する</li> </ul>
<b>2 人間にも生成AIにも問題がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間の翻訳者によくある問題点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>— 時間 (=コスト) がかかる/品質のばらつきが大きい</li> </ul> </li> <li>旧来の自動翻訳によくある問題点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>— 不自然・不正確・意味不明</li> </ul> </li> <li>生成AIによくある問題点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>— 自然に読めるが中身が違う</li> </ul> </li> </ul>	<b>5 生成AI出力やドラフト翻訳のチェックポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>文法</li> <li>論理の流れ</li> <li>用語の正確性</li> <li>文章のスタイル</li> </ul>
<b>3 誤訳やわかりづらさの発生メカニズム</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>原文に問題がある場合</li> <li>翻訳者の力量/生成アルゴリズムに問題がある場合</li> </ul>	<b>6 【演習】翻訳実践セッション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習1 日本語(入力)の改善</li> <li>演習2 プロンプトの工夫と、出力のチェック</li> </ul>

# 50 技術・生産部門担当者のための 伝わる『技術英語』習得セミナー(基礎編)

 ID 100314  
1日

「はっきり、短く、正しく」伝わる英語のテクニック

- ◆「技術英語」は技術情報の伝達に特化した英語です。素早く、適切な形で、正確に伝達することを目的としています。
- ◆最小限の英語力で情報を正確に効率よく伝達するポイントを学びます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術文書を取扱う方</li> <li>技術情報の伝達ポイントを学びたい方</li> </ul>
講師	平野 信輔 一般社団法人日本能率協会 (工業英検1級取得実務翻訳者)
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年6月4日(木) オンライン</li> <li>2026年9月8日(火) オンライン</li> <li>2027年2月5日(金) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 58,300円</li> <li>                  会員外 66,000円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 技術英語(テクニカルライティング)に必要な要素 -3つのC</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Clear—はっきり書く</li> <li>Concise—短く書く</li> <li>Correct—正しく書く</li> </ul> ※技術英語(テクニカルライティング)に必要なとされる、三つの要素の概要を学びます。	
<b>2 ムダを省いて英語化する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の順位付けを行う</li> <li>強い動詞を使う</li> </ul> ※原文中の無駄を省き、少ない語数で英語化する方法を学びます。語数が少なければミスも減ることから、正しく伝えることにもつながります。	
<b>3 原文の形にこだわらない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に合ったスタイルを選ぶ</li> </ul> ※できるだけ能動態を使う ※単なる構文置き換えでは、意味は正しく伝わりにくいもの。文書の目的を見据え、書き手にとっては書きやすくミスをしにくい表現、読み手にとっては分かりやすい表現を、積極的に選ぶ練習です。	
<b>4 情報を正しく伝えるために</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>冠詞と可算・不可算</li> <li>副詞・助動詞</li> </ul> ※冠詞は日本語に存在せず正体がかみづらしいもの。副詞や助動詞は意味を誤って覚えていることが多いもの。それぞれの言葉の意味を整理し、情報伝達に影響する間違いと、簡単に正しい使い方を明らかにします。	

参加者の声 英語の正しい使い方が今まであまりできていなかったことに気づかされた。

# 51 技術・生産部門担当者のための 伝わる『技術英語』習得セミナー(中級編)

 ID 100314  
1日

読み手が誰かを意識し、より伝わる表現を学ぶ

- ◆「はっきり、短く、正しく」という基礎に加え、読み手によって適した表現を学びます。
  - ◆演習中心で、書くだけではなく、グループでのディスカッションも交えながら実務に使える英語表現を繰り返し練習します。
- ※基礎編を受けられていない方には、まずは基礎編の受講をお勧めしています。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術文書を取扱う方</li> <li>技術情報の伝達ポイントを学びたい方</li> </ul>
講師	平野 信輔 一般社団法人日本能率協会講師 (工業英検1級取得実務翻訳者)
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年9月17日(木) オンライン</li> <li>2027年2月18日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名につき 法人会員 58,300円</li> <li>                  会員外 66,000円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00 ~ 17:00)	
<b>1 基礎編の復習</b> <p>基礎編で学習した、テクニカルライティングの3つのC (Clear, Concise, Correct) の概念を復習します。また、3つのCを実現するために気を付けるべきポイントを復習します。</p>	
<b>2 より少ない語数で正確に表現する練習</b> <p>無駄に長い英文を、効率の良い読みやすい英文に書き直す練習をします。表現を練習します。表現を変えてもニュアンスを変えないためのポイントや、よりクリアに情報を伝えるためのポイントを学びます。</p>	
<b>3 情報提示の基本</b> <p>分かりやすい情報提示の基本として、時系列や空間配置を的確に意識した表現を練習します。日本語を訳すのではなく、シンプルな図形を最初から英語で表現する演習も行います。</p>	
<b>4 文書の種類とスタイル</b> <p>指示書・仕様書・カタログといった、異なる種類の文書に合わせて、適切なスタイルで表現する練習をします。読者をイメージし、読者にとって読みやすく使いやすい文書を作成するコツをつかみます。</p>	

参加者の声 イメージを英語で簡潔に説明するグループワークが参考になった。基礎編同様、実例をもとにした説明がわかりやすく役立ちます。

## 52 技術者のための技術マーケティング基礎セミナー

ID 152357  
1日

技術を利益に結びつけるには技術とともに、市場や顧客の変化を感じ取り、顧客を理解するマーケティングが必要です。技術マーケティングの役割は技術を活用し顧客に支持される価値を創造し届けることです。

そのためには、技術者がマーケティングマインドを持ち、技術マーケティングに取り組むことが求められます。

本セミナーでは、マーケティングになじみの少ない技術者の方が技術マーケティングの基礎的な知識を習得するとともにWithコロナの環境下で技術者が実践すべき価値の創造や技術者ならではの価値を届けるポイントを個人演習を交えて体系的に理解して頂きます。激変する市場で社会に貢献する企業の成長を推進する技術者を目指している方々の参加をお待ちしています。

事前にマーケティングの知識は必要ありませんので、安心してご参加ください。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究・開発・技術・企画部門等の技術系社員</li> <li>● 技術マーケティングの基本的な考え方や手法を学びたい技術者</li> <li>● 技術を事業につなげるために市場志向の仕組みや手法を検討している企業・部門の方</li> </ul>
講師	● 石川 憲昭 アイマーケ(株) 代表取締役
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月16日(木) オンライン</li> <li>● 2026年11月 4日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 55,000円</li> <li>● 会員外 60,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 自己紹介</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各参加者自己紹介zoom</li> </ul> <b>2 技術者が押さえておくべきマーケティングの基礎</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営とマーケティング</li> <li>● マーケティングとは</li> <li>● マーケティング活動の全体像(価値創造、価値提供)</li> <li>● マーケティング推進能力</li> <li>● <b>個人演習</b> 自社のマーケティング活動分析</li> </ul> <b>3 マーケティング志向による価値創造のすすめ方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社の技術の分析</li> <li>● ターゲット市場の設定</li> <li>● 市場細分化の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) B2C商品とB2B商品の特性 b) 用途による分類</li> </ul> </li> <li>● 市場の評価・選択</li> <li>● 顧客価値の分類 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) ものづくり b) ことづくり</li> </ul> </li> <li>● 価値創造プロセス a) アイデア創造 b) コンセプト創出 c) 市場検証</li> <li>● 製造業の価値創造 事例紹介</li> <li>● <b>個人演習</b> ポジショニング分析</li> </ul>	<b>4 市場リサーチのすすめ方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● マクロ調査の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 業界調査の方法</li> <li>b) 未来洞察の方法 (ホライゾン・スキャニング)</li> </ul> </li> <li>● ミクロ調査の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) インタビュー b) アンケート c) 観察</li> </ul> </li> </ul> <b>5 価値提供への技術者の役割</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業の購買行動</li> <li>● プロモーション活動</li> <li>● 技術のブランディング</li> </ul> <b>6 技術マーケティング推進する組織・個人</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織の集合知の活用</li> <li>● 変化に対応できる組織</li> </ul>

## 53 製品・サービスに「情緒的価値」のつくり込み方習得セミナー(基礎編)

ID 152121  
1日

### 心理学 × 行動経済学の理論を活用

「心理学や行動経済学の理論を活用し、商品本来の機能や性能の価値に加えて、顧客の求める感覚や感情を生み出し、好ましい心理状態を継続的につくり込む」ための考え方や方法を学びます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● R &amp; D部門、技術・開発・設計部門の管理職・技術者の方</li> <li>● 新製品・サービス、新規事業の担当者</li> <li>● マーケティング部門の戦略立案・分析担当者</li> </ul>
講師	● 高橋 澄子 (株)MOMO 代表取締役 公認心理士・経営コンサルタント 米国CTI認定プロコーチ 産業カウンセラー
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年10月21日(水) 東京</li> <li>● 2027年 2月25日(木) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 62,150円</li> <li>● 会員外 73,150円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 顧客が求める価値の変化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● マーケットの変化と提供価値の多様性</li> <li>● 基本価値=機能的価値+付加価値=情緒的価値</li> </ul> <b>2 「情緒的価値」とは何か</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「情緒的価値」とは何か <ul style="list-style-type: none"> <li>● 感情のメカニズムと行動への影響</li> <li>● 感情からより心理的・精神的価値へ</li> <li>● 少ない情報による単純化した商品選択(ヒューリスティック)</li> <li>● 顧客の基本的な5段階のニーズを充足するために</li> </ul> </li> <li><b>ミニ実習</b> 顧客の立場で「情緒的価値」を体験する。</li> <li>(2) 他社商品の活用例から学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 顧客の心の3階層(顕在意識・潜在意識・深層心理)</li> <li>● 顧客のどんなニーズの充足、問題の解決に役立っているのか</li> <li>● 既存の商品価値にどんな価値を付加しているのか</li> </ul> </li> <li><b>グループ実習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● BtoC商品のケース分析</li> <li>● BtoB商品のケース分析</li> </ul> </li> </ul>	<b>3 「情緒的価値」をコンセプトにつくり込み開発手法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「情緒的価値」を探索する調査方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>● カスタマージャーニーマップ法</li> <li>● 画像などイメージを使うインタビュー法 etc.</li> </ul> </li> <li><b>ペア実習</b> 心理・本音を引き出す深層インタビュー法(講師のデモンストレーション/ペア実習)</li> <li>(2) 価値カード*による商品コンセプト発想 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最近注目されている「情緒的価値」とは</li> <li>● 他者への共感と社会的行動、承認欲求の高まり etc.</li> </ul> </li> <li><b>グループ実習</b> ターゲット顧客のニーズや要望から付加すると商品の魅力が高まりそうな価値を選び、商品コンセプトやその実現方法を検討する。</li> </ul> <p>*価値カード：さまざまな価値が記載されるカード。アイデア発想の視点。</p>
<b>4 振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>グループ実習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● BtoC商品のケース分析</li> <li>● BtoB商品のケース分析</li> </ul> </li> </ul>	

## 54 「ひとり情シス」のための基礎知識とスキル習得セミナー

ID 152335  
1日

「ひとり情シス」とは、一人でのIT環境や情報システムを管理する担当者のことで、中堅中小企業ではとても多い状況です。

一般社団法人ひとり情シス協会が2022年1月に発表した「ひとり情シス実態調査2022」では、従業員100名から499名までの企業では37.6%にあたる1.8万社、従業員20名から99名までの企業では87.4%にあたる約20万社で、情シスが一人以下であるという結果が出ています。この結果からもわかる通り、IT人材不足の問題は中堅中小企業では特に深刻です。また、コロナ禍の影響で、リモートワークやBCP対応など、中堅中小企業においてもITやデジタル活用が必要が増えています。

今までIT担当者がいなかった「ゼロ情シス」企業では、新規にひとり情シスを任命することになり、経験の浅いひとり情シスが「増加」しています。「ひとり情シス実態調査2022」によると、ひとり情シスの24%が経験3年以内で、ITや業務の知識に不安を持っていることが判明しています。特に製造業のひとり情シスは、生産設備とのIoTや生産性向上のRPA、CAD/CAMシステムなど、ITやデジタル化の適用範囲が広い傾向にあります。また業務上取引先とデータ交換することも多く、セキュリティ対策が不可欠です。そのため、5つのカリキュラムの内、1つを製造業にフォーカスした内容にしました。カリキュラムは他業種の方も受講可能です。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造業で経験3年未満の初級情シスの方</li> <li>● 500名までの中堅中小企業の少人数情シス</li> <li>● 基礎から学び直したいひとり(少人数)情シスの方</li> <li>● 近々にひとり(少人数)情シスに着任する方</li> </ul>
講師	● 増山 大輔 一般社団法人ひとり情シス協会 認定インストラクター
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月 5日(金) 東京</li> <li>● 2026年11月13日(金) 東京</li> <li>● 2027年 2月 5日(金) 名古屋</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 44,000円</li> <li>● 会員外 49,500円</li> </ul>

プログラム	
1日 (10:00~17:00)	
<b>1 多岐にわたるひとり情シス担当者の仕事</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ひとり情シスとは?</li> <li>● ひとり情シス実態調査</li> <li>● ひとり情シスの仕事の範囲</li> <li>● ひとり情シスのタイプ</li> </ul> <b>2 これだけは理解しておきたい基礎知識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本的な勉強の仕方</li> <li>● ネットワーク、サーバー、クラウド</li> <li>● セキュリティ</li> <li>● DX推進の考え方(DXアクセラレーションプログラム紹介)</li> </ul> <b>3 ひとり情シスの心得と必要なスキル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状認識・環境構築</li> <li>● セキュリティ対策</li> <li>● 資産・ドキュメント管理</li> <li>● バックアップ</li> <li>● 端末設定</li> <li>● リテラシー向上</li> <li>● 最適なパートナー発掘</li> <li>● ベンダーマネジメント</li> <li>● 経営層とのコミュニケーション</li> <li>● ユーザー部門との関係構築</li> </ul>	<b>4 現場で頻出のトラブルシューティング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● トラブルあるある</li> <li>● パソコントラブル、ネットワークトラブル、ベンダートラブルなど、様々な事例を紹介</li> <li>● セキュリティ事件簿</li> <li>● 実際に発生したセキュリティトラブルの事例から学ぶ</li> </ul> <b>5 製造業の情シス担当者ならではの悩み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場とのコミュニケーション</li> <li>● IoT、RPA、AIの取り組み方</li> <li>● 生産管理パッケージへの取り組み</li> </ul>



ChatGPTを中心とした生成AIが、大きな注目を集め、活用が広がってきています。しかしながら、画期的だという評価も多中で、実際に使った人からは「回答に間違いがあり使えない」などの指摘も見られます。加えて、AIエージェント（自律的にPC作業を実施）の進化が著しく、今後の業務効率化に与える影響は測り難くないと思われま。

現状、生成AI/AIエージェントに関する、ものづくりの技術者や設計者への実践的な情報が少なく、具体的にどのよう活用すれば良いのかよくわからないという声が多数あります。

本セミナーでは、ChatGPTなどの生成AIやAIエージェントを業務で活用するための基本事項を、ご理解いただきます。講師は、デジタル技術に造詣があり、製造業の業務改善に経験豊かなコンサルタントが務めます。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造業の技術系・業務系の実務担当者</li> <li>● 生成AIの活用を業務に取り入れたい管理職・リーダー層</li> <li>● AI活用の企画・推進を担うスタッフ部門</li> <li>● 生成AIを使い始めたが、業務での使い方に不安がある人</li> <li>● ChatGPTに触ったことはあるが、業務活用に自信がない</li> <li>● ハルシネーションや情報漏洩リスクが気になり、使いこなせていない</li> <li>● AIエージェントの動作や仕組みを理解したい</li> <li>● これからAI活用を本格化させたい企業の担当者</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高安 篤史 合同会社コンサルランス 代表 中小企業診断士</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 6月10日(水) オンライン</li> <li>● 2026年 9月15日(火) オンライン</li> <li>● 2027年 1月27日(水) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 60,500円</li> <li>● 会員外 71,500円</li> </ul>



参加者の声 使い方や、いくつかを併用して比較することのメリットなど、使用していくにあたりためになりました。

プログラム	
1日 (9:30 ~ 16:30)	
<p>1 生成AIとAIエージェントの基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生成AIとは？（基本的な操作手法）</li> <li>● 生成AIツール比較（ChatGPT/Google Gemini/Copilot/Claude/Perplexityなど）</li> <li>● 生成AIの主な機能（ChatGPTを中心に機能説明：設定方法、共有、個別サイトなど）</li> <li>● ChatGPT利用プラン「アカウント未作成/アカウント作成済（無料/有料プラン（Plus、Business、Enterprise）」</li> <li>● 生成AIとAIエージェントの違い</li> </ul> <p>■参考情報</p> <p>下記は、講師が作成したChatGPT個別サイト「ものづくりDXのコンサルタント」です。無料版でもアカウントがあれば利用可能です（2025年10月現在）  <a href="https://chatgpt.com/g/g-k5I92UJ3s-monotukuridnokonsarutanto">https://chatgpt.com/g/g-k5I92UJ3s-monotukuridnokonsarutanto</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロンプト（入力文/指示文）の作成方法</li> </ul>	<p>4 生成AI(ChatGPT)の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 議事録/報告作成（含む会議の内容評価/曖昧な内容の明確化）</li> <li>● 企画書/提案書作成（Q&amp;Aからの企画書/提案書作成）</li> <li>● プレゼンテーション資料作成（リバーポイント作成ツールとの連携）</li> <li>● 業務改善（アプリの作成、データ分析、AI会議など）</li> <li>● 仕様のチェック/設計書の作成</li> </ul> <p>5 AIエージェントの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● AIエージェントのツール比較</li> <li>● ChatGPTエージェントモードで出来ること</li> <li>● AIエージェントの動作解説</li> <li>● AIエージェントの今後の進化（PC以外の生産設備などへの移行）</li> </ul> <p>6 プロンプト作成演習（企画書、議事録、プレゼン、業務改善等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 前章までの活用方法を踏まえ、受講者によるプロンプト作成演習を実施</li> <li>● 企画書、議事録、プレゼン、業務改善等のテーマは受講者により選択</li> <li>● 実施した結果を受講者間で共有（共有リンクの送付）</li> <li>● 結果に対する講師講評</li> </ul> <p>注) 生成AIの環境は、事前にセットアップ方法に関する資料をお送りしますので、受講者側で準備していただきます。もし、環境が準備できない場合は、Zoomのチャットにてプロンプト内容を講師に送付していただき、講師がChatGPTなどの生成AIを画面共有にて動作させることが可能です。</p> <p>注) 当カリキュラムは、2026年1月時点での生成AI/AIエージェントの環境/仕様のもとに作成されており、今後の生成AIの進展などにより、変更される場合があります。あらかじめ、ご了承ください。</p>



世の中には多くのインストラクター（講師）養成講座がありますが、社内技術研修に特化した講師を育成する研修はこれまでほとんど存在していませんでした。社内技術研修は、単なる知識・スキルの共有にとどまらず、社内で培われた独自の技術・技能・知恵を次世代へ継承しつつ、業界標準の技術にも対応するという、非常に重要な役割を担っています。しかし、多くの技術者は現場ではエキスパートや管理職である一方、「教える」ためのスキルを体系的に学ぶ機会が限られています。技術者が持つ専門知識・知恵や経験を最大限に活かしながら、効果的な講義や演習の方法を学びます。技術研修の質を高め、組織全体の技術力向上を実現する第一歩として、ぜひこの研修をご利用ください。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内にて技術研修インストラクターを担当される方</li> <li>● 技術研修を扱う研修講師としての基本的知識・基礎技術を習得したい方</li> <li>● 部下や後輩を育成・指導する立場にある方</li> <li>● 社内にある技術的な知見やノウハウを伝えて継承したい方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日比 慶一 株式会社ディアレスト・パートナー 代表取締役</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年 7月 8日(水)～10日(金) 東京</li> <li>● 2026年10月14日(水)～16日(金) 東京</li> <li>● 2027年 1月13日(水)～15日(金) 東京</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 170,500円</li> <li>● 会員外 192,500円</li> </ul>

プログラム	
3日間 (10:00 ~ 17:00)	
<p>1 イントロダクション</p> <p>2 技術研修インストラクターの基本</p> <p>3 研修設計の基本的な方法</p> <p>4 演習 研修プランの設計</p> <p>5 研修の事前準備</p> <p>6 研修運営の方法とインストラクターの実技</p> <p>7 技術研修インストラクターの基本</p> <p>8 演習 プレゼンテーションの実践</p> <p>9 技術研修ならではの工夫と留意点</p> <p>10 総合演習 研修登壇の実践演習</p>	<p>11 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修のまとめと振り返り</li> <li>● グループでの振り返り</li> <li>● 講師からの全体講評とアドバイス</li> <li>● 実践演習でのフィードバックをもとにアクションプランを作成</li> <li>● 質疑応答、ほか</li> </ul> <p>12 研修後フォロー 研修効果測定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事後アンケートによる研修での学びの振り返り</li> <li>● セルフチェックシートによる研修前と後での成長度の自己評価と今後のスキルアップ目標の設定</li> </ul>



知財戦略という言葉は耳にするものの「結局何だかよく分からない」「自分の業務との関わりが実感できない」という研究開発者の方は少なくないかもしれません。単に「特許の出願を（時々）すればよい」「他社の特許を（とりあえず）読めばよい」というステータスを越えて、その先の、企業で特許・知財に取り組むことの意義を、改めてしっかり考えてみませんか？

本セミナーでは、企業での知財マネジメントに精通する講師が、知財戦略のイロハから中級者向けのポイントまで、演習や具体例も交えて、分かりやすく解説します。

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これから知財戦略を学びたい技術者・スタッフの方々</li> <li>● 「知財戦略」以前学んだ方で再度、学びなおしたい方</li> </ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加藤 実 加藤弁理士事務所 代表 弁理士</li> </ul>
会期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2026年12月 8日(火) オンライン</li> </ul>
参加料(税込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1名につき 法人会員 30,250円</li> <li>● 会員外 35,750円</li> </ul>

プログラム	
半日 (13:30 ~ 17:00)	
<p>0 はじめに 知財戦略とは</p> <p>1 知財戦略の基本 知財による事業貢献</p> <p>2 事業戦略・研究開発戦略との相関</p> <p>3 事業上の立ち位置と知財戦略</p> <p>4 目的に応じた知財情報分析</p> <p>5 自社の強みを築く特許取得と活用</p> <p>6 自社の弱みを除く他社特許対応</p> <p>7 研究開発が関わる知財契約の要点</p> <p>8 社内外の連携とコミュニケーション</p>	

# 58 BtoBにおける知財トラブル予防策&対処策セミナー NEW ID152569 半日

BtoBビジネスでは技術的な性能・効果が製品の訴求力に直結することが多く、顧客の技術サポートも必要で、研究開発と事業の距離が近い傾向にあるため、知財の課題がビジネスにどう影響するかを十分に理解し、適切に取り扱うことが、知財担当者や研究開発担当者にとって非常に重要です。

本セミナーでは、BtoBビジネスに求められる知財戦略の全体像に触れた後、各論として、顧客企業との協業に至るまでの流れに沿って、各段階での課題を整理し、留意すべきポイントと具体的な対処法を、演習なども交えて検討していきます。各種契約での知財条項の要点や参考裁判例の紹介も含めて、実務に役立つ内容といたします。

対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>BtoBビジネスに携わる企業・組織の担当者や関係者を対象にしています。</li> <li>知的財産部門ならびに研究・開発部門のスタッフ・技術者・管理者の方々</li> </ul>
講 師	加藤 実 加藤弁理士事務所 代表 弁理士
会 期	2026年11月19日(木) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 30,250円 会員外 35,750円

プログラム											
半日 (13:30~17:00)											
<b>1 BtoBビジネスのための知財戦略(概論)</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>BtoBビジネスの全体像から</li> <li>顧客との関係を考える</li> <li>競合との関係を考える</li> <li>上流・下流を含めて考える</li> </ul>											
<b>2 BtoBビジネスを支える知財活動(各論)</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>交渉前に検討すべきこと                             <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td>(1) 特許クリアランスの留意点</td> <td>(2) 自社特許取得上の留意点</td> </tr> <tr> <td>(3) ノウハウ保護管理の留意点</td> <td>(4) 技術ブランド活用の留意点</td> </tr> </table> </li> <li>交渉中に検討すべきこと                             <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td>(1) 顧客による特許出願への対処</td> <td>(2) 顧客からの特許保証要求への対処</td> </tr> <tr> <td>(3) 顧客からの特許リスト要求への対処</td> <td></td> </tr> </table> </li> <li>成約後に検討すべきこと                             <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td>(1) 自社/他社特許対応の継続</td> <td>(2) 顧客による代替品購入への対処</td> </tr> </table> </li> </ul>		(1) 特許クリアランスの留意点	(2) 自社特許取得上の留意点	(3) ノウハウ保護管理の留意点	(4) 技術ブランド活用の留意点	(1) 顧客による特許出願への対処	(2) 顧客からの特許保証要求への対処	(3) 顧客からの特許リスト要求への対処		(1) 自社/他社特許対応の継続	(2) 顧客による代替品購入への対処
(1) 特許クリアランスの留意点	(2) 自社特許取得上の留意点										
(3) ノウハウ保護管理の留意点	(4) 技術ブランド活用の留意点										
(1) 顧客による特許出願への対処	(2) 顧客からの特許保証要求への対処										
(3) 顧客からの特許リスト要求への対処											
(1) 自社/他社特許対応の継続	(2) 顧客による代替品購入への対処										

# 59 研究開発の段階から考える後発で勝つための知財戦略セミナー NEW ID152570 半日

技術を活かして後発でのビジネスを成功させるには、自社特有の強み・弱みに応じた最適な知財戦略を策定し、事業戦略・研究開発戦略に組み込むことが非常に重要です。知財戦略を現場で機能させるには研究開発部門の積極的な関わりが不可欠であり、研究開発の初期段階から戦略的な視点を持った取り組みが望まれます。

本セミナーでは、企業での知財マネジメントに精通する講師が「後発で勝つ」ために抑えておくべき知財戦略の考え方とポイントを、演習や具体例を交えて、分かりやすく解説します。

対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>後発型のビジネスに関連する企業・組織の担当者や関係者を対象にしています</li> <li>知的財産部門ならびに研究・開発部門のスタッフ・技術者・管理者の方々</li> </ul>
講 師	加藤 実 加藤弁理士事務所 代表 弁理士
会 期	2026年 6月18日(木) オンライン
参加料(税込)	1名につき 法人会員 30,250円 会員外 35,750円



プログラム	
半日 (13:30~17:00)	
<b>1 知財戦略の基本 —知財による事業貢献—</b>	<b>5 後発の強みを築く自社特許確保と活用</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業における知財の役割</li> <li>特許の性質による分類</li> <li>特許網の重要性</li> <li>価値ある特許とは</li> <li>知財ミックス戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後発に適した特許網とは</li> <li>発明の発掘が必要な理由</li> <li>権利化段階の工夫</li> <li>権利活用の考え方</li> <li>販促ツールとしての特許</li> </ul>
<b>2 事業戦略・研究開発戦略との相関</b>	<b>6 後発の弱みを除く他社特許対応</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>知財戦略における三位一体の意味</li> <li>事業・研究開発担当に必要な知財知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他社特許の分析手法</li> <li>障害度に応じた対処</li> <li>他社の公開特許の扱い方</li> </ul>
<b>3 後発の立ち位置と知財戦略</b>	<b>7 後発にとっての知財契約の要点</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>後発参入の類型</li> <li>知財面でのメリットとデメリット</li> <li>中長期の戦略策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知財契約の類型</li> <li>留意すべき条項と管理</li> </ul>
<b>4 後発にとっての知財情報分析</b>	<b>8 社内外の連携とコミュニケーション</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>業界の知財状況と開発動向の把握</li> <li>他社の特許網の把握</li> <li>特許情報を活かした研究開発</li> <li>他社の障害特許の把握</li> </ul>	





















**I S O**

# マネジメントシステム研修 プログラム一覧 (2026年4月～2027年3月)

分野	セミナーID	タイトル	期間	通常参加料(税込)/1名
				上段: 法人会員・JMAでISOの審査を受けている企業 下段: 会員外
品質 マネ ジ メ ン ト	JMA152360	基礎から学ぶISO9001規格解説セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA100408	ISO9001新任事務局セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA100049	ISO9001 経営者・幹部実務セミナー	半日	37,400円 41,800円
	JMA152956	ISO9001管理責任者セミナー	3時間	37,400円 41,800円
	JMA100443	ISO9001 内部監査員養成コース	2日間	90,200円 101,200円
	JMA100442	QMS/EMS内部監査員スキルアップセミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA22379	プロの審査員が使っている “コーチング”による 「内部監査」のヒアリング術・習得セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA100432	内部監査プロセス(実施方法)改善セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA100440	効果的な是正処置対策と“問題解決技法”実践セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA150697	“品質コンプライアンスの進め方”セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA22690	すぐ使える品質管理入門セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA151694	IATF16949対応 QMS内部監査員養成コース	1日	41,800円 47,300円

最新の情報は小会ホームページでご確認ください。 <https://school.jma.or.jp>

※東京開催…無印 大阪開催…  
 ※受講形態:通学…無印 受講形態:オンライン… 印























開催日											
2026年									2027年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
 9(木)	29(金)		 22(水)		 14(月)	27(火)		 4(金)		 19(金)	
		 19(金)				 5(月)			 18(月)		
							 25(水)				
											 9(火)
	21(木) } 22(金)	16(火) } 17(水)	 2(木) } 27(月) } 3(金) } 28(火)		7(月) } 8(火)	20(火) } 21(水)	 26(木) } 27(金)	1(火) } 2(水)	28(木) } 29(金)	25(木) } 26(金)	
 14(火)				24(月)					 12(火)		
		19(金)			30(水)		 18(水)			16(火)	
		 2(火)								 10(水)	
								17(木)			
			 8(水)							 3(水)	
								11(金)			
				 3(月)		9(金)					24(水)

\* 各事業終了時の消費税率を適用させていただきます。会期、受講形態、内容など変更の可能性もありますので、ご了承ください。

# マネジメントシステム研修 プログラム一覧 (2026年4月～2027年3月)

分野	セミナーID	タイトル	期間	通常参加料(税込)/1名
				上段：法人会員・JMAでISOの審査を受けている企業 下段：会員外
品質 マネジメント	JMA100656	自動車産業品質マネジメント規格 IATF16949理解促進コース	2日間 (選択可)	79,200円(2日間) 91,300円(2日間) 41,800円(1日) 47,300円(1日)
環境	JMA152361	基礎から学ぶISO14001規格解説セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA100438	ISO14001新任事務局セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA100435	ISO14001内部監査員養成コース	2日間	90,200円 101,200円
	JMA100433	「環境法規制」セミナー	1日	41,800円 47,300円
	JMA152920	環境・サステナビリティの超入門セミナー	1日	41,800円 47,300円
労働安全	JMA150794	労働安全衛生法規制セミナー	1日	41,800円 47,300円
BCP	JMA100556	ここからはじめるBCP(事業継続計画)セミナー <入門編>	1日	41,800円 47,300円
	JMA100557	次にやることBCP(事業継続計画)セミナー <深掘り編>	半日	37,400円 41,800円
情報セキュリティ	JMA100426	ISMS理解促進コース (情報セキュリティマネジメントシステム)	2日間 (選択可)	79,200円(2日間) 91,300円(2日間) 41,800円(1日) 47,300円(1日)
	JMA100425	ISMS内部監査員養成コース	2日間	90,200円 101,200円

最新の情報は小会ホームページでご確認ください。 <https://school.jma.or.jp>

開催日											
2026年									2027年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		 11(木) } 12(金)	 23(木) } 24(金)			6(火) } 7(水)	 11(水) } 12(木)			 16(火) } 17(水)	
	11(月)						20(金)				
		 18(木)			 2(水)						
		 4(木) } 5(金)				29(木) } 30(金)		 21(月) } 22(火)	28(木) } 29(金)		
	 19(火)		 17(金)		 29(火)		 18(水)			 9(火)	
					 4(金)					 15(月)	
		16(火)						8(火)			
		 10(水)		24(月)			 6(金)			15(月)	
					 17(木)						 2(火)
			 2(木) } 3(金)			 22(木) } 23(金)				 4(木) } 5(金)	
		11(木) } 12(金)			17(木) } 18(金)		26(木) } 27(金)			18(木) } 19(金)	

\* 各事業終了時の消費税率を適用させていただきます。会期、受講形態、内容など変更の可能性もありますので、ご了承ください。

# マネジメントシステム研修のおすすめセミナー

プロの審査員が使っている“コーチング”による

JMA 22379

## 1日 「内部監査」のヒアリング術・習得セミナー

- ◆ 内部監査で「良い質問」ができるための着眼点を学びます。
- ◆ 内部監査におけるヒアリング術のポイントを学びます。
- ◆ 内部監査を相互の対話の場として捉え、活発化のための「コミュニケーション術」のポイントを学びます。

- 対象**
- 内部監査員
  - ISO管理責任者
  - ISO推進事務局
  - その他、実践的な「内部監査」の手法を学びたい方

- 会期**
- 2026年 6月19日(金) [東京]
  - 2026年 9月30日(水) [東京]
  - 2026年11月18日(水) [大阪]
  - 2027年 2月16日(火) [東京]

**講師** 田中 辰幸 合同会社FSマネジメント 代表社員

**開催地** 【東京】日本能率協会・研修室  
【大阪】AP大阪梅田東

参加料 (税込)	通常参加料/1名
日本能率協会法人会員	41,800円/1名
JMAでISO審査を受けている企業	41,800円/1名
上記会員外	47,300円/1名

※テキスト(資料)費が含まれております。

**プログラム** 10:00~17:00(昼休み/12:00~13:00)

### 1 内部監査の基礎知識

- 内部監査の位置づけについて
- 内部監査の構造を理解する
- 柔軟性のある監査ストーリー

### 2 コーチングコミュニケーション

“一緒に考える” 内部監査員のマインドを理解する

- 良いコミュニケーションの条件とは
- コーチングとは
- 質問の流れ (GROWモデル)
- 聴き方の違いによる話し手の影響
- 相手が話しやすい5つのポイント
- 聴いてもらうことの効果

### 3 内部監査のロールプレイ

指摘しっぱなしで終わらない!  
効果的な是正処置を生み出す内部監査

- 被監査側が自らの原因や  
解決策に気づくことをサポートする内部監査
- 実践と振り返り

※内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

## 1日 環境・サステナビリティの超入門セミナー

JMA 152920

ESGやサステナビリティという言葉は知っていても「自分の業務とどう関係するのか」と問われると、自信がない方も多いのではないのでしょうか。本セミナーでは、ESG・SDGs・サステナビリティの基本的な意味と背景、企業経営や日常業務とのつながりを整理し、「自分事として理解し、自分の言葉で説明できる」レベルをめざします。

- 会期**
- 2026年 9月 4日(金) [オンライン]
  - 2027年 2月15日(月) [オンライン]

**講師** 中川 優 (株)オフィスグラビティー 代表取締役社長  
(一社)日本能率協会 EMS主任講師

参加料 (税込)	通常参加料/1名
日本能率協会法人会員	41,800円/1名
JMAでISO審査を受けている企業	41,800円/1名
上記会員外	47,300円/1名

※テキスト(資料)費が含まれております。

**プログラム** 10:00~17:00(昼休み/12:00~13:00)

### 1 環境・サステナビリティの全体像を掴む

### 2 初めてでも分かる「基本用語」の徹底解説

### 3 環境・サステナビリティの最新動向

- 日本の状況
- 海外の状況

### 4 テーマ別/業界別の関連用語の背景や関連について

- ① 国際規格 (例: ISO14001、26000等)
- ② 環境目的 (例: SBT、GC等)
- ③ 情報開示 (例: SSBJ、SASB、GRI、TCFD等)
- ④ 購買・運用 (例: RE100、FSC、RSPO等)
- ⑤ サプライチェーン (Eco Vadis、RBA等)

### 5 企業事例

### 6 グループ討議

(環境・サステナビリティ部門の要員に求められる力量)

※内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

# 1日 QMS/EMS内部監査員スキルアップセミナー

JMA 100442



本来、ISOマネジメントシステムの内部監査は経営課題解決、業務課題・業務品質改善のために極めて効果的な活動です。しかし、実態は、“規格が要求しているから…”、“審査で確認されるから、認証維持のためには仕方ない…”といった、後ろ向きな姿勢で実施されている実態も見受けられます。このため、監査員自身の役割認識・力量も十分でなく、本来の効果が発揮されない“セレモニ一的”活動にとどまっていられないでしょうか。組織全体の内部監査の効果を高めるためには、「内部監査員の役割認識・力量向上」、「内部監査手順の有効性向上」、「被監査側の是正処置・改善スキル向上」の3つの要素が重要です。本セミナーでは、「内部監査員の役割認識・力量向上」に焦点をあて、本来業務に関わる課題・問題解決に向けて、「改善提案ができる」内部監査員を養成することをねらいとしています。

**対象** “内部監査の効果・意義”について課題・問題を抱えている組織のISO推進事務局責任者・管理者、内部監査員、各部門推進担当者

**会期** ● 2026年 4月14日(火)【オンライン】  
● 2026年 8月24日(月)【東京】  
● 2027年 1月12日(火)【オンライン】

**講師** 宮澤 武 (一社)日本能率協会 QMS/EMS主任講師

**開催地** 【東京】日本能率協会 研修室 / 【オンライン】

参加料 (税込)	通常参加料/1名
日本能率協会法人会員	41,800円/1名
JMAでISO審査を受けている企業	41,800円/1名
上記会員外	47,300円/1名

※テキスト(資料)費が含まれております。

**プログラム** 10:00~17:00(昼休み/12:00~13:00)

- 1 内部監査プロセスにおける内部監査員の役割**
  - 内部監査プロセスにおける内部監査員の役割
  - ISO運用組織にありがちな内部監査の課題・問題
  - 組織全体の内部監査の効果を高めるための3つの要素
- 2 QMS/EMSの本質と優先的改善ポイント (内部監査での着目ポイント)**
  - QMS/EMSは業務改善を確実に推進するための仕組み
  - 規格の構造と求めるもの
  - QMS/EMS運用組織に見られる優先改善ポイント
  - 内部監査では何を見るか (適合性・有効性・効率性、被監査部門のPDCA発揮状況)
  - “プロセスアプローチ型”、“原因系”内部監査で問題・課題発見力を高める
- 3 監査スキルの向上のために**
  - 内部監査プロセスと監査員の力量要素
    - 監査目的及び被監査部門の状況に即したチェックリスト作成
    - 効果的なコミュニケーション&インタビュー技法
    - 監査所見・監査報告書の作成
    - 是正処置・改善策の評価
- 4 監査所見=不適合/観察事項(改善の機会)の記述方法**
  - “何を”、“どうすればよいか”が容易に理解できる記述
    - (読み手) 被監査部門の立場になって記述
    - (MRのインプットとして) 第三者にも課題・問題が理解できる記述
- 5 ケーススタディによる監査所見の記述** 演習1
- 6 是正処置・改善策の評価のポイント**
  - 「修正」と「是正処置」の違い
  - 「根本原因」、「有効な是正処置」かを見極めるポイント
  - 管理レベルの向上につながる処置・対策
- 7 ケーススタディによる是正処置評価** 演習2

※内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

# 1日 “品質コンプライアンスの進め方”セミナー

JMA 150697



企業の品質データ改ざん、不正検査結果の報告等は、なかなかくならない大きな問題です。それらが行われていた場合、原因を徹底的に究明し、再発防止策を講じなければならないのは当然ですが、そもそもそのような問題を未然に防ぐことできないのでしょうか？「ISO9001(品質マネジメントシステム):2015年版のプロセスアプローチの考え方」は、その解決策の一つとされています。本セミナーは、品質コンプライアンスを徹底するために、ISO9001:2015をいかにツールとして活用するか、を考えていただくことを目的に開催いたします。

**対象** ● 経営幹部  
● 品質保証部・コンプライアンス関連部門(総務部・法務部・監査室)の責任者・実務担当者  
● 工場・事業所の責任者・実務担当者

**会期** ● 2026年 7月 8日(水)【オンライン】  
● 2027年 2月 3日(水)【オンライン】

**講師** 小林 久貴 (株)小林経営研究所 代表取締役

参加料 (税込)	通常参加料/1名
日本能率協会法人会員	41,800円/1名
JMAでISO審査を受けている企業	41,800円/1名
上記会員外	47,300円/1名

※テキスト(資料)費が含まれております。

**プログラム** 10:00~17:00(昼休み/12:00~13:00)

【ガイダンス】

- 1 品質コンプライアンス違反を引き起こす 4つのオーバー (4over)**
- 2 品質コンプライアンス違反を止められない 3つのパッド (3bad)**
- 3 4オーバー・3パッドへの対応方法**
- 4 品質マネジメントシステムへの展開**
- 5 プロセスアプローチの考え方**
- 6 品質コンプライアンスリスク分析**
- 7 品質コンプライアンスにおけるプロセスアプローチの活用**
- 8 プロセスアプローチ監査の有効活用**

質疑応答

※内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

— 貴社への講師派遣・社内研修を企画いたします —

# ものづくり人材育成ソリューションサービス

## ◆ものづくりソリューションとは

一般社団法人日本能率協会では、設立当初（1942年）より常に、ものづくりに関わるあらゆる人材育成支援活動を展開して参りました。この長年のノウハウを生かし、お客様の経営課題・ものづくり部門課題をワンストップで解決するための研修やアセスメント評価などの支援業務、人材育成や制度・組織改革などのソリューション（課題解決）サービスを提供しています。

## こんなお悩みはありませんか？

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 自社の課題にあった内容で研修したい                  | <input checked="" type="checkbox"/> アナログものづくりからデジタルものづくりへの改革支援を受けたい            |
| <input checked="" type="checkbox"/> 部門・階層等に研修を実施して、一気に課題解決やスキルアップを図りたい | <input checked="" type="checkbox"/> IoT、AI、ロボット等を工場に導入するにあたって、コンサルティング・支援を受けたい |
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部講師を招聘して、意識改革をしたい                 | <input checked="" type="checkbox"/> 新工場・新ラインの垂直立ち上げ、コンサルティング・支援を受けたい           |
| <input checked="" type="checkbox"/> 社内講師では研修しづらいテーマの講師派遣で研修をしたい        | <input checked="" type="checkbox"/> 現場改善のコンサルティング・支援を受けたい                      |

## お問い合わせの多い課題・テーマ

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| ● 品質管理体制の強化                 | ● 原価管理・全社コストダウン展開        |
| ● デジタル人材の育成                 | ● 現場改善手法の習得              |
| ● デジタル技術（AI、ビッグデータ、IoT等）の活用 | ● 研究・開発成果の製品化・事業化率の向上    |
| ● 生産技術力の向上                  | ● コミュニケーション力の向上          |
| ● 新製品開発力の強化・開発スピードの向上       | ● 調達品の品質確保・品質管理          |
| ● 設備効率の向上、生産設備の開発・導入・見直し    | ● ヒューマンエラー対策             |
| ● 生産管理システムの改善・見直し           | ● 各種コンサルティング（原価管理、購買・調達） |

## 社内研修事例

### 次世代ものづくり中核人材育成研修

- 次世代経営者候補者研修
- 生産プロセス・デザイン革新リーダー研修
- 生産プロセス改善リーダー育成研修（国内工場リニューアル）等

### ものづくり部門階層別研修

- 工場長研修
- ライン部長候補者研修
- 製造部門係長研修 等

### 現場課題解決研修

- 貴社オリジナル5S研修
- 技術者のための英語力向上（技術英語）研修
- 生産・技術者のための原価管理研修
- 品質保証実践研修 等

### 資格試験対策研修

- CPP（調達プロフェッショナル認定資格）試験対策セミナー（A級）（B級）
- CPE（生産技術者マネジメントスキル認定資格）試験対策セミナー
- CPF（第一線監督者マネジメントスキル認定資格）試験対策セミナー

貴社課題・テーマに合わせた、研修、講演、コンサルティング、制度構築等、様々な実施形態のご相談を承ります。下記までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：一般社団法人日本能率協会 ものづくりソリューション担当

TEL：03-3434-1410 E-mail：mono-solution@jma.or.jp

<https://mono-solution.com/>

JMA ものづくりソリューション

検索

# よくある質問



JMAマネジメントスクール

お問い合わせ

03-3434-6271

<https://school.jma.or.jp/contact/>

受付時間 月～金曜日 9:00～17:00 (祝日を除く)

## Q1 申込みをすると、どのような手続きが行われるのでしょうか？

- A** お申込みから開催日までの流れは以下のとおりです。
- ①お申込み**  
まずはホームページへアクセス!!  
<https://school.jma.or.jp/>
  - ②受付**  
ホームページでお申込みを受付けます。
  - ③事務手続き**  
開催約1ヶ月前より受講案内、請求書をお送りいたします。
  - ④参加料のお支払い**  
請求書記載の「お支払い期限」までに指定の銀行口座へお振込みください。(振込手数料は貴社にてご負担ください。)
  - ⑤開催当日**  
会場参加の方は、参加証と名刺をご持参ください。  
オンライン参加の方は、事前にご案内のURLよりアクセスください。

## Q2 申込みの締切日はありますか？

- A** お申込みは先着順となっておりますので定員に達し次第、締め切らせていただいております。

## Q3 参加料の振込みが開催日までに間に合わないのですが、参加できますか？

- A** 参加できます。  
「お問い合わせフォーム」より、振込予定日をご連絡ください。

## Q4 領収書は発行されますか？

- A** 銀行振込受領書(振込明細書)にかえさせていただきます。

## Q5 申込者が参加できなくなりました。代理人が参加することはできますか？

- A** できます。  
代理の方のお名前とメールアドレスを事前に「お問い合わせフォーム」よりご連絡ください。

## Q6 参加日を変更することはできますか？

- A** 1回に限り可能といたします(但し、2026年4月1日～2027年3月31日会期に限る)。  
開催7日前より、日程変更手数料が発生いたしますのでご注意ください。  
なお、開催当日の日程変更は受け付けておりません。  
※一部のセミナーにおいて上記規定と異なる場合がございますので、ご確認のうえお手続きをお取りいただけますようお願い申し上げます。

## Q7 宿泊の手配をお願いすることは可能でしょうか？

- A** 恐れ入りますが、宿泊が必要な場合は各自で手配をお願いいたします。(※一部宿泊付きセミナーもございます。)

## Q8 開催中止になることはありますか？

- A** 悪天候・災害発生時は開催を中止させていただきます。また、お申込みが最少催行人数に満たない場合も開催を中止させていただきます。  
※最少催行人数は各セミナーの個別ページをご覧ください。

## Q9 講師派遣による社内教育はできますか？

- A** はい。可能でございます。  
※お問い合わせフォームよりご連絡ください。

## Q10 自社の課題に応じた研修を提案いただけますか？

- A** はい。お客様の抱える課題に合わせて提案いたします。  
※お問い合わせフォームよりご連絡ください。

## Q11 キャンセルする場合、キャンセル料はかかりますか？

- A** キャンセル料はお振込の有無にかかわらず下記のとおりです。

キャンセルのご連絡日	キャンセル料	日程変更手数料 *2026年4月1日～2027年3月31日 期間の開催一回限り変更受付
開催15日前～開催8日前 (開催日当日を含まず)	参加料の10%	無料
開催7日前～前々日 (開催日当日を含まず)	参加料の30%	合宿：11,000円(税込) 通い：5,500円(税込)
開催日 前日	参加料の全額	合宿：宿泊費全額 通い：7,700円(税込)
開催日 当日	参加料の全額	*日程変更は受け付けておりません。 参加料の全額を申し受けます。

※日程変更手数料・合宿費は、消費税を含みます。

無断でご欠席された場合も参加料の100%を申し受けます。  
※一部のセミナーにおいて上記キャンセル規定と異なる場合がございますので、ご確認のうえお手続きをお取りいただけますようお願い申し上げます。

## Q12 参加にあたり業界・業種による制限はありますか？

- A** あります。申し訳ございませんが一部セミナーにおいては同業の方、コンサルタント業の方のご参加はご遠慮いただいております。  
また、一部のセミナーにおいて業種・役職制限を設定している場合がありますので、ご確認のうえお申込みくださいますようお願い申し上げます。

個人情報等保護方針はこちらからご確認いただけます

<https://www.jma.or.jp/privacy/>

■ **本部**

〒105-8522  
東京都港区芝公園3-1-22  
日本能率協会ビル  
TEL: 03-3434-1410

■ **関西事務所**

〒530-0001  
大阪府大阪市北区梅田1-8-17  
大阪第一生命ビルディング 6階  
TEL: 06-4797-2050

■ **中部事務所**

〒450-6036  
愛知県名古屋市中村区名駅1丁目1-4  
JRセントラルタワーズ 36F  
TEL: 052-581-3271

日本能率協会

<https://www.jma.or.jp/>



〒105-8522  
東京都港区芝公園3-1-22  
TEL: 03-3434-6271

交通案内

■ **電車**

- 地下鉄 日比谷線「神谷町駅」3番出口 徒歩7分
- 地下鉄 都営三田線「御成門駅」A1出口 徒歩5分
- 都営 浅草線・大江戸線「大門駅」A6出口 徒歩12分
- JR線「浜松町駅」北口出口 徒歩15分

■ **タクシー**

- 「東京駅」から約20分
- 「浜松町駅」から約5分

日本能率協会 関西事務所

<https://www.jma.or.jp/kansai>



〒530-0001  
大阪府大阪市北区梅田1-8-17  
大阪第一生命ビルディング6階  
TEL: 06-4797-2050

交通案内

■ **電車**

- 阪神線「大阪梅田駅」徒歩1分
- 大阪メトロ 四つ橋線「西梅田駅」徒歩2分
- JR線「大阪駅」中央口 徒歩2分
- JR線「北新地駅」徒歩4分
- 大阪メトロ 御堂筋線「梅田駅」徒歩5分
- 阪急線「大阪梅田駅」徒歩12分

日本能率協会 中部事務所

〒450-6036  
愛知県名古屋市中村区名駅1丁目1-4  
JRセントラルタワーズ36階  
TEL: 052-581-3271

交通案内

■ **電車**

- JR線「名古屋駅」直結
- 近鉄・名鉄「名古屋駅」
- 地下鉄「名古屋駅」

# 参加申込規定

## 参加申込方法

- 小会公式HPよりお申込みください(<https://school.jma.or.jp/>)。  
※ 貴社の情報セキュリティ方針等でwebからのお申込みが難しい方はJMAマネジメントスクールまでお電話(03-3434-6271)にてお問い合わせください。
- 参加証・請求書は開催1か月前から発送を開始いたします。なお、1か月以内のお申込みの際は、申込書受領後1週間ほどで参加証・請求書を発行いたします。
- 開催会場については、参加証送付の際にご案内いたします。
- 参加料は請求書に記載されており、「お支払い期限」までに指定の銀行口座へお振込みください。期限までにお支払いいただけないお客様については、ご参加いただけない場合がございますのでご注意ください。なお支払期日が過ぎてしまう場合は、お問い合わせフォーム(<https://school.jma.or.jp/contact/>)よりご連絡をお願いいたします。(振込手数料は貴社にてご負担ください)
- 参加定員等の関係でご参加いただけない場合や、開催内容に変更がある場合は別途、申込責任者の方へご連絡いたします。

## キャンセル規定

キャンセル料はお振込の有無にかかわらず下記のとおりです。

キャンセルのご連絡日	キャンセル料	日程変更手数料 *2026年4月1日~2027年3月31日 期間の開催一回限り変更受付
開催15日前~開催8日前 (開催日当日を含まず)	参加料の10%	無料
開催7日前~前々日 (開催日当日を含まず)	参加料の30%	合宿: 11,000円(税込) 通い: 5,500円(税込)
開催日 前日	参加料の全額	合宿: 宿泊費全額 通い: 7,700円(税込)
開催日 当日	参加料の全額	* 日程変更は受け付けておりません。 参加料の全額を申し受けます。

※ 日程変更手数料・合宿費は、消費税を含みます。

無断でご欠席された場合も参加料の100%を申し受けます。

※ 一部のセミナーにおいて上記キャンセル規定と異なる場合がございますので、ご確認のうえお手続きをお取りいただけますようお願い申し上げます。

## 個人情報のお取り扱いについて

一般社団法人日本能率協会では、個人情報の保護に努めております。小会の個人情報保護方針<https://www.jma.or.jp/privacy>をご確認ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本催し物に関する確認・連絡およびJMA主催の関連催し物のご案内をお送りさせていただく際に利用させていただきます。詳しくは下記に個人情報保護方針を掲載させていただいております。

## 免責事項

天災地変や感染症の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の小会が管理できない事由により研修内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、小会ではその責任を負いかねます。

## 注意事項

- 会場での撮影および録音機材のお持ち込みはお断わりいたします。
- 教育研修団体、経営コンサルタント、教育インストラクターの方のお申込みは、お断りする場合がございます。あらかじめご了承ください。

## 申し込み お問い合わせ先

一般社団法人日本能率協会 JMAマネジメントスクール  
〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22  
TEL (03) 3434-6271 受付時間 月~金曜日9:00~17:00  
FAX (03) 3434-5505 (ただし祝日を除く)  
E-mail [seminar@jma.or.jp](mailto:seminar@jma.or.jp) (URL:<https://school.jma.or.jp>)

● 本文中のアイコン説明 ●



通学



オンライン



通学もしくはオンライン

